

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
文芸基礎英語	文芸学部 専門基礎分野	2	1	1	英語の4技能をバランスよく上達させつつも、「読んで、考える」ことを重視する文芸学部の学生として、大学入学前までに身に付けた英訳読解力を前提とし、大学レベルの英語の文章を自分で読めるようになることをめざす。どの領域・専修に進んでも、領域・専修に関連する英語で書かれた文庫は多数存在する。それらを経験の助けを借りながら、自力で読めるようになれば、領域・専修における学習がさらに有意義なものになるはずである。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れられず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. 英語の基礎知識を十分に持っている。(リテラシー) 2. 基礎レベルの英語で書かれた文章を正しく読むことができる。(読解力) (分析力) (論理的思考力) 3. 基礎レベルの英文を読みながら、自分の文化と異文化を客観的に比較して、文化の違いによる価値観の違いを他者に十分に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 4. 本科目のグループワークでは、他者とよく協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 英語の基礎知識をある程度持っている。(リテラシー) 2. 基礎レベルの英語で書かれた文章を読むことで、書き手の言いたいことがある程度正しく理解できる。(読解力) (分析力) (論理的思考力) 3. 基礎レベルの英文を読みながら、自分の文化と異文化を客観的に比較して、文化の違いによる価値観の違いを他者に一定程度説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
文芸英語	文芸学部 専門基礎分野	2	1	1	英語の4技能をバランスよく上達させつつも、「読んで、考える」ことを重視する文芸学部の学生として、大学入学前までに身に付けた英訳読解力を前提とし、大学レベルの英語の文章を自力で読めるようになることをめざす。どの領域・専修に進んでも、領域・専修に関連する英語で書かれた文庫は多数存在する。それらを経験の助けを借りながら、自力で読めるようになれば、領域・専修における学習がさらに有意義なものになるはずである。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れられず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. 英語の4技能をバランスよく十分に上達させることができる。(リテラシー) 2. 基礎レベルを超えた英語で書かれた文章を正しく読むことで、書き手の言いたいことを十分に正しく理解できる。(読解力) (分析力) (論理的思考力) 3. 基礎レベルを超えた英文を読みながら、自分の文化と異文化を客観的に比較して、文化の違いによる価値観の違いを他者に十分に説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 4. 本科目のグループワークでは、他者とよく協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 英語の4技能をバランスよく上達させることができる。(リテラシー) 2. 基礎レベルを超えた英語で書かれた文章を読むことで、書き手の言いたいことをある程度正しく理解できる。(読解力) (分析力) (論理的思考力) 3. 基礎レベルを超えた英文を読みながら、自分の文化と異文化を客観的に比較して、文化の違いによる価値観の違いを他者に一定程度説明することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 4. 本科目のグループワークでは他者と協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
文芸基礎フランス語	文芸学部 専門基礎分野	2	1	1	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部所属する学生として、フランス語の4技能の基礎をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容(講義、会話、文法、作文、検定試験対策等)のトレーニングを行う。フランス語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化とフランス語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土壌を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れられず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. フランス語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(論理的思考力) 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. フランス語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。(論理的思考力) 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者と協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
文芸フランス語	文芸学部 専門基礎分野	2	1	1	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部所属する学生として、フランス語の4技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容(講義、会話、文法、作文、検定試験対策等)のトレーニングを行う。フランス語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化とフランス語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土壌を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れられず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(論理的思考力) 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。(論理的思考力) 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者と協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
文芸基礎中国語	文芸学部 専門基礎分野	2	1	1	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部所属する学生として、中国語の4技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容(講義、会話、文法、作文、検定試験対策等)のトレーニングを行う。中国語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化と中国語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土壌を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れられず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. 中国語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(論理的思考力) 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 中国語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。(論理的思考力) 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者と協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
文芸中国語	文芸学部 専門基礎分野	2	1	1	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部所属する学生として、中国語の4技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容(講義、会話、文法、作文、検定試験対策等)のトレーニングを行う。中国語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化と中国語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土壌を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れられず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. 中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。(論理的思考力) 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。(論理的思考力) 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。(分析力) (読解力) (リテラシー) 4. グループワークでは他者と協力することができる。(主体的関与) (リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
文芸基礎ドイツ語	文芸学部 専門基礎分野		2	1	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部所属する学生として、ドイツ語の4技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルの演習に臨みつつ、みずから関心や必要に応じた内容（講義、会話、文法、作文、検定試験対策）のトレーニングを行う。ドイツ語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表明する力を培う。それと同時に自国の文化とドイツ語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. ドイツ語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. ドイツ語の初級から中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（分析力）（論理的思考力） 3. ドイツ語圏の文化に関する基礎的で一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。（洞察力）（リテラシー） 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. ドイツ語の初級から中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. ドイツ語の初級から中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。（分析力）（論理的思考力） 3. ドイツ語圏の文化に関する基礎的で一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。（洞察力）（リテラシー） 4. グループワークでは他者と協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
文芸ドイツ語	文芸学部 専門基礎分野		2	1	「読んで、考える」ことを重視する文芸学部所属する学生として、ドイツ語の4技能をバランスよく身につける。具体的には、初級レベルのみならず必要に応じて中級レベルの内容（講義、会話、文法、作文、検定試験対策）について、十分にトレーニングを行う。ドイツ語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表明する力を培う。それと同時に自国の文化とドイツ語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。さらに、言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観と、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。そこから、外国語学習によって日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。（分析力）（論理的思考力） 3. ドイツ語圏の文化に関する基礎的で一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。（洞察力）（リテラシー） 4. グループワークでは他者とよく協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用ができる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を行うことができる。（分析力）（論理的思考力） 3. ドイツ語圏の文化に関する基礎的で一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、最低限説明することができる。（洞察力）（リテラシー） 4. グループワークでは他者と協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
文芸基礎日本語(留学学生対象)	文芸学部 専門基礎分野		2	1	文芸学部で学修するために必要な日本語力を身につける。具体的には、(1) 平易な日本語で書かれた文学作品を自力で読めるようになることをめざす。(2) 平易な日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で読めるようになることをめざす。(3) 演習などで、平易な日本語で口頭発表することができるようになることをめざす。(4) 日本語で卒業論文を執筆できるように、表現力を身につける。そこから、日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. 平易な日本語で書かれた文学作品を自力で正確に読めるようになる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. 各領域・専修で使用される、日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で正確に読める。（分析力）（論理的思考力） 3. 演習などで、日本語で流暢に口頭発表することができる。（洞察力）（リテラシー） 4. 日本語で卒業論文を豊かな表現力で執筆できる。（洞察力）（リテラシー） 5. グループワークでは他者とよく協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 平易な日本語で書かれた文学作品を自力で読めるようになる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. 各領域・専修で使用される、日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で読める。（分析力）（論理的思考力） 3. 演習などで、日本語で口頭発表することができる。（洞察力）（リテラシー） 4. 日本語で卒業論文を執筆できる。（洞察力）（リテラシー） 5. グループワークでは他者と協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
文芸日本語(留学学生対象)	文芸学部 専門基礎分野		2	1	文芸学部で学修するために必要な日本語力を身につける。具体的には、(1) 日本語で書かれた文学作品を自力で読めるようになることをめざす。(2) 日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で読めるようになることをめざす。(3) 演習などで、高い文章表現を用いて、日本語で口頭発表することができるようになることをめざす。(4) 表現と文章構成を身につけて、日本語で卒業論文を執筆できるようにすることをめざす。そこから、日本語を客観的に捉える視点を獲得し、言語のメタ認知能力を高め、卒業論文・卒業制作を作成するための多角的な視野と、複眼的な思考の形成につながる。	1. 日本語で書かれた文学作品を自力で正確に読めるようになる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. 各領域・専修で使用される、日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で正確に読める。（分析力）（論理的思考力） 3. 演習などで、日本語で流暢に口頭発表することができる。（リテラシー） 4. 日本語で卒業論文を豊かな表現力で執筆できる。（洞察力）（リテラシー） 5. グループワークでは他者とよく協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 日本語で書かれた文学作品を自力で読めるようになる。（幅広い教養）（専門的知識） 2. 各領域・専修で使用される、日本語で執筆された各種のテキスト・資料を自力で読める。（分析力）（論理的思考力） 3. 演習などで、日本語で口頭発表することができる。（リテラシー） 4. 日本語で卒業論文を執筆できる。（洞察力）（リテラシー） 5. グループワークでは他者と協力することができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語リスニング演習A(ベーンシク)	文芸学部 専門基礎分野		1	1	音声レベルでのコミュニケーションは、話し手と聞き手で成り立つ。そのうち、聞き手の英語リスニング力の育成をめざす。そのためには、英語にはどのような音があるのか、音と音が結びつくことにより音変化が起こるか、英語の発音リズムとはどのようなものなのか、イントネーションと音節の関係はどのようなものなのか、など、音声学の基本的な知識を身につける必要がある。基本的な英語リスニングの練習を複数行うと共に、音声学の基本的な知識も身につける。	1. やさしい英文を音声で聞き取って、その内容を完全に正しく理解できる。（リテラシー）（洞察力） 2. 英語音声学の基本的な事象について、他者に十分に説明することができる。（幅広い教養）（専門的知識）	1. やさしい英文を音声で聞き取って、その内容を最低限正しく理解できる。（リテラシー）（洞察力） 2. 英語音声学で扱う基本的な事象について、他者に最低限説明することができる。（幅広い教養）（専門的知識）
英語リスニング演習B(ステップアップ)	文芸学部 専門基礎分野		1	1	「英語リスニング」で基本的な英語リスニング力の育成を行い、かつ、音声学の基本的な知識を身につけにみたつたのを受けて、「英語リスニング」より聞き取りが難しい英語が聞き取れるようになるよう多聴練習する。聞き取りが難しい英語とは、用いられている単語が基本単語に属していない場合、文が長い場合、やや複雑な文構造を持っている場合、話す速度が速い場合、文章の背景にある背景知識に依存する割合が高い英語などである。ある程度まとまった内容の英語の文章を聞き取って、話し手の言いたいことを的確に把握できるように練習に重点を置く。	1. やや高度な英文を音声で聞き取って、その内容を完全に正しく理解できる。（リテラシー）（洞察力） 2. 英語音声学の包括的な事象について、他者に十分に説明することができる。（幅広い教養）（専門的知識）	1. やや高度な英文を音声で聞き取って、その内容を最低限正しく理解できる。（リテラシー）（洞察力） 2. 英語音声学で扱う包括的な事象について、他者に最低限説明することができる。（幅広い教養）（専門的知識）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
英語スピーキング演習A(ベースック)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	初歩的な英語会話ができるようになることをめざす。そのためには、(1)読めばわかる単語（受信用語彙）のみならず、自分が自由に使いこなせる単語（発信用語彙）を増強すること、(2) 語と語のつながり（コネクション）の知識をふやすこと、(3) 英語の基本的な文法形式に慣れること、(4) 相手の英語を正確に聞き取り、内容を正しく理解できること、などの言語的能力のみならず、(5) 場面にふさわしい適切な話題を見つけること、(6) 離れず相手と会話できる社交性、なども必要不可欠である。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語（lingua franca）としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、会話の相手が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語会話を見直す態度も大切である。	1. 自信を持って英語で会話することができる。（リテラシー） 2. 相手の英語を正しく聞き取って、その内容を正確に理解することができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. その場にふさわしい話題を、素早く見つけることができる。（幅広い教養）（専門的知識）	1. 英語で最低限の会話することができる。（リテラシー） 2. 相手の英語を聞き取って、その内容をおおよそ理解することができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. その場にふさわしい話題を見つけることができる。（幅広い教養）（専門的知識）
英語スピーキング演習B(ステップアップ)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	本科目の目的は、「英語スピーキング演習Ⅰ」のそれと同一である。「英語スピーキング演習Ⅰ」より高度な英語会話力を身につけることをめざす。	1. 流暢に英語で会話することができる。（リテラシー） 2. 会話の流れを崩すことなく、相手の英語を聞き取って、その内容を正確に理解することができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. 会話に必要な言語的知識が豊富で、その知識を活用することにより、その場にふさわしい話題を、素早く見つけることができる。（幅広い教養）（専門的知識）	1. 会話の流れを止めることなく、英語で会話することができる。（リテラシー） 2. 相手の英語を聞き取って、その内容を理解することができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. 会話に必要な言語的知識を持ち、その知識を活用することにより、その場にふさわしい話題を見つけることができる。（幅広い教養）（専門的知識）
英語ライティング演習A(ベースック)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	基本的な英語を用いて、自分の言いたいことを書けるようになることをめざす。そのためには、(1) 読めばわかる単語（受信用語彙）のみならず、自分が自由に使いこなせる単語（発信用語彙）を増強すること、(2) 語と語のつながり（コネクション）の知識をふやすこと、(3) 英語の基本的な文法形式に慣れること、などの言語的能力のみならず、(5) 自分が言いたい（書きたい）ことを頭の中できちんと整理できること、(6) 自然な流れを崩さず（すなわち論理的に）自分の言いたいことを読者に伝えられるような文章を書けること、なども必要不可欠である。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語（lingua franca）としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、読者が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英文文を見直す態度も大切である。	1. 自信を持って英語で文章を書くことができる。（リテラシー） 2. 常に読者を意識して、読みやすい文章を英語で書くことができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. 大学生としてふさわしい話題を持っており、その知識を活用して英語で文章を書くことができる。（幅広い教養）（専門的知識）	1. 自信を持って英語で文章を書くことができる。（リテラシー） 2. 常に読者を意識して、読みやすい文章を英語で書くことができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. 大学生としてふさわしい話題を持っており、その知識を活用して英語で文章を書くことができる。（幅広い教養）（専門的知識）
英語ライティング演習B(ステップアップ)	文芸学部 専門基礎分野	1	1	本科目の目的は、「英語ライティング演習Ⅰ」のそれと同一である。「英語ライティング演習Ⅰ」より高度な英文文力をつけることをめざす。	1. 自信を持って、世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で文章を書くことができる。（リテラシー） 2. 常に読者を意識して、自分の言いたいことが読者に伝わりやすい文章を英語で書くことができる。（リテラシー）（洞察力）（分析力） 3. 大学生としてふさわしい話題を豊富に持ってあり、その知識を大いに活用して英語で文章を書くことができる。（幅広い教養）（専門的知識）	1. 世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で文章を書くことができる。（リテラシー） 2. フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用に習熟することができる（専門的知識）。 3. 入門レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（リテラシー）。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる（洞察力）。
フランス語会話Ⅰ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	大学ではじめて触れるフランス語を学ぶ楽しさを実感する。「聴くこと、話すこと」を中心に、実践的なフランス語のコミュニケーション能力が身につく。簡単なあいさつから始まり、フランス旅行会話や日常生活などの身近な場面を想定して練習することで、自然なフランス語の運用能力の獲得を目指す。フランス語を初めて学ぶ学生のための授業で、教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1. フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（幅広い教養）。 2. フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（専門的知識）。 3. 入門レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（リテラシー）。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる（洞察力）。	1. フランス語の入門レベルの会話で簡単な文を最低限、理解することができる（幅広い教養）。 2. フランス語の入門レベルの実践的な口語の運用ができる（専門的知識）。 3. 入門レベルのフランス語会話に参加することができる（リテラシー）。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を説明することができる（洞察力）。
フランス語会話Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	大学ではじめて触れるフランス語を学ぶ楽しさを実感する。「聴くこと、話すこと」を中心に、実践的なフランス語のコミュニケーション能力が身につく。簡単なあいさつから始まり、フランス旅行会話や日常生活などの身近な場面を想定して練習することで、自然なフランス語の運用能力の獲得を目指す。フランス語を初めて学ぶ学生のための授業で、教養教育科目の「基礎フランス語（入門）」を併修する。あるいは同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1. フランス語の入門から進んだレベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（幅広い教養）。 2. フランス語の入門から進んだレベルの実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（専門的知識）。 3. 入門から進んだレベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（リテラシー）。 4. 入門から進んだレベルの口語表現から、フランス語の特徴をよく説明することができる（洞察力）。	1. フランス語の入門から進んだレベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（幅広い教養）。 2. フランス語の入門から進んだレベルの実践的な口語の運用に習熟することができる（専門的知識）。 3. 入門から進んだレベルのフランス語会話に参加することができる（リテラシー）。 4. 入門から進んだレベルの口語表現から、フランス語の特徴を説明することができる（洞察力）。
ギリシア語Ⅰ	文芸学部 専門基礎分野	1	2	古典ギリシア語の初歩文法を学び、古代ギリシアの歴史に触れるための足がかりを得ることを目指す授業である。学部の歴史性の高い紀元前5～4世紀の都市国家アテナイで使われていた「アッティカ方言」と呼ばれるギリシア語である。教科書に沿って文法事項を順々に学び、練習問題をこなしながら、その意味、構造的な文法体系を習得していく。あわせて歴史理解に必要な文化的な背景についても理解を深めていく。人文科学の分野における学際性、と、人文学今日の意義を再考する土台を培う。文法面では文字の形、読み方から始まり、格変化という現象に慣れることに注目を置くことになる。声に出して学ぶ姿勢を身に付ける。	1. 学習した範囲の古典ギリシア語の初歩文法を習得し、運用できる（リテラシー） 2. 古典ギリシア語の歴史の理解に必要な文化的な背景について深く理解し、説明できる（幅広い教養） 3. 古典ギリシア語が人文科学分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる（専門的知識） 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる（洞察力）	1. 学習した範囲の古典ギリシア語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、運用できる（リテラシー） 2. 古典ギリシア語の歴史理解に必要な文化的な背景について基本的な事項を理解し、説明できる（幅広い教養） 3. 古典ギリシア語の文化的な価値について説明できる（専門的知識） 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的意義に思いを致すことができる（洞察力）

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
ギリシア語Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	2	古典ギリシア語の初歩文法を学び、古代ギリシアの原典に触れるための足がかりを得ることを目指す授業である。学ぶのは動詞の古い形元四百年前紀のギリシア語である。教科書に沿って文法事項を順々に学び、練習問題をこなしながら、その特徴、精微な文法体系を習得していく。あわせて原典理解に必要な文化的な背景についても理解を深めていく。人文学の諸分野における学際と、人文学の今日的な意義を考へる土壌を培う。文法面では格変化に加えて動詞の活用に関しむことが目標である。声に出して学ぶ効能を実感した履修者が、この学修法を深めていくことをも重視する。	1. 古典ギリシア語の初歩文法を習得し、適用できる（リテラシー） 2. 古典ギリシア語の原典理解に必要な文化的な背景について深く理解し、説明できる（幅広い教養） 3. 古典ギリシア語が人文学諸分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる（専門的知識） 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる（洞察能力）	1. 古典ギリシア語の初歩文法を記憶し、適用できる（リテラシー） 2. 古典ギリシア語の原典理解に必要な文化的な背景について基本的な事項を理解し、説明できる（幅広い教養） 3. 古典ギリシア語の文化的な価値について説明できる（専門的知識） 4. 古典ギリシア語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に思いを致すことができる（洞察能力）
ラテン語Ⅰ	文芸学部 専門基礎分野	1	2	ラテン語の基礎文法を学び、辞書を使って簡単なテキストを読める程度のレベルに到達することを目指す授業である。学ぶのは規範性の高い紀元前1世紀の「黄金期」のラテン語である。古代ローマ文化はヨーロッパ文化の源であり、ラテン語はそのローマの遺産の最も重要なものである。長い間ヨーロッパ文化の中心を担ってきた言葉として、また、ヨーロッパの種々の言語の「親」として、言語、文学、芸術を学ぶ人にとって重要なところで必要とされる言語でもある。教科書に沿って文法事項を習得しながら、原典理解に必要な文化的な背景についても理解を深め、人文学の諸分野における学際と、人文学の今日的な意義を考へる土壌を培う。格変化と動詞の活用の種類を学び、読法法の初歩について理解を深めていく。声に出して学ぶ効能を実感した履修者が、この学修法を深めていくことをも重視する。	1. 学習した動詞のラテン語の初歩文法を習得し、適用できる（リテラシー） 2. ラテン語の原典の理解に必要な文化的な背景について深く理解し、説明できる（幅広い教養） 3. ラテン語が人文学諸分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる（専門的知識） 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる（洞察能力）	1. 学習した動詞のラテン語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、適用できる（リテラシー） 2. ラテン語の原典理解に必要な文化的な背景について基本的な事項を理解し、説明できる（幅広い教養） 3. ラテン語の文化的な価値について説明できる（専門的知識） 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に思いを致すことができる（洞察能力）
ラテン語Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	2	ラテン語の基礎文法を学び、辞書を使って簡単なテキストを読める程度のレベルに到達することを目指す授業である。学ぶのは規範性の高い紀元前1世紀の「黄金期」のラテン語である。古代ローマ文化はヨーロッパ文化の源であり、ラテン語はそのローマの遺産の最も重要なものである。長い間ヨーロッパ文化の中心を担ってきた言葉として、また、ヨーロッパの種々の言語の「親」として、言語、文学、芸術を学ぶ人にとって重要なところで必要とされる言語でもある。教科書に沿って文法事項を習得しながら、原典理解に必要な文化的な背景についても理解を深め、人文学の諸分野における学際と、人文学の今日的な意義を考へる土壌を培う。格変化と動詞の活用の種類を学び、読法法の初歩について理解を深めていく。声に出して学ぶ効能を実感した履修者が、この学修法を深めていくことをも重視する。	1. ラテン語の初歩文法を習得し、適用できる（リテラシー） 2. ラテン語の原典の理解に必要な文化的な背景について深く理解し、説明できる（幅広い教養） 3. ラテン語が人文学諸分野に及ぼした影響について深く理解し、自分の言葉で説明できる（専門的知識） 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に深く思いを致し、自分の言葉でその意義を説明できる（洞察能力）	1. ラテン語の初歩文法について、基本的な文法事項を記憶し、適用できる（リテラシー） 2. ラテン語の原典理解に必要な文化的な背景について基本的な事項を理解し、説明できる（幅広い教養） 3. ラテン語の文化的な価値について説明できる（専門的知識） 4. ラテン語の学修を通じ、人文学の今日的な意義に思いを致すことができる（洞察能力）
CG基礎実習Ⅰ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	Adobe IllustratorおよびPhotoshopを、情報デザインとしての視覚表現に活用する目的をもって、その操作方法を学習する。色彩理論を復習する作用に取り組みながら、CGソフトによる画像デザインの方法を学び、あわせて色彩学基礎の理解をすすめる。デザインを、機能的な秩序によりコントロールする方法を学ぶ。色や形や空間の条件が知覚や心理に及ぼす影響を、作図演習を通して理解し、造形心理学基礎の理解をすすめる。	(1) Adobe Illustrator、Photoshopの操作スキルを身に付け自ら向上させることができる（専門的知識・リテラシー） (2) ZDGCとDTPに関する基本的な知識と技術理解を深められるようになる（幅広い教養・専門的知識） (3) 情報デザインにおける色彩論と形態論の役割を知っている（専門的知識・洞察能力） (4) ZDGCとDTPに関するデザイン演習を通して、コンピュータを使った視覚表現の可能性について理解することができる（幅広い教養・リテラシー）	(1) Adobe Illustrator、Photoshopの最低限の操作スキルを身に付けている（専門的知識・リテラシー） (2) ZDGCとDTPに関する基本的な知識と技術理解を深められるようになる（幅広い教養・専門的知識） (3) 情報デザインにおける色彩論と形態論の最低限の役割を知っている（専門的知識・洞察能力） (4) ZDGCとDTPに関するデザイン演習を通して、コンピュータを使った視覚表現の可能性について他者の助けを得ながら理解することができる（幅広い教養・リテラシー）
CG基礎実習Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	言葉と色のイメージのつながりや考えを配色理論に取り組む。自身の選んだ配色（作った色）の効果を元に視覚情報化する。自身の色彩感覚を視覚情報化し、自身の特徴を活かすカラーデザインを考案する。色彩調和論、配色システムのセオリーを学び、自身の特徴と照合して、色の心理効果を考案する。色そのものだけでなく、形状や空間配置、時間変化などの条件による調和的色彩について学ぶ。さまざまな環境条件による色の多様な現象を知り、ユニバーサル・デザインとしての色の役割を学ぶ。造形デザインの意味、Photoshopによる色、形、空間、時間変化（動き）の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をもたらす視覚表現を演習する。期末には授業で作成した図に解説と応用制作を含み、マルチメディア電子ブックにまとめる。	(1) 色の心理効果と配色理論に見直し、自身の色彩感覚を活かした色彩表現ができるようになる（専門的知識） (2) ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を最低限理解し、それに基づく視覚表現ができるようになる（幅広い教養・専門的知識） (3) さまざまな環境条件による色覚の多様な現象を知り、ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を理解した視覚表現ができるようになる（幅広い教養・専門的知識） (4) Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化（動き）の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をもたらす視覚表現ができるようになる（幅広い教養・専門的知識・洞察能力） (5) 情報媒体としての合理的なレイアウトデザインができるようになり、マルチメディア電子ブック作成に活かせるようになる（専門的知識・リテラシー）	(1) 色の心理効果と配色理論の基本を理解し、最低限の色彩表現ができるようになる（専門的知識） (2) ユニバーサル・デザインとしての色の役割と扱い方を最低限理解し、それに基づく視覚表現ができるようになる（幅広い教養・専門的知識） (3) Illustrator、Photoshopによる色、形、空間、時間変化（動き）の扱い方を学び、造形デザインの意図に沿った効果をもたらす最低限の視覚表現ができるようになる（幅広い教養・専門的知識・洞察能力） (4) 情報媒体としての合理的なレイアウトデザインができるようになる（専門的知識・リテラシー）
Web基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	Webサイト構築のための基礎技術を学ぶと同時にサイトの多様性に合わせたコンテンツ編集能力を身に付ける。Webの仕組みやサイトの多様性を理解し、「ユーザビリティ」を考慮した上で「ターゲット」「サイトのゴール」の目標に応じたインターフェイスデザインについて学ぶ。また、マルチデバイス対応を含めた最新のWebデザインの潮流も知り、それらを踏まえたWebサイト設計の力を付ける。さらに、HTML5及びCSS3の基礎技術や、画像やWeb APIを利用する方法を学び、これらを用いたWebサイトの構築の実践に取り組むことで、コンテンツ編集能力を身に付ける。	(1) Webサイトの仕組みやサイトの多様性を理解する（幅広い教養・専門的知識） (2) Webサイトの「ユーザビリティ」や「ターゲット」「サイトのゴール」の目標に応じたインターフェイスデザインについて知っている（幅広い教養・専門的知識） (3) Webサイトのマルチデバイス対応の技術の必要性と潮流について知っている（幅広い教養・専門的知識・洞察能力） (4) Webサイトの設計ができる（幅広い教養・リテラシー・専門的知識） (5) HTML5及びCSS3を用いたWebページ制作の技術を使える（幅広い教養・リテラシー・専門的知識） (6) Webサイトで作成した画像やWeb APIを利用する技術を使える（幅広い教養・リテラシー・専門的知識）	(1) Webサイトの仕組みやサイトの多様性を最低限理解する（幅広い教養・専門的知識） (2) Webサイトの「ユーザビリティ」や「ターゲット」「サイトのゴール」の目標に応じたインターフェイスデザインについて最低限知っている（幅広い教養・専門的知識） (3) Webサイトのマルチデバイス対応の技術の必要性と潮流について最低限知っている（幅広い教養・専門的知識・洞察能力） (4) Webサイトの入門的な設計ができる（幅広い教養・リテラシー・専門的知識） (5) HTML5及びCSS3を用いたWebページ制作の技術を最低限使える（幅広い教養・リテラシー・専門的知識） (6) Webサイトで作成した画像やWeb APIを利用する入門的な技術を使える（幅広い教養・リテラシー・専門的知識）

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
DTP基礎実習Ⅰ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	1	印刷物の企画から印刷までの全工程について必要な基礎知識を学ぶとともに、DTPの基礎的な技術を習得する。Adobe InDesign でレイアウトフォーマットの設定や文字・画像の配置や適切な調整などの基本的な技術を習得することを目標とする。編集の技術やワークに関する講義をふまえ、各自が実習課題に取り組み、また、課題に関するプレゼンテーションや相互レビューを行う。	(1)印刷物の企画から印刷までの全工程について必要な基礎知識がある (幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)DTP で優れたデザインを行うためのルールを理解し、Adobe InDesign を使ってビジュアル的なページレイアウトを作成することができる (専門的知識・リテラシー) (3)Adobe Illustrator・Photoshop の特徴やDTP における役割を理解している (専門的知識) (4)参考事例の収集や研究、課題の制作、印刷原稿完成までの工程に能動的に取り組み (幅広い教養・読解力・リテラシー) (5)成果について適切なプレゼンテーションができる(リテラシー) (6)他者の発表を分析的に評価することができる (読解力)	(1)印刷物の企画から印刷までの全工程について最低限の基礎知識がある (幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)DTPの基礎的なルールや技術がある程度習得し、Adobe InDesign を使って初歩的なページレイアウトを作成することができる (専門的知識・リテラシー) (3)Adobe Illustrator・Photoshop の特徴やDTP における役割を理解している (専門的知識) (4)参考事例の収集や研究、課題の制作、印刷原稿完成までの工程に指示されたおりに取り組める (幅広い教養・読解力・リテラシー) (5)成果のプレゼンテーションが最低限度である(リテラシー) (6)他者の発表を評価することができる (読解力)
DTP基礎実習Ⅱ	文芸学部 専門基礎分野	1	1	1	DTP 基礎実習Ⅰで習得した知識を生かし、テーマに関するリサーチや企画書やラフコンテの制作、原稿執筆、校正などの編集業務の全工程を、より実践的に学ぶ。Adobe ソフトを活用し、画像の編集やページデザインなども体験する。メディアコンテンツの企画・発注力を身につける。	(1)DTP の基礎的な理解のもと、Adobeソフト (InDesign, Illustrator, Photoshop) を活用し、オリジナルのレイアウトのあるページレイアウトを作成することができる (幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)テーマに関するリサーチや取材を適切な方法で行い、制作物に反映することができる (幅広い教養・読解力) (3)企画書執筆、ページレイアウト制作、原稿執筆、図版の配置、文字・色校正などのプロセスに能動的に取り組む、高いレベルで実践することができる (幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (4)制作物や画像権を理解し、制作において適切な処理を行うことができる (リテラシー・専門的知識)	(1)DTPの基礎を理解し、Adobe InDesignを用いたページレイアウト制作ができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (2)テーマに関するリサーチを行い、制作物に反映することがある程度できる(幅広い教養・読解力) (3)企画書執筆、ページレイアウト制作、原稿執筆、図版の配置、文字・色校正などのプロセスに取り組むことができる(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (4)制作物や画像権に関する知識を理解し制作において処理を行うことができる (リテラシー・専門的知識)
DTM・オーディオ基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	1	現在、ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきている。MIDIとオーディオ編集を組み合わせたことによって、これらの音楽制作過程のほとんどを習得することが可能となってきている。本実習では、実際の制作過程を通して、コンピュータを用いた音楽制作の基本的な、アレンジの方法等を学ぶ。同時に、オリジナルコンテンツ制作に必要な技術習得を通して、音楽に関する理解を深め、自己表現の可能性を探ることを目標とする。	(1)ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきていることを理解する。(幅広い教養・読解力・リテラシー) (2)MIDIとオーディオ編集を組み合わせたことによって、音楽制作過程のほとんどを習得することが可能となっていることを理解する。(幅広い教養・専門的知識) (3)MIDIとオーディオ編集を用いたDTMの基本を理解し、アレンジの方法を身に付けていく。(専門的知識) (4)オリジナルコンテンツ制作に必要な技術習得し、音楽に関する理解を深め、自己表現の可能性を探ることができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・読解力)	(1)ポピュラー音楽を始めとして、芸術的創作の領域でも作曲、演奏、録音、編集など、音楽制作における全てのプロセスにおいて、コンピュータが必要不可欠なものとなってきていることを理解する。(幅広い教養・読解力・リテラシー) (2)MIDIとオーディオ編集を組み合わせたことによって、音楽制作過程のほとんどを習得することが可能となっていることを理解する。(幅広い教養・専門的知識) (3)MIDIとオーディオ編集を用いたDTMの最低限の技術を理解し、与えられた楽曲のDTMによる演奏ができる。(専門的知識) (4)短いオリジナル楽曲の制作ができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・読解力)
デジタルビデオ基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	1	動画と時間軸の付く効率的な伝達メディアとしてのデジタルビデオの可能性を探る。技術を知るのみならず、写真や低価格帯では見えない難点による面白さと、制作作品制作の課題を克服することを目標とする。そのため、デジタルビデオ機器の使用法と実写映像の編集技術、アニメーションの制作、さらにインターネットやDVDで配布する際のそれぞれに適した使い方を実践的に学ぶ。また、アニメーションとビデオを融合させる制作手法も習得する。	(1) デジタルビデオ編集技術の基礎知識と基礎技術を習得している (幅広い教養・専門的知識) (2) 他のメディア、例えば写真や低価格帯の動画と知識として習得している (幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (3) デジタルビデオ機器の使用法の最低限の理解に基づき、実写映像、アニメーション、さらにSNS上の動画作品を制作することができる (幅広い教養・リテラシー・専門的知識・読解力) (4) アニメーションとビデオを融合させる制作手法も身につけている (幅広い教養・リテラシー・専門的知識)	(1) デジタルビデオ編集の最低限の知識と術を習得している (幅広い教養・専門的知識) (2) 他のメディア、例えば写真や低価格帯の動画と知識として習得している (幅広い教養・専門的知識) (3) デジタルビデオ機器の使用法の最低限の理解に基づき、実写映像やアニメーション作品を制作することができる (幅広い教養・リテラシー・専門的知識・読解力) (4) アニメーションとビデオを融合させる最低限の技術を知っており、適用できる (幅広い教養・リテラシー・専門的知識)
プログラミング基礎実習	文芸学部 専門基礎分野	1	1	1	プログラミング未経験者のための入門クラスである。初心者でも扱いやすいGUI(グラフィカルユーザインタフェース)環境のもとでのプログラミングを通して、プログラムはどのように動作するのかという基本的な仕組みについて学習し、プログラムの基礎的な考え方や事前学習、プログラムの準備から実際の開発作業も身につけて体験することで、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、コンピュータによる問題解決、情報技術についての理解を深めようとするものである。	(1)コンピュータプログラムとプログラミングの概念を理解し、それを他者に説明できる。(幅広い教養・専門的知識・読解力) (2)変数、命令、繰り返し、条件分岐をはじめとする様々なプログラミングの考え方や技術を理解し、それを用いて応用的なプログラミングができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (3)与えられた問題を解決するためのプログラミングを自らの力で行うことができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)	(1)コンピュータプログラムとプログラミングの概念を最低限理解している。(幅広い教養・専門的知識・読解力) (2)変数、命令、繰り返し、条件分岐をはじめとする様々なプログラミングの考え方や技術を理解し、それを用いて基本的なプログラミングができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) (3)与えられた簡単な問題を解決するためのプログラミングを、他者の助けを借りながら行うことができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識)
文芸入門A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を提示することで、年次における領域選択の動機付けを行う。具体的には、言語・文学について学ぶために必要な基礎的知識と、言語・文学を分析する観点・方向に関する基礎的技術の修得を目的とする。	1、言語・文学について学ぶために必要な基礎的知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2、言語・文学を分析する観点・方向に関する基礎的知識が十分に身に付いている。(読解力) 3、言語・文学への関心や、それについて探究しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。(専門的知識)	1、言語・文学について学ぶために最低限の知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2、言語・文学を分析する観点・方法に関する最低限の技術が十分に身に付いている。(読解力) 3、言語・文学への関心や、それについて探究しようとする意欲・態度が身に付いている。(専門的知識)
文芸入門B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を提示することで、年次における領域選択の動機付けを行う。具体的には、芸術について学ぶために必要な基礎的知識と、芸術を分析する観点・方向に関する基礎的技術の修得を目的とする。	1、芸術について学ぶために必要な基礎的知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(専門的知識・幅広い教養) 2、芸術を分析する観点・方法に関する基礎的知識が十分に身に付いている。(読解力) 3、芸術への関心や、それについて探究しようとする意欲・態度が十分に身に付いている。(論理的思考力、リテラシー)	1、芸術について学ぶために最低限の知識を修得し、その特色が理解できる。(専門的知識・幅広い教養) 2、芸術を分析する観点・方法に関する最低限の技術が身に付いている。(読解力) 3、芸術への関心や、それについて探究しようとする意欲・態度が身に付いている。(論理的思考力、リテラシー)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
文芸入門C	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を例示することで、年次における専攻選考の動機付けを行う。具体的には、文化について学ぶために必要な基礎的知識と、文化を分析する観点・方法に関する基礎的技術の修得を目的とする。世界各地で育まれてきた豊かな文化を総合的な観点から学ぶ。	1.文化について学ぶために必要な基礎的知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2.文化を分析する観点・方法に関する基礎的知識が十分に身に付いている。(リテラシー) 3.文化への関心や、それについて探究しようとする態度・意欲が十分に身に付いている。(洞察力) 4.少なくとも一つの文化事象について説明することができる。(専門的知識) 5.広い視野で「文化」を捉えることができる。(幅広い教養)	1.文化について学ぶために最低限の知識を修得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養) 2.文化を分析する観点・方法に関する基礎的知識が十分に身に付いている。(リテラシー) 3.文化への関心や、それについて探究しようとする態度・意欲が身に付いている。(洞察力) 4.少なくとも一つの文化事象について説明することができる。(専門的知識) 5.広い視野で「文化」を捉えることができる。(幅広い教養)
文芸入門D	文芸学部 専門基礎分野	1	2	この科目では、文芸学部における広範な学びのフィールドを提示し、様々な視点や方法を例示することで、年次における専攻選考の動機付けを行う。本講義においては、メディアに関する基礎知識の習得をめざす。「メディア」という言葉は、出版・出版・マスコミの意義で使われていることが多いが、本来の意味といえば、「何かと何かの媒体」のことであり、具体的にいえば、声、文字、本・雑誌・新聞などの印刷出版物、図画、博物館、美術館、映画、放送(テレビ・ラジオ)、電話、ファクス、ケータイ、コンピュータネットワーク等のことであり、さらには都市空間といった空間、そこに存在する人間の身体そのものもメディアであることを先ず理解する。次いで「見る」として「マスメディア」を考察の中心に置き、メディア論的な歴史を把握する。我々の文化はいかに形成されたかを俯瞰でき、最終的には、本来の意味でのメディアの視点から、メディアが文化・芸術の「本質」形成にとって、どのような「形式」であったのかを考察できる基礎知識を修得する。	(1)「メディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力) (2)「マスメディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)「ソーシャル・メディア」とは何が具体的に列挙し、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (4)「ものを見る」とは何が思考でき、自明なものとして受けていた対象に新たな光をあてて「もう一度見る」として、自らの言葉で述べることもできる。(リテラシー) (5)「テレビ」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (6)「テレビ」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (7)「ラジオ」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (8)「ラジオ」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (9)「出版物」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (10)「出版物」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(専門的知識・洞察力) (11)「映画」の技術と歴史をメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (12)「映画」のメディア論的問題点を指摘し、考察することができる。(専門的知識・洞察力)	(1)「メディア」とは何が具体的に一つ挙げて、その機能を説明できる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識・洞察力) (2)「マスメディア」とは何が具体的に一つ挙げて、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)「ソーシャル・メディア」とは何が具体的に一つ挙げて、その機能を説明できる。(専門的知識・洞察力) (4)「ものを見る」とは何が思考でき、自明なものとして受けていた対象に新たな光をあてて「もう一度見る」として、自らの言葉で述べることもできる。(リテラシー) (5)「テレビ」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (6)「テレビ」のメディア論的問題点に言及することができる。(専門的知識・洞察力) (7)「ラジオ」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (8)「ラジオ」のメディア論的問題点に言及することができる。(専門的知識・洞察力) (9)「出版物」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (10)「出版物」のメディア論的問題点に言及することができる。(専門的知識・洞察力) (11)「映画」の技術と歴史の概ねをメディア論的に解説できる。(専門的知識・洞察力) (12)「映画」のメディア論的問題点に言及することができる。(専門的知識・洞察力)
日本語学概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本語の構造上の特色について、おもに現代語を対象として、音声・音韻、文字・表記、語彙・語法、文法、敬語、文章、談話等、さまざまな観点から理解する。日本語の構造上の基礎的な知識や言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能を学ぶ。	1.日本語の構造に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。(幅広い教養・専門的知識) 2.言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能が身に付く。(洞察力) 3.日本語に対する思考・判断、日本語による表現が適切に行えるようになる。(分析力・論理的思考力)	1.日本語の構造に関する基礎的な知識を習得し、その特色が一通り理解できる。(幅広い教養・専門的知識) 2.言語の構造を捉える観点・方法に関する基礎的な技能がある程度は身に付く。(洞察力) 3.日本語に対する思考・判断、日本語による表現が部分的にはできるようにする。(分析力・論理的思考力)
日本文学概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本文学における文学史上重要な位置を占める作品を、上中古文学から近世文学まで、およびその年代順やジャンルごと(散文・散文など)に連続することで、それぞれの時代の作品の集合がどのような特徴を持ち、どのような人達によってつくり、どのように読まれたかを理解する。その文学作品の読まれ方(読られ方)や、読者は、時代ごとの出版メディアの変化とも深くかかわっており、それらが作品にも与えた影響も考察する。日本文学の歴史を学び、基礎知識を身につけるだけでなく、日本文学の特徴を肌で感じながら味わい、今後専門的に学んでいく基礎力を培う。	1.日本文学史の歴史的、地理的な範囲、変遷について、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 2.日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりを、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.日本文学作品の性質を、経済や歴史・文化、メディアの発展などと関連付けながら、総合的に説明することができる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)	1.日本文学史の歴史的、地理的な範囲、変遷についての基本的な事柄を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 2.日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりについて、基本的な事柄を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.日本文学作品と、経済や歴史・文化、メディアの発展などの関わりについて、基本的な事柄を説明できる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)
日本文学概論B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本文学における文学史上重要な位置を占める作品を、近世末から近代文学まで、およびその年代順やジャンルごと(散文・散文など)に連続することで、それぞれの時代の作品の集合がどのような特徴を持ち、どのような人達によってつくり、どのように読まれたかを理解する。その文学作品の読まれ方(読られ方)や、読者は、時代ごとの出版メディアの変化とも深くかかわっており、それらが作品にも与えた影響も考察する。日本文学の歴史を学び、基礎知識を身につけるだけでなく、日本文学の特徴を肌で感じながら味わい、今後専門的に学んでいく基礎力を培う。	1.近代日本文学史の歴史的、地理的な範囲、変遷について、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 2.近代日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりを、総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.近代日本文学作品の性質を、経済や歴史・文化、メディアの発展などと関連付けながら、総合的に説明することができる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)	1.近代日本文学史の歴史的、地理的な範囲、変遷についての基本的な事柄を説明できる。(幅広い教養・専門的知識) 2.近代日本文学作品の題材、作家、読者とその意識形成への関わりについて、基本的な事柄を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.近代日本文学作品と、経済や歴史・文化、メディアの発展などの関わりについて、基本的な事柄を説明できる。(幅広い教養・分析力・論理的思考力)
英語学概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	日本では「英語学」という学問領域はLinguistics(言語学)の範疇として扱われている。したがって、本科目の目的は、大きく2つある。(1)英語とはどのような言語であるのかという点を巨視的な観点から眺めること。(2)人間の言語とはどのような特徴を持つのかという点を巨視的な観点から眺めること。英語という特定の言語に特有の特徴もあれば、英語に限らず人間の言語に普遍的に見られる特徴もある。その両者を観察することによる。音韻は空気のよう存在である「言語」というものについて、落ち着いて考える機会を持つことは極めて重要なことである。	英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(幅広い教養)(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力)	英語学・言語学の基本的な事項について、他者に説明することができる。(幅広い教養)(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力)
イギリス文学文化概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	イギリス文学史の流れを歴史的、文化的背景に沿って概観しつつ、イギリス文学と文化の特徴を理解するための入門的な文学作品を紹介する。読後資料も多量なことで読後人々の暮らしぶりや感情の動きを具体的にイメージし、作品が現代を生きたらにアピールする点を考える。	1.イギリス文学の流れ、歴史的、文化的背景の中で正しく理解している。(幅広い教養)(専門的知識) 2.各時代を代表する文学作品の特徴を十分に理解し、自分の言葉で考察できる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力)	1.イギリス文学の流れ、歴史的、文化的背景の中でおおむね理解している。(幅広い教養)(専門的知識) 2.各時代を代表する文学作品の特徴を十分に理解し、自分の言葉で考察できる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力)
アメリカ文学文化概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	どのような観点から文学作品にアプローチすれば、アメリカ文学の特徴を把握できるのか一般的な視点を示し、それぞれの文学作品が生まれてきた文化的背景を学ぶ。個別の文学作品にできるかぎり多く触れ、様々なメディア(映画・絵画・音楽など)を参照しながら、文化的な特徴を観察するための入門的役割を持つ科目である。	1.アメリカ文学・文化の特徴について深く理解できる。(幅広い教養)(専門的知識) 2.批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえたうえで、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表現できる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力)	1.アメリカ文学・文化に関する一般的な事柄を理解できる。(幅広い教養)(専門的知識) 2.個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえたうえで、自分の問題意識を持つことができる。(専門的知識)(洞察力)(分析力)(論理的思考力)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
フランス語学概論A	文芸学部 専門基礎分野		1	2	フランス語学の際、つまづきやすい発音や規則について、わかりやすい説明を受けることによって、フランス語が読めるようになる。「フランス語とはどのような言語なのか」と問を立て、答えを導く。アルファベットで表記する点は英語と似ているが、英語との相違点もあるので、特につづり字と発音について、整理をする。まずフランス語の基本文型や構文を説明し、認めるようになる。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使われている現状を確認する。	1. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の発音・表記・意味をよく理解し、その実践的な運用に習熟することができる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の発音とつづり字の関係を理解し、日本語でわかりやすく説明できる (洞察力、分析力)。 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる (専門的知識)。 4. フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を復讐的に述べることができる (論理的思考力)。	1. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の発音・表記・意味を理解し、その実践的な運用に習熟することができる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の発音とつづり字の関係を理解し、日本語で説明できる (洞察力、分析力)。 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、明らかに説明することができる (専門的知識)。 4. フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を述べることができる (論理的思考力)。
フランス語学概論B	文芸学部 専門基礎分野		1	2	フランス語学の際、つまづきやすい発音や規則について、わかりやすい説明を受けることによって、フランス語を声に出して読めるようになる。「フランス語とはどのような言語なのか」と問を立て、学習で、答えを導く。英語との相違点に着目しながら、英語の複雑さに対して、発音とスペルをはるかに規則正しいフランス語の発音が発音できるよようになる。まずフランス語の基本文型や構文を説明し、フランス語の単語の綴り、文の作り方を認める。さらにフランス語がどのような国や地域で使われているのかを確認する。ヨーロッパの共通語としてのフランス語の歴史を踏まえ、フランス語の重要性、国際共通語として英語とともに使われている現状を確認する。	1. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の単語から文までを正しく発音できる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の基本文型と構文を深く理解し、日本語で正確に説明できる (専門的知識)。 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、正確に説明することができる (洞察力、分析力)。 4. フランス語学とはどのような学問なのかという問いについて説明することができる (専門的知識)。 5. フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を復讐的に述べることができる (論理的思考力)。	1. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の単語から文までを発音できる (幅広い教養)。 2. フランス語の入門レベル (CEFR A1.1) の基本文型と構文を深く理解し、日本語で説明できる (専門的知識)。 3. フランス語圏でのことばの使用の分布と歴史について、説明することができる (洞察力、分析力)。 4. フランス語学とはどのような学問なのかという問いについて説明し、答えることができる (専門的知識)。 5. フランス語学の学修を通して、言葉の本質について考察を述べることができる (論理的思考力)。
フランス文学概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	フランス文学と、その背景のフランス文化を知る。フランス語で書かれた文学作品と人物の紹介によって概観する。なじみのあるテーマからフランス文学入門を図る。作品に触れるきっかけとして、翻訳・編集 (アダプテーション) は切っても切れない関係にある。本科目では映画、漫画、パフォーミング・アーツ、音楽 (ミュージカル、オペラ) などの具体例を鑑賞し、芸術との関連からも文学を考える。	1. フランス語で書かれた文学の基礎的知識を持ち、くまなく概観することができる (幅広い教養)。 2. フランス・フランス語圏文学史上の重要な作家の名前を複数挙げ、その特徴を列挙することができる (専門的知識)。 3. 課題になったすべてのフランス文学作品を翻訳で読んでいる (専門的知識)。 4. 芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴をよく説明することができる (洞察力、分析力)。 5. フランス文学の学修を通して、文学の意義を客観的に論述することができる (論理的思考力)。	1. フランス語で書かれた文学の基礎的知識を持ち、概観することができる (幅広い教養)。 2. フランス・フランス語圏文学史上の重要な作家の名前を一つ以上挙げることができる (専門的知識)。 3. 課題になったフランス文学作品を一件以上、翻訳で読んでいる (専門的知識)。 4. 芸術・映像作品との比較で、授業で扱ったフランス文学の特徴を説明することができる (洞察力、分析力)。 5. フランス文学の学修を通して、文学の意義を述べることができる (論理的思考力)。
フランス文化概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	多岐で、洗練されたフランス文化を知る。フランスの文化遺産、観光資源、景観、芸術文化 (彫刻・絵画・建築など)、時局を軸とする映像文化 (音楽・映画・演劇・放送など)、グルメ (食文化)、ファッション、モード、宗教文化 (大聖堂・ステンドグラス) などの幅広い分野から、フランス特有の文化を概観する。「文化」とは、一般的に「ある社会集団に固有の振る舞い・習慣の総体」を指すが、一口に文化といっても、伝統的な教義の構成要素となる古典的な文芸の「文学」「芸術」から、ポップアートやポップミュージックのようなサブカルチャーまで、さまざまな層がある。本科目では、さまざまなレベルのフランス文化をその広がりの中で捉え、地理や歴史の基本的な事項を学び、比較対照も含むフランスのイメージを深め、現代フランス文化の背景を理解する。そこから複眼的な視野を身に付ける。	1. フランス語圏の文化 (文学・芸術・社会・歴史) の基礎的知識を持ち、個々の事象を的確に捉え、概観することができる (幅広い教養)。 2. フランスの文化 (文学・芸術・社会・歴史) に寄与した人物の名前を複数挙げ、文脈の中に位置づけ、その特徴を列挙することができる (専門的知識)。 3. 課題になったフランス文化 (文学・芸術・社会・歴史) に関する文章をまんべんなく読んでいる (専門的知識)。 4. 芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化 (文学・芸術・社会・歴史) の特徴をわかりやすく説明することができる (洞察力、分析力)。 5. フランス語圏文化の学修を通して、異文化を比較検討して、客観的に論述することができる (論理的思考力)。	1. フランス語圏の文化 (文学・芸術・社会・歴史) の基礎的知識を持ち、個々の事象を概観することができる (幅広い教養)。 2. フランスの文化 (文学・芸術・社会・歴史) に寄与した人物の名前を一つ以上挙げ、その特徴を列挙することができる (専門的知識)。 3. 課題になったフランス文化 (文学・芸術・社会・歴史) に関する文章を部分的に読んでいる (専門的知識)。 4. 芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化 (文学・芸術・社会・歴史) の特徴を説明することができる (洞察力、分析力)。 5. フランス語圏文化の学修を通して、異文化を比較検討して、述べることができる (論理的思考力)。
児童文学概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	歴史上、「子ども」がどのように位置付けられてきたのかを踏まえ、「フェアリー・テール」と呼ばれるものを初め、広く知られている作品を挙げる。「児童文学」とはどのようなものか、どのように変化してきたのかを考える。「児童文学」がいつどのような形で生まれ、現代社会の中でどのような意義を持つのかを考察するための入門的講義である。	1. 児童文学の基本的な特質やその社会的役割について、子ども向けの本の歴史を踏まえ、理解している。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 講義で取り上げた作品について、児童文学の歴史と変遷を踏まえ考察し、それを論理的に表現することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	1. 児童文学の基本的な特質やその社会的役割について、ある程度、理解している。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 講義で取り上げた作品について考察したことを表現することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
翻訳概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	「文学作品の翻訳」という狭い領域を脱して、もっと広い意味で「翻訳とは何か」という問題を様々な角度から探る。明治時代以降、現在の日本の大部分を占める翻訳から出発して、文芸学部で学べる文学・芸術の広範囲にわたるそれぞれの分野と関わりがある多岐にわたる事例を取り上げる。講義科目ではあるが、学生がそれぞれ自分のよまる「翻訳」を発見して、考察できるようにする。さらに言語の背景が存在が社会や文化の通い、日本の文化・価値観の通いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れず、日本の文化・価値観の多様性、そしてそれと、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1.文化そのものが「翻訳」される際に生じる様々な問題を理解することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2. 「文化」が結集する時に何が降り附がかわるのかを理解した上で、異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。(論理的思考力) 3.文化の実践に関する翻訳の事例を複数説明することができる。(洞察力、分析力)	1.文化そのものが「翻訳」される際に生じる問題を理解することができる。(幅広い教養) (専門的知識) 2.異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。(論理的思考力) 3.文化の変化に関する翻訳の事例を最低一例、説明することができる。(洞察力、分析力)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
異文化間コミュニケーション概論	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	人間には言語・文化を超えて共通の側面がある一方で、言語・文化によって世界観・価値観が大きく異なる側面もある。多幸の場が、異なる言語・文化を背景に持つ人間どうしがコミュニケーションを行う場合に、摩擦や誤解が生じる恐れがある。そのような異文化間理解に関する基本的な知識を身につけ、異文化間コミュニケーションとは何かという問いについて考察する。さらに言語の背景に存在する社会や文化の違いによる価値観の違いにも着目する。異なる価値観を一方的に排除したり、逆に無批判的に受け入れたりせず、日本の文化・価値観の多様性、そしてそれと、外国の文化・価値観を冷静かつ客観的に比較することができる態度を涵養する。	1.異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について、他者に正確に説明することができる。（幅広い教養）（専門的知識） 2.本科目で学習することを基盤として、適切な異文化間コミュニケーションをすることができる。（論理的思考力） 3.自ら実践するコミュニケーションをまとめて客観的に説明することができる。（洞察力、分析力）	1.異文化間コミュニケーションの基礎的な概念について、説明することができる。（幅広い教養）（専門的知識） 2.本科目で学習することを基盤として、最低限の異文化間コミュニケーションをすることができる。（論理的思考力） 3.自ら実践するコミュニケーションをまとめて客観的に説明することができる。（洞察力、分析力）
新芸術概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	代表的な古典芸術として、舞臺、能楽（能・狂言）、歌舞伎、人形浄瑠璃を中心に扱う。授業内容は、これら三種の芸術に共通する（あるいは類似した）トピックを取り上げ、舞臺映像を交えながら、それぞれの特徴を捉えていくことを主とする。その他、それぞれ代表的な作品をじっくり鑑賞する機会も数度とわたって設ける。	1.舞臺、能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃に関する基礎的な知識を身につけることができる。（専門的知識・幅広い教養） 2.古典芸術に強い関心をもって、深い理解をもって接することができる。（論理的思考力、リテラシー、洞察力、分析力）	1.舞臺、能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃、それぞれの芸術がどのようなものか理解できる。（専門的知識・幅広い教養） 2.古典芸術のわかりやすい面と難しい面との両方を味わうことができる。（論理的思考力、リテラシー、洞察力、分析力）
新芸術概論B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	この授業では、演劇が社会において果たす役割を様々な角度から理解する。単に観客として楽しむだけでなく、演劇と社会の関係性の歴史を踏まえた上で、劇場の種類、公共劇場のミッション、演劇が教育・公共体に果たす役割とその課題などを現場ゲストの話を通じて理解する。	1.社会における演劇の役割についての十分な知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2.個々の劇場の社会的機能を十分に説明できるようになる。（洞察力、分析力、論理的思考力）	1.社会における演劇の役割についての知識が一通り得られている。（専門的知識・幅広い教養） 2.個々の劇場の社会的機能が自分なりに説明できるようになる。（洞察力、分析力、論理的思考力）
新芸術概論C	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	映画、テレビドラマをはじめとする映像芸術の特性を学び、それらの作品の観劇を成しているドラマに目を向けていくことを目的とする。	1.映画・テレビドラマなど映像芸術の表現と特性について、考え方を知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2.映画・テレビドラマなど個別の映像作品について、その表現とドラマに目を向けて分析・説明することができる。（洞察力、分析力） 3.自身と映像表現の関係について、歴史や表現といったさまざまな角度から考えることができる。（論理的思考力、リテラシー）	1.映画・テレビドラマなど映像芸術の表現と特性について基本的な考え方を知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2.映画・テレビドラマなど個別の映像作品について、その面白さがどこにあるのか考えることができる。（洞察力、分析力、論理的思考力）
日本・東洋美術史概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、過渡的に理解する。その際、日本列島とアジア諸地域との交流という視点から理解する。日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて理解する。また、美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を獲得する。	1. 古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、過渡的に十分理解している。（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本列島とアジア諸地域との交流という視点から十分理解している。（幅広い教養・専門的知識） 3. 日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて十分理解している。（専門的知識・洞察力・分析力） 4. 美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を十分獲得している。（分析力・論理的思考力）	1. 古代から中世までの日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、過渡的に一通り理解している。（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本列島とアジア諸地域との交流という視点から一通り理解している。（幅広い教養・専門的知識） 3. 日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて部分的に理解している。（専門的知識・洞察力・分析力） 4. 美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を一通り獲得している。（分析力・論理的思考力）
日本・東洋美術史概論B	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	前近代及び近代の日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、過渡的に理解する。その際、日本列島とアジア諸地域との交流という視点から理解する。日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて理解する。また、美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を獲得する。	1. 前近代及び近代の日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、過渡的に十分理解している。（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本列島とアジア諸地域との交流という視点から十分理解している。（幅広い教養・専門的知識） 3. 日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて十分理解している。（専門的知識・洞察力・分析力） 4. 美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を十分獲得している。（分析力・論理的思考力）	1. 前近代及び近代の日本列島及びアジア諸地域における美術の歴史について、過渡的に一通り理解している。（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本列島とアジア諸地域との交流という視点から一通り理解している。（幅広い教養・専門的知識） 3. 日本及びアジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりを通じて部分的に理解している。（専門的知識・洞察力・分析力） 4. 美術作品を通じて、日本列島及びアジア諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を一通り獲得している。（分析力・論理的思考力）
西洋美術史概論A	文芸学部 専門基礎分野	1	2	2	人類が石器時代から営んできた美術品制作の歴史を、古代から現代までのヨーロッパを主な対象として学ぶ。その際、主として人体の表現に焦点を当て、それを通じて物語・歴史、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わり、批評など、美術にとって本質的な問題を考察する。最終的には人類が何のどのように表現しようとしてきたのか、人類にとって美術がどのような意味をもつのかを理解する。	1.西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている（幅広い教養・専門的知識） 2.西洋美術史におけるさまざまな表現の意味とその源泉についての基本的な知識をもち、説明することができる。（幅広い教養・専門的知識） 3.西洋美術史の背景となる文化的・歴史的・社会的・宗教的背景について、基本的な知識をもち、説明することができる。（専門的知識・洞察力・分析力）美術作品を通じて、欧米諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を十分獲得している。（分析力・論理的思考力）	1.西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている（幅広い教養・専門的知識） 2.西洋美術史におけるさまざまな表現の意味とその源泉についての基本的な知識をもっている。（幅広い教養・専門的知識） 3.西洋美術史の背景となる文化的・歴史的・社会的・宗教的背景について、基本的な知識をもっている。（専門的知識・洞察力・分析力）美術作品を通じて、欧米諸地域の人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を獲得している。（分析力・論理的思考力）

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
西洋美術史概論B	文芸学部 専門基礎分野		1	2	人類が石器時代から営んできた美術品制作の歴史を、古代から現代までのヨーロッパを主な対象として学ぶ。その際、主として芸術と美術の表現に焦点を当て、物質・歴史・宗教・神話、文化の場の関係と密接に関わり、社会との関わり、批評など、美術にとって本質的な問題を考察する。最終的には人類が何どのように表現しようとしてきたのか、人類にとって美術がどのような意味をもつのかを考察する。	1.西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている(幅広い教養・専門的知識) 2.西洋美術史におけるさまざまな表現の意味とその源泉についての基本的な知識をもっている(幅広い教養・専門的知識) 3.西洋美術史の背景となる文化的・歴史的・社会的・宗教的背景について、基本的な知識をもち、説明することができる。(専門的知識・洞察力) 美術作品を通じ、欧米諸地域の人が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を獲得している。(分析力・論理的思考力)	1.西洋美術史の主要な作品・芸術家・流派等についての基本的な知識をもっている(幅広い教養・専門的知識) 2.西洋美術史におけるさまざまな表現の意味とその源泉についての基本的な知識をもっている(幅広い教養・専門的知識) 3.西洋美術史の背景となる文化的・歴史的・社会的・宗教的背景について、基本的な知識をもち、説明することができる。(専門的知識・洞察力) 美術作品を通じ、欧米諸地域の人が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を獲得している。(分析力・論理的思考力)
ジェンダー概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	ジェンダーという観点から、さまざまな作品や事象をとりあげ、考察する講義である。まずジェンダーなど性差に関する概念とそれらが生まれた背景を学ぶ。またジェンダーの観点から具体的な事例を分析し、その結果を現代の文化・社会状況とともに考察することを目標とする。	1.ジェンダーなど性差に関する概念とそれらが生まれた背景を正確に理解できるようになる(幅広い教養・専門的知識) 2.ジェンダーの概念を適切に使い、作品や事象を分析し説明できるようになる(洞察力・分析力・論理的思考力)	1.ジェンダーなど性差に関する概念を理解できるようになる(幅広い教養・専門的知識) 2.ジェンダーの概念を用いて、作品や事象を分析し説明できるようになる(洞察力・分析力・論理的思考力)
現代文化概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	現代文化のさまざまなありようを映像・音楽・文学などを用いて見せ、現代文化の多様性を概観することを通じて、自分が身を置いている時代・場所の文化の価値観を相対化して捉えることを学ぶ。また、多様性を尊重する新しい時代をどのように作り出さなければならないかを考察する。	1.現代とはいつの時代のどのような文化か、その文化はどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる(幅広い教養・専門的知識) 2.現代文化の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる(リテラシー・分析力) 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(洞察力・論理的思考力)	1.現代とはいつの時代のどのような文化か、その文化はどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる(幅広い教養・専門的知識) 2.現代文化の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようになる(リテラシー・分析力) 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(洞察力・論理的思考力)
歴史文化概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	文化の連続性と変容性を、歴史学的な視点から考察する。	1.文化の連続性・変容性について、深い知識を習得している(幅広い教養・専門的知識) 2.文化の連続性・変容性について、高度な分析・考察ができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.文化の連続性・変容性についての深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる(主体的関与)	1.文化の連続性・変容性について、基礎的な知識を習得している(幅広い教養・専門的知識) 2.文化の連続性・変容性について、基礎的な分析・考察ができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.文化の連続性・変容性についての関心・意欲をもって授業に臨むことができる(主体的関与)
思想文化概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	人類史上紀元前6世紀以降に同時多発する「精神革命」、つまり古代ギリシア思想・原始仏教・中国思想を、その前時代を含めて概観理解し、それぞれの思想的水準が、中世・近代、そして現代へいかに思想的に展開してきたのかを概観する。思想が文化を形成し、文化が思想を形成する基本的ダイナミズムを分析し検証する。	1.各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2.入手した資料をもとに、ギリシア思想・原始仏教・中国思想を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.入手した資料をもとに、ギリシア思想・仏教・中国思想それぞれの後の具体的な展開を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.中世・近代、そして現代それぞれの思想的特徴を大まかに理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 5.思想と文化の関係を哲学的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 6.授業で得た理解に基づいてレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2.入手した資料をもとに、ギリシア思想・仏教・中国思想を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.入手した資料をもとに、ギリシア思想・仏教・中国思想それぞれの後の具体的な展開を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 4.授業で得た理解に基づいてレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
神話・伝説概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	言説の伝承と伝説が社会・文化にもつ意味と意義について、具体的な事例を挙げつつ講義する。	1.言説の伝承、伝説について、具体例を挙げつつ、正確に説明することができる(専門的知識・論理的思考力) 2.言説の伝承、伝説が社会・文化にもつ意味について、深く考察することができる(洞察力・分析力) 3.言説の伝承、伝説が社会・文化によってどのような影響を受けるのかについて、深く理解している(幅広い教養)	1.言説の伝承、伝説について、具体例を挙げることができる(専門的知識・論理的思考力) 2.言説の伝承、伝説が社会・文化にもつ意味について、考察することができる(洞察力・分析力) 3.言説の伝承、伝説が社会・文化によってどのような影響を受けるのかについて、理解している(幅広い教養)
物語文化概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	物語を形作る要素について、さまざまな国、ジャンルの作品を取り上げながら考察する。	1.物語文化についての具体的な知識をえている(専門的知識) 2.物語文化について自ら問いを立て、考察し、説得力をもって表現することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(幅広い教養)	1.物語を構成要素を複数挙げる(専門的知識) 2.基礎的な読解ができ、考察を表現することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度応用することができるようになる(幅広い教養)
文芸メディア概論	文芸学部 専門基礎分野		1	2	「メディア」が有する記録/保管媒体機能・伝達媒体機能・相互行為媒体機能に着目し、メディアが文学や芸術の在り様にかかわる深く関わってきたのか、またメディアの形式・形態によって文学や芸術の作品内容が変遷してきたのか、さらに、メディアはかかわる文学や芸術作品の社会的意味を形成する働きを有してきたのか等を考察する。具体的には、人間の身体と絵画、声と口説文、文字と文学、印刷技術の発展と文芸、写真・書籍・映画といった複製メディア、人が相互行為を通して生活世界を構築し合うメディアアート、メディア論に考察し、知識を得る。	(1)「身体」をメディア論的に理解し、説明できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2)「記文字」をメディア論的に理解し、説明できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3)「アルファベット」の起源・展開を理解し、メディア論的に考察できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (4)「アルファベット」の影響をメディア論的に理解し、考察できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (5)「活字」というメディアの歴史と影響を理解し、説明できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (6)「活字」の影響をメディア論的に理解し、考察できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (7)「写真」をメディア論的に理解し、説明できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (8)「写真」の影響をメディア論的に理解し、考察できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (9)「映画」を作品論的にではなく、メディア論的に理解し、説明できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (10)「映画」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解し、考察できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (11)「メディアアート」をメディア論的に理解し、説明できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (12)「メディアアート」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解し、考察できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1)「身体」をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2)「記文字」をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3)「アルファベット」の起源・展開を理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (4)「アルファベット」の影響をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (5)「活字」というメディアの歴史と影響を理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (6)「活字」の影響をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (7)「写真」をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (8)「写真」の影響をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (9)「映画」を作品論的にではなく、メディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (10)「映画」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (11)「メディアアート」をメディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (12)「メディアアート」の影響を作品論的にではなく、メディア論的に理解できる。(幅広い教養・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
日本語学各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本語の文法に関する、概念・機構・機能などの特質の理解、および文法の調査・分析の方法を身につけ、その研究実践を行う。	1. 文法に関する知識を得て、文法に対する理解が深まる。（専門的知識） 2. 文法の調査・分析に関する技能が十分に習得できる。（分析力） 3. 文法に関する学問的な捉え方をし、その結果を適切に表現できるようにする。（洞察力・論理的思考力）	1. 文法に関する知識を得て、文法に対する理解がある程度まで深まる。（専門的知識） 2. 文法の調査・分析に関する技能が一通り習得できる。（分析力） 3. 文法に関する学問的な捉え方をし、その結果が部分的には表現できるようにする。（洞察力・論理的思考力）
日本語学各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本語の方言に関する、概念・機構・機能などの特質の理解、および方言の調査・分析の方法を身につけ、その研究実践を行う。	1. 方言に関する知識を得て、方言に対する理解が深まる。（専門的知識） 2. 方言の調査・分析に関する技能が十分に習得できる。（分析力） 3. 方言に関する学問的な捉え方をし、その結果を適切に表現できるようにする。（洞察力・論理的思考力）	1. 方言に関する知識を得て、方言に対する理解がある程度まで深まる。（専門的知識） 2. 方言の調査・分析に関する技能が一通り習得できる。（分析力） 3. 方言に関する学問的な捉え方をし、その結果が部分的には表現できるようにする。（洞察力・論理的思考力）
日本語学各論C	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本語の運用上の特徴について、おもに現代語を対象として、音声・音韻、文字・表記、語彙・語法、文法、敬語、文章・談話等、さまざまな観点から理解する。	1. 日本語の運用に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。（専門的知識） 2. 言語の運用を捉える観点・方法に関する基礎的な技能が身に付く。（分析力） 3. 日本語に対する思考・判断、日本語による表現が適切にできるようにする。（洞察力・論理的思考力）	1. 日本語の運用に関する基礎的な知識を習得し、その特色が十分に理解できる。（専門的知識） 2. 言語の運用を捉える観点・方法に関する基礎的な技能が身に付く。（分析力） 3. 日本語に対する思考・判断、日本語による表現が部分的には表現できるようにする。（洞察力・論理的思考力）
日本文学各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに古典文学を研究するための基礎力を身につける。過去のバースペクティブに留めず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、古典文学の特徴を理解する。	1. 古典文学に関する基礎的な知識を十分に習得している。（専門的知識） 2. 古典文学に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・論理的思考力） 3. 古典文学を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な技能を習得している。（分析力）	1. 古典文学に関する基礎的な知識をひと通りは習得している。（専門的知識） 2. 古典文学に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・論理的思考力） 3. 古典文学を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは習得している。（分析力）
日本文学各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに近代文学を研究するための基礎力を身につける。過去のバースペクティブに留めず、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、近代文学の特徴を理解する。	1. 近代文学に関する基礎的な知識を十分に習得している。（専門的知識） 2. 近代文学に関する基礎的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・論理的思考力） 3. 近代文学を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を習得している。（分析力）	近代文学に関する基礎的な知識をひと通りは習得している。（専門的知識） 2. 近代文学に関する基礎的な知識を、以前よりは自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・論理的思考力） 3. 近代文学を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をひと通りは習得している。（分析力）
漢文学A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	漢文を学ぶための基礎として、まず随・唐を中心とする中国の歴史や、漢字・漢文・漢文訓読についての基礎を理解し、日本の文化・文学に影響を与えた漢文作品を学ぶ。	1. 随・唐を中心とした中国の歴史を十分に理解している。（専門的知識） 2. 漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、十分に漢文が訓読できる。（専門的知識・分析力） 3. 日本の文化・文学に影響を与えた漢文作品を説明することができる。（洞察力・論理的思考力）	1. 随・唐を中心とした中国の基本的な歴史を理解している。（専門的知識） 2. 漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、基本的な漢文が訓読できる。（専門的知識・分析力） 3. 日本の文化・文学に影響を与えた基本的な漢文作品をある程度説明することができる。（洞察力・論理的思考力）
漢文学B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本の文化・文学に影響を与えたと考えられる漢文作品を読んでゆくことによって、中国の漢詩文と日本の漢詩文、日本文学（物語、和歌、思想等）との関わりについて理解する。	1. 中国の古代思想や漢詩文の基本的な特徴を理解している。（専門的知識） 2. 漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、的確に漢文が訓読できる。（専門的知識・分析力） 3. 日本の文化・文学に影響を与えた漢文作品を十分に理解し、的確に説明することができる。（洞察力・論理的思考力） 4. 中国の漢詩文と日本文学の関わりを的確に説明することができる。（洞察力・論理的思考力）	1. 中国の古代思想や漢詩文の基本的な特徴を理解している。（専門的知識） 2. 漢字・漢文・漢文訓読についての知識を使って、基本的な漢文が訓読できる。（専門的知識・分析力） 3. 日本の文化・文学に影響を与えた基本的な漢文作品をある程度説明することができる。（洞察力・論理的思考力） 4. 中国の漢詩文と日本文学の基本的な関わりについてある程度説明することができる。（洞察力・論理的思考力）
英語学各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	英語学という包括的な研究領域の中から、特定の低位分野を取り上げて、その分野の観点から英語の特徴を考察する。本科目では英文法を集中的に取り上げて、文法という観点から英語という言語の特徴について考察する。同時に、英語に限らず人間の言語に普遍的に見られる特徴についても考察する。	1. 英文法に関する幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（専門的知識）（洞察力） 2. 身につけた英文法の知識を使って、英文を正確に読み、内容を完全に正しく理解できる。（専門的知識）（洞察力） 3. 身につけた英文法の知識を使って、英文を正確に読み、内容を完全に正しく理解できる。（専門的知識）（洞察力）	1. 英文法に関する基本的な事項について、他者に説明することができる。（専門的知識）（洞察力） 2. 身につけた英文法の知識を使って、英文を読み、内容を正しく理解できる。（専門的知識）（洞察力） 3. 身につけた英文法の知識を使って、英文を読み、内容を正しく理解できる。（専門的知識）（洞察力）
イギリス文学文化各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	「イギリス文学文化概論」が取り上げる内容を踏まえつつ、「論議」「ジェンダー」「戦争」などのイギリス文学研究において重要なテーマに沿って、複数の文学作品をより専門的に読み解いていく。	1. イギリス文学研究において重要なテーマについて、歴史的・文化的背景を深く理解している。（専門的知識）（洞察力） 2. 個々のテーマに沿って特定の作品を読み解き、他者の意見と自分の見解を区別しながら適切にまとめることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. イギリス文学研究において重要なテーマについて理解している。（専門的知識）（洞察力） 2. 個々のテーマに沿って特定の作品を読み解き、自分の言葉でまとめることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）
アメリカ文学文化各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	アメリカの歴史的・地理的背景を踏まえつつ、「論議」「ジェンダー」「戦争」などのイギリス文学研究において重要なテーマに沿って、複数の文学作品をより専門的に読み解いていく。	1. アメリカ文学・文化研究の重要なテーマについて、歴史的・地理的背景を深く理解できる。（専門的知識）（洞察力） 2. 批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、文化的背景を踏まえつつ、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表現できる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. アメリカ文学・文化研究の重要なテーマについて、歴史的・地理的背景に開いた一般的な事例を理解できる。（専門的知識）（洞察力） 2. 批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、自分の問題意識を持つことができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
英語圏児童文学各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	現代に至るまで、世界中の文学作品に大きな影響を与えている英語圏の児童文学を取り上げる講義である。よく知られているイギリスや北米の作品を断片や断片などのアダプテーションで楽しみ、作品の背景となっている社会や文化。また「子ども」観について考察する。また、個々の作品への多様なアプローチを例示することで、英語圏の文化の理解や文学研究に対する関心を深める。	1. 英語圏の児童文学とその歴史や社会背景について理解している。（専門的知識） 2. 講義で取り上げられた作品について、意図的に読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化を踏まえ、解釈することができる。（専門的知識）（洞察力） 3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを論述することができる。（専門的知識）（洞察力）（論理的思考力）	1. 英語圏の児童文学とその歴史や社会背景の基本的な部分を理解している。（専門的知識） 2. 講義で取り上げた作品について読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化の基本的な事項を踏まえ、解釈することができる。（専門的知識）（洞察力） 3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを表現することができる。（専門的知識）（洞察力）（論理的思考力）
フランス文学文化各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	フランス特有の文化を具体的に知る。フランスの文化・芸術に関する個別の事象を文学・芸術のうちに捉え、文化の表象を深く掘り下げる。フランス圏の文化・芸術を通して豊かな感性を養い、あるいは思想を深め、異文化理解を深めることを目指す。	1. フランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の個別な事象を文学作品のうちに的確に捉えることができる（専門的知識）。 2. フランスの文化（文学・芸術・社会・歴史）に寄与した複数の人物物について論述することができる（専門的知識）。 3. 課題となったフランス文化を扱った文章をまんべんなく読んでいる（専門的知識）。 4. 授業で扱ったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の特徴をわかりやすく説明することができる（洞察力）（分析力）。 5. フランス文化の学修を通して、異文化を比較検討して、客観的に論述することができる（論理的思考力）。	1. フランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の個別な事象を文学作品のうちに捉えることができる（専門的知識）。 2. フランスの文化（文学・芸術・社会・歴史）に寄与した人物物について、最低一名を論述することができる（専門的知識）。 3. 課題となったフランス文化を扱った文章を読んでいる（専門的知識）。 4. 授業で扱ったフランス文化（文学・芸術・社会・歴史）の特徴を説明することができる（洞察力）（分析力）。 5. フランス文化の学修を通して、異文化を比較検討して、論述することができる（論理的思考力）。
フランス文学文化各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	フランス特有の文化に触れる。芸術全般はもちろん、食、ファッション、生活習慣、地域性などフランスを理解するための様々な文化現象について、テキストを通して具体的に知る。文学と、その背景の文化を知るために、フランス語圏の各地域の、地理的高と様々な歴史的事件などの複合的な事象を理解する。フランス語で書かれた文学の背景を理解し、作品の多様性を探る。さらに具体的なテーマからフランス語圏の個々の作品の理解を求め、テーマの探し方や鑑賞のしかたを学ぶ。映画、演劇、芸術作品などの鑑賞によっても、理解を深める。	1. フランス語表現の文化（文学・芸術・社会・歴史・習慣）の個別な事象を的確に捉えることができる（専門的知識）。 2. フランス語圏の複数の文学者・芸術家について論述することができる（専門的知識）。 3. 課題となったフランス文化を扱った文章をまんべんなく鑑賞している（専門的知識）。 4. 芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化の特徴をわかりやすく説明することができる（洞察力）（分析力）。 5. フランス文化を客観的に論述することができる（論理的思考力）。	1. フランス語表現の文化（文学・芸術・社会・歴史・習慣）の個別な事象を捉えることができる（専門的知識）。 2. フランス語圏の複数の文学者・芸術家について、最低限、述べることができる（専門的知識）。 3. 課題となったフランス文化を扱った文章を最低限読んでいる（専門的知識）。 4. 芸術・映像作品を通して、授業で扱ったフランス文化の特徴を説明することができる（洞察力）（分析力）。 5. フランス文化を客観的に論述することができる（論理的思考力）。
フランス児童文学各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	フランス語圏の児童文学を取り上げる講義である。よく知られているフランスの作品を断片や断片などのアダプテーションで楽しみ、作品の背景となっている社会や文化。また「子ども」観について考察する。また、個々の作品への多様なアプローチを例示することで、フランス語圏の文化の理解や文学研究に対する関心を深める。	1. フランス語圏の児童文学とその歴史や社会背景についてよく理解している。（専門的知識） 2. 講義で取り上げたものや関連する作品について、意図的に読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化を踏まえ、的確に解釈することができる。（専門的知識）（洞察力） 3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを客観的に論述することができる。（論理的思考力）	1. フランス語圏の児童文学とその歴史や社会背景について理解している。（専門的知識） 2. 講義で取り上げたものや関連する作品について、意図的に読書に取り組み、テーマやジャンル、作品の背景となっている社会や文化を踏まえ、解釈することができる。（専門的知識）（洞察力） 3. 個々の作品について、講義内容を踏まえながら考察したことを述べるることができる。（論理的思考力）
フランス語コミュニケーション演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさや美しさを感じる。日常的によく使う表現を身につけ、「聴くこと、話すこと」を同時に「読むこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目指す。フランスで生活することを感じ、フランス語の使われている異文化を想像してみる。そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考えを知る。教育教育科目「基礎フランス語（入門）」「基礎フランス語（表現）」を修得済み、同時に履修することを原則とする。	1. フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（専門的知識）。 2. CEFR A1完成レベルのフランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明することができる（洞察力）（分析力）。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の会話に積極的に参加することができる（論理的思考力）（洞察力） 4. フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（洞察力）（分析力）。	1. フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を理解することができる（専門的知識）。 2. CEFR A1完成レベルのフランス語のテキストを理解し、日本語で説明することができる（専門的知識）（洞察力）。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の会話に参加することができる（論理的思考力）（洞察力） 4. フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴を説明することができる（洞察力）（分析力）。
フランス児童文学演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	フランスの児童文学を断片の断片を参考にしながら断片で味わい、文学作品を読解・解釈するためのフランス語力を共に、「子ども」を取り巻く文化について考える演習である。よく知られているフランス語圏の作品を断片で精読し、作品の背景となっている社会や文化について調べ、自分なりの解釈や考察を発表する。各々が積極的に自発的に作品を深く読み、問題発見をし、考察する能力を培う。	1. フランス語圏の児童文学を精選するフランス語力とフランス文学研究の基本的知識を身に付けている。（専門的知識） 2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に付けている。（洞察力）（分析力） 3. 個々の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。（論理的思考力）	1. フランス語圏の児童文学を精選するフランス語力とフランス文学研究の基本的知識を最低限保持している。（専門的知識） 2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を最低限、身に付けている。（洞察力）（分析力） 3. 個々の作品についての自分の解釈を表現することができる。（論理的思考力）
フランス語翻訳演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	フランス語を翻訳する。平易なフランス語で書かれた詩、戯曲、小説、エッセイ、書翰、あるいは俳句的なテキストなどフランス語で書かれた文学作品を読み、取り上げられたテキストを正確に読み取り訳をする。さらなるフランス語の読解力向上を目指す。フランス語圏の文学作品を精読することにより豊かな感性を養い、あるいは思想を深め、フランス語圏文化の理解を深めることを目指す。日本語に翻訳する作業もあわせて行い、日本語による表現力の向上も目指す。	1. CEFR A1完成レベルのフランス語のテキストを深く読解できる（専門的知識）。 2. CEFR A1完成レベルのフランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（洞察力）（分析力）。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（洞察力）（分析力）。 4. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストについて意見を言うことができる（論理的思考力）。	1. CEFR A1完成レベルのフランス語のテキストを読解できる（専門的知識）。 2. CEFR A1完成レベルのフランス語のテキストを理解し、日本語で説明できる（洞察力）（分析力）。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、関係づけることができる（洞察力）（分析力）。 4. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストについて最低限の意見を言うことができる（論理的思考力）。

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス文化・芸術演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	1	平易なフランス語で書かれた文化、芸術関連、あるいは芸術家によるテキストなどの作品を扱う。取り上げるテキストを正確に読み取る訓練を重ね、さらなるフランス語の読解力向上を図る。フランス語圏の文学を精読することにより豊かな感受性を養い、あるいは思考を深め、フランス語圏文化への理解を深めることを目指す。日本語と翻訳する作業もあわせて行い、日本語による表現力の向上も目指す。	1. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを深く読解できる（専門的知識）。 2. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（洞察力・分析力）。 3. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（論理的思考力）。 4. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストについて意見を言うことができる（論理的思考力）。	1. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを読解できる（専門的知識）。 2. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文化、芸術関連のテキストを理解し、日本語で説明できる（洞察力・分析力）。 3. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストを読解を通して、フランス語圏文学を、自身の文学とも比較しながら、関係づけることができる（論理的思考力）。 4. CEFR A1.1完成レベルのフランス語の、文学・文芸的テキストについて最低限の意見を言うことができる（論理的思考力）。
フランス語学演習AⅠ	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	1	フランス語を話さずしさを覚悟する。日常的によく使う表現を身に付け、「聞くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。様々な状況においてフランス語で自己表現し、意思の疎通を図ることができるようになることを目指す。そのために視聴覚教材も用いて、フランス語表現の膨大な思考力を知る。本科目履修者は教養教育科目の「フランス語（入門）」を修得済み、同時に履修することを原則とする。	1. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実用会話で簡単な文を深く理解することができる（専門的知識）。 2. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（洞察力・分析力）。 3. 入門レベル（CEFR A1.1-A1）のフランス語会話に積極的に参加することができる（論理的思考力）。 4. フランス語の口語表現（CEFR A1.1-A1レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（論理的思考力）。	1. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実用会話で簡単な文を理解することができる（専門的知識）。 2. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語の運用に習熟することができる（洞察力・分析力）。 3. 入門レベル（CEFR A1.1-A1）のフランス語会話に参加することができる（論理的思考力）。 4. フランス語の口語表現（CEFR A1.1-A1レベル）から、フランス語の特徴を説明することができる（論理的思考力）。
フランス語学演習BⅠ	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	1	フランス語を話さずしさを覚悟する。「聞くこと、話すこと」ができるようになる。日常的によく使う表現を身に付け、実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。様々な状況においてフランス語で自己表現し、意思の疎通を図ることができるようになることを目指す。そのために視聴覚教材も用いて、フランス語表現の膨大な思考力を知る。本科目履修者は教養教育科目の「フランス語（入門）」を修得済み、同時に履修することを原則とする。	1. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の日常会話で簡単な文を深く理解することができる（専門的知識）。 2. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語の運用にすぐれて習熟することができる（洞察力・分析力）。 3. 入門レベル（CEFR A1）のフランス語会話に積極的に参加することができる（論理的思考力）。 4. フランス語の口語表現（CEFR A1レベル）から、フランス語の特徴をよく説明することができる（論理的思考力）。	1. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の日常会話で簡単な文を理解することができる（専門的知識）。 2. フランス語の初級レベル（CEFR A1.1～A1）の実践的な口語の運用に習熟することができる（洞察力・分析力）。 3. 入門レベル（CEFR A1）のフランス語会話に参加することができる（論理的思考力）。 4. フランス語の口語表現（CEFR A1レベル）から、フランス語の特徴を説明することができる（論理的思考力）。
翻訳各論	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	2	「翻訳各論」で学んだことを踏まえて、文学作品・演劇・映画・メディアなど、様々な分野における翻訳を個別具体的に考察する。文化的背景の差異を翻訳がどのように乗り越えていくのか具体例を通して学ぶことで、翻訳という行為の抱える本質的な問題を学ぶ。	1. 文学・芸術作品が翻訳される際に生じる様々な問題の本質を深く理解することができる。（専門的知識） 2. 文化が言語を超えて超増する時に、何が残り何が失われるのかを理解した上で、翻訳を通じた異文化交流に自ら積極的に取り組む意欲を持つことができる。（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. 文学・芸術作品が翻訳される際に生じる様々な問題を理解することができる。（専門的知識） 2. 文化が言語を超えて超増する時に、何が残り何が失われるのかを理解した上で、翻訳を通じた異文化交流を試みることができる。（洞察力）（分析力）（論理的思考力）
異文化間コミュニケーション各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	2	「異文化間コミュニケーション概論」での学修を基礎として、本科目では、日本語・日本文化と英語・英語圏文化（特に欧米を中心とする英語圏）の間に存在する異文化間コミュニケーションの問題点を具体的に考察する。このような考察をする際には、かつての「欧化主義」という態度に典型的に見られるような、偏った文化観からまず脱却し、文化には優劣はないという基本的姿勢を持つことが求められて重要である。	1. 日本と英語圏（特に欧米の英語圏）の世界観・価値観の違いについて、他者に正確に説明することができる。（専門的知識）（洞察力） 2. 偏見を持たずに、英語圏（特に欧米の英語圏）の人々との間で、適切なコミュニケーションをすることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. 日本と英語圏（特に欧米の英語圏）の世界観・価値観の違いについて、他者に説明することができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力） 2. 偏見を持たずに、英語圏（特に欧米の英語圏）の人々との間で、最低限のコミュニケーションをすることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）
異文化間コミュニケーション各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	2	「異文化間コミュニケーション概論」での学修を基礎として、本科目では日本語・日本文化とフランス語・フランス語圏文化（特にフランス）の間に存在する異文化間コミュニケーションの問題点を具体的に考察する。このような考察をする際には、かつての「欧化主義」という態度に典型的に見られるような、偏った文化観からまず脱却し、文化には優劣はないという基本的姿勢を持つことが求められて重要である。	1. 日本とフランス語・フランス語圏文化（特にフランス）の世界観・価値観の違いについて、他者に正確に説明することができる。（専門的知識） 2. 偏見を持たずに、フランス語圏（特にフランス）の人々との間で、適切なコミュニケーションをすることができる。（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. 日本とフランス語・フランス語圏文化（特にフランス）の世界観・価値観の違いについて、他者に説明することができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力） 2. 偏見を持たずに、フランス語圏（特にフランス）の人々との間で、最低限のコミュニケーションをすることができる。（論理的思考力）
日本語学演習 AI	文芸学部 専門分野Ⅰ		2	1	現代日本語の談話に関して、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究・発表についての方法論を学び、身につける。	1. 現代日本語の談話に関する基礎的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を明確に理解できる。（専門的知識・論理的思考力） 2. 現代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを十分に実践できる。（専門的知識・洞察力・分析力） 3. 現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が顕著になる。（主体的関与） 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（洞察力・論理的思考力） 5. 現代日本語の談話について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	1. 現代日本語の談話に関する基礎的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を一通り理解できる。（専門的知識・論理的思考力） 2. 現代日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技能を習得し、それを相応に実践できる。（専門的知識・洞察力・分析力） 3. 現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。（主体的関与） 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上で調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる（洞察力・論理的思考力） 5. 現代日本語の談話について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
日本語学演習 AII	文芸学部 専門分野 I	2		1	現代日本語の談話に関して、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、日本語学演習A Iにおいて身に付けた方法論を用いながら調査・研究を行い、その結果を口頭発表・レポートにまとめる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本語の談話に関する確かな知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 現代日本語の談話に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する技術を更に習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が顕著になる。(主体的関与) 4. 現代日本語の談話について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本語の談話に関するある程度の知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一過り理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 現代日本語の談話に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関するある程度の技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 現代日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 現代日本語の談話について、他者と協力しながら、比較的主動的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力)
日本語学演習 BI	文芸学部 専門分野 I	2		1	現代日本語の文章における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究・方法論を学び、身につける。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本語の文章に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 現代日本語の文章に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 現代日本語の文章に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(洞察力・論理的思考力) 5. 現代日本語の文章について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本語の文章に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一過り理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 現代日本語の文章の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 現代日本語の文章に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(洞察力・論理的思考力) 5. 現代日本語の文章について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本語学演習 BII	文芸学部 専門分野 I	2		1	現代日本語の文章における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、日本語学演習B Iにおいて身に付けた方法論を用いながら調査・研究を行い、その結果を口頭発表・レポートにまとめる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本語の文章に関する確かな知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 現代日本語の文章の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する技術を更に習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 現代日本語の文章に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 現代日本語の談話について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本語の文章に関するある程度の知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一過り理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 現代日本語の文章の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関するある程度の技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 現代日本語の文章に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 現代日本語の文章について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力)
日本語学演習 CI	文芸学部 専門分野 I	2		1	日本語文法における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究・方法論を学び、身につける。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語文法に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 日本語文法に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 日本語文法に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上で調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(洞察力・論理的思考力) 5. 日本語文法について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語文法に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向をある程度理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 日本語文法に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(洞察力・論理的思考力) 5. 日本語文法について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本語学演習 CII	文芸学部 専門分野 I	2		1	日本語文法における、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、日本語学演習C Iにおいて身に付けた方法論を用いながら調査・研究を行い、その結果を口頭発表・レポートにまとめる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語文法に関する確かな知識を得て、その全体的な特徴・傾向を明確に理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 日本語文法に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する技術を更に習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 日本語文法に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 日本語文法について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語文法に関する基礎的な知識を得て、その全体的な特徴・傾向を一過り理解できる。(専門的知識・論理的思考力) 2. 日本語文法に関する調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する基礎的な技術を習得し、それを十分に実践できる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3. 日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度が以前より強まる。(主体的関与) 4. 日本語について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる(論理的思考力)
日本文学演習 AI	文芸学部 専門分野 I	2		1	日本文学(上代文学)を統解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでゆくことを目的とする。日本文学作品それぞれのテクニクが内包する問題を自らが発見し、論証する方法を学ぶ。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につける。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学(上代文学)の統解のための基本的な調査・分析方法を理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書を用いながら、作品精読のための調査・分析を実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究をふまえて、調査結果を用いた上で作品を統解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識した発言ができる(論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめる、レポートを作成することができる(洞察力・論理的思考力) 7. 日本文学(上代文学)について他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学(上代文学)の統解のための基本的な調査・分析方法をある程度理解できる。(専門的知識) 2. 1をともに、図書館図書や電子図書を用いながら、作品精読のための調査・分析をある程度実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究をふまえて、調査結果を用いた上で作品を統解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識した発言がある程度できる(論理的思考力) 5. 他の学生の口頭発表において、関心を持って聞き、質問や意見を述べることがある程度できる(主体的関与) 6. 口頭発表での反応を意識して調査や考察をすすめる、レポートをある程度作成することができる(洞察力・論理的思考力) 7. 日本文学(上代文学)の統解について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
日本文学演習 DII	文芸学部 専門分野 I	2		1	日本文学（近現代文学）を瞭解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を組み合わせた実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学演習D Iで身に付けた方法論を用いながら、日本文学作品それぞれの特徴が内包する問題を自ら発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。そのことで、「読む」行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の主体者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者と自分の意見を伝えることと訓練を徹底的に重ねていく。	1. 日本文学（近現代文学）の瞭解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるかより深く理解できる。（専門的知識） 2. 1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を十分に実施することができる。（専門的知識・分析力） 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を十分に作成することができる。（論理的思考力） 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる（洞察能力・論理的思考力） 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる（主体的関与） 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（論理的思考力） 7. 日本文学（近現代文学）について他者と協力しながら、さらに主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	1. 日本文学（近現代文学）の瞭解のための基本的な調査、分析方法にどのようなものがあるか一通り理解できる。（専門的知識） 2. 1をもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を一通り実施することができる。（専門的知識・分析力） 3. 先行研究を精査し、調査結果を用いた上で作品を読解し、発表資料を一通り作成することができる。（論理的思考力） 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場においてやりとりが一通りできる（洞察能力・論理的思考力） 5. 他の学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、質問や意見を述べることが一通りできる（主体的関与） 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる（論理的思考力） 7. 日本文学（近現代文学）について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる程度である（主体的関与・リーダーシップ）
英語学演習 AI	文芸学部 専門分野 I	2		1	入門期にある学生を対象とするので、英語学・言語学という上位の研究領域に包括されるさまざまな下位研究領域の入門的な内容の文献、主に意味論や語用論などの領域に関連する文献を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習B Iとは異なる分野の比較的平均的な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで正確に読み取ることができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 2. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習B Iとは異なる分野の比較的平均的な文章を読んで、書き手の言いたいことをある程度読み取ることができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 2. 本科目で扱う英語学・言語学の幅広い事項について、他者にある程度説明することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語学演習 BI	文芸学部 専門分野 I	2		1	入門期にある学生を対象とするので、英語学・言語学という上位の研究領域に包括されるさまざまな下位研究領域の入門的な内容の文献、主に言語学的・空間的・パリエーションに関連する文献を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習A Iとは異なる分野の比較的平均的な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで正確に読み取ることができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 2. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習B Iとは異なる分野の比較的平均的な文章を読んで、書き手の言いたいことをある程度読み取ることができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 2. 本科目で扱う英語学・言語学の幅広い事項について、他者にある程度説明することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
イギリス文学文化演習 AI	文芸学部 専門分野 I	2		1	イギリス文学文化に関する、比較的易しい英語で書かれた20世紀以前の作品を取り上げ、翻訳の助けも借りながら精読することで、文学作品を読解するための英語力を身につける。作品が書かれた時代的・文化的背景について理解を深め、作品を多様な角度から分析する。これらの過程を経て、作品に対して自発的な関心や問いを抱き、考察できるようにする。	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的易しい英語で書かれた文章を正確に読みこなすことができる。（リテラシー） 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代的・文化的背景を正しく理解し、それを踏まえた上で的確に作品を分析することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う作品に対して自発的に関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 4. 本科目におけるグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的易しい英語で書かれた文章がある程度読むことができる。（リテラシー） 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代的・文化的背景を理解し、それを踏まえた上で作品をある程度分析することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う作品に対して関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる程度である。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
イギリス文学文化演習 BI	文芸学部 専門分野 I	2		1	イギリス文学文化に関する、比較的易しい英語で書かれた20世紀以降の作品を取り上げ、翻訳の助けも借りながら精読することで、文学作品を読解するための英語力を身につける。作品が書かれた時代的・文化的背景について理解を深め、作品を多様な角度から分析する。これらの過程を経て、作品に対して自発的な関心や問いを抱き、考察できるようにする。	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的易しい英語で書かれた文章を正確に読みこなすことができる。（リテラシー） 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代的・文化的背景を正しく理解し、それを踏まえた上で的確に作品を分析することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う作品に対して自発的に関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 4. 本科目におけるグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的易しい英語で書かれた文章がある程度読むことができる。（リテラシー） 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代的・文化的背景を理解し、それを踏まえた上で作品をある程度分析することができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う作品に対して関心や疑問を抱き、自分なりの答えを導き出すことができる程度である。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
アメリカ文学文化演習 AI	文芸学部 専門分野 I	2		1	アメリカ文学を原書で読み、英文の正確な読解力を身に付けるとともに、作品の読解を通して多様なアメリカ文化の理解を促す演習である。この演習では、比較的読者の対象年齢が若いヤング・アダルトの名作を読み、作品に抽出されている諸問題を発見し、解釈し考察するための自分の視点を持つようにする。主体的に発見した問題を発表・共有し、他者との対話を果たせる。	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識を深く理解することができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 2. 本科目で扱う英語で書かれたアメリカ文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について深く考察し、意見を言うことができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識をある程度理解することができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 2. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、ある程度意見を言うことができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら調べ、発表し、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
アメリカ文学文化演習B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	アメリカ文学を原書で読み、作品の読解を通してアメリカ文学と文化を批評するための多様な視点を生み出す。単品の文学史・文化上の位置づけを把握し、自分自身の問題意識から生まれるさまざまな視点から、作品で提出されている諸問題を発見し、自分自身の考察を他者の考察と比較して相対化し、自分自身の批評を展開する。	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識を深く理解することができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察力）（分析力） 2. 本科目で扱う英語で書かれたアメリカ文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について深く考察し、意見を言うことができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の読解を通して、アメリカ文学文化が内包する個別の問題意識をある程度理解することができる。（リテラシー）（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 2. 本科目で扱う英語で書かれた文学作品の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、ある程度意見を言うことができる。（専門的知識）（洞察能力）（分析力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら調べ、発表し、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語圏児童文学演習A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	英語圏の児童文学を原書で読み、英文を読解・解釈する力を養うと共に、「子ども」を取り巻く文化について考える演習である。本演習では、よく知られている英語圏の児童文学の原書を精読し、作品の背景となっている社会や文化について調べ、自分なりの解釈や考察を発表する。各々が個別的かつ自発的に作品を深く読み、問題発見をし、考察する能力を培う。	1. 英語圏の児童文学を精読する英語力と英文学研究の基礎を身に付けている。（リテラシー） 2. 作品の精読を通して、興味のある点を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に付けている。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う複数の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。（論理的思考力） 4. 本科目のグループワークでは、他者と協力し、主体的に課題に取り組むことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語圏の児童文学を精読する英語力と英文学研究の基礎をある程度身に付けている。（リテラシー） 2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度をある程度身に付けている。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う複数の作品についての自分の解釈をある程度論理的に表現することができる。（論理的思考力） 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力し、課題に取り組むことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語圏児童文学演習B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	英語圏の児童文学を原書で読み、英文を読解・解釈する力を養うと共に、「子ども」を取り巻く文化についてカリキュラムに考える演習である。本演習では、よく知られている英語圏の児童文学の原書を精読し、文学史上の位置づけ、ジャンル、作品の背景となっている社会や文化について調べ、それらを踏まえた解釈や考察を発表する。各々が個別的かつ自発的に作品を深く読み、問題発見をし、考察する能力を培う。	1. 英語圏の児童文学を精読する英語力と英文学研究の基礎を身に付けている。（リテラシー） 2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身に付けている。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う複数の作品についての自分の解釈を論理的に表現することができる。（論理的思考力） 4. 英語圏児童文学について研究テーマを見つけ、他者と協力しながらグループワークに取り組み、主体的に課題に関わることができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語圏の児童文学を精読する英語力と英文学研究の基礎をある程度身に付けている。（リテラシー） 2. 作品に対して自発的に問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度をある程度身に付けている。（専門的知識）（洞察能力）（分析力） 3. 本科目で扱う複数の作品についての自分の解釈をある程度論理的に表現することができる。（論理的思考力） 4. 英語圏児童文学について研究テーマを見つけ、他者と協力しながらグループワークに取り組み、主体的に課題に関わることができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
フランス語フランス文学演習	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	戯曲、小説、詩、エッセイ、漫画 (BD)、映画台本、舞台芸術関係のテキストなど、平易なフランス語で書かれた文学・芸術作品を知り、鑑賞の最初歩を学ぶ。フランス語で読解する際の資料検索方法も身につける。フランス語で書かれた作品世界を多面的かつ総合的に理解する。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。	1. CEFR A1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる（専門的知識）。 2. フランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（洞察能力・分析力）。 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（論理的思考力）。 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1. CEFR A1レベルのフランス語のテキストを読解できる（専門的知識）。 2. フランス語のテキストを理解し、日本語で説明できる（洞察能力・分析力）。 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（論理的思考力）。 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的に意見を言うことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
フランス語フランス文学演習II	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	戯曲、小説、詩、エッセイ、漫画 (BD)、映画台本、舞台芸術関係のテキストなど、フランス語で書かれた文学・芸術作品を、その背景とともに知り、鑑賞の初歩を学ぶ。フランス語を使って資料検索方法も身につける。フランス語で書かれた作品世界を多面的かつ総合的に理解する。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。	1. CEFR A1レベルのフランス語のテキストを深く読解できる（専門的知識）。 2. フランス語のテキストを深く理解し、日本語で説明できる（洞察能力・分析力）。 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（論理的思考力）。 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1. CEFR A1レベルのフランス語のテキストを読解できる（専門的知識）。 2. フランス語のテキストを理解し、日本語で説明できる（洞察能力・分析力）。 3. フランス語の作品を読解を通して、フランス語圏文学を、自国の文学とも比較しながら、よく関係づけることができる（論理的思考力）。 4. 文学・文化について書かれたテキストについて、協力しながら、主体的に意見を言うことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
日本演劇史名論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	古代から中世における日本の演劇（芸能）の展開について論じる。本授業では、各芸能の特徴を明らかにしながら、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えようとする。また、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えようとする。また、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えようとする。	1. 古代から中世の日本の演劇（芸能）について、ジャンル相互の関係性や、社会的・文化的背景との関連から理解する事ができる。（専門的知識・幅広い教養） 2. 日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、自分の言葉で的確に説明することができる。（洞察能力・分析力） 3. 自らが接する古典芸能を、授業で学んだ知識と結びつけて鑑賞することができる。（論理的思考力、リテラシー）	1. 古代から中世の日本の演劇（芸能）における代表的な演劇ジャンルの特徴を理解することができる。（専門的知識・幅広い教養） 2. 日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、授業資料をもとに説明することができる。（洞察能力・分析力） 3. 実際の古典芸能をある程度の関心を持って鑑賞することができる。（論理的思考力、リテラシー）
日本演劇史名論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	近世における日本の演劇（芸能）の展開について論じる。本授業では、各芸能の特徴を明らかにしながら、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えようとする。また、その歴史を社会的、文化的背景の中に位置づけることを目的とする。演劇の相互の関係にも着目し、その伝承や変容を多面的に捉えようとする。	1. 近世の日本の演劇（芸能）について、ジャンル相互の関係性や、社会的・文化的背景との関連から理解する事ができる。（専門的知識・幅広い教養） 2. 日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、自分の言葉で的確に説明することができる。（洞察能力・分析力） 3. 自らが接する古典芸能を、授業で学んだ知識と結びつけて鑑賞することができる。（論理的思考力、リテラシー）	1. 近世の日本の演劇（芸能）における代表的な演劇ジャンルの特徴を理解することができる。（専門的知識・幅広い教養） 2. 日本の演劇（芸能）の流れや演劇ジャンルの特徴について、授業資料をもとに説明することができる。（洞察能力・分析力） 3. 実際の古典芸能をある程度の関心を持って鑑賞することができる。（論理的思考力、リテラシー）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
日本演劇史各論C	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	明治期から大正期に至るまでの日本演劇は様々な変化を遂げた。西洋化、近代化にはじまり大衆化と芸術性のバランスの課題も現れつつまとうことの一つである。この授業では近代の日本演劇について過渡期的な流れを把握し、同時に共時的な問題点についての意識をもてるようになることを目的とする。	1、明治期から大正期までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について正確な知識を身につけることができる。（専門的知識・幅広い教養） 2、近代の日本演劇が抱えてきた問題を把握し、その理由を考察できるようにする。（洞察力・分析力、論理的思考力）	1、明治期から大正期までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項についてある程度の知識を身につける（専門的知識・幅広い教養） 2、近代の日本演劇の特徴を把握し、その理由を考察できるようにする（洞察力・分析力、論理的思考力）
西洋演劇史各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	古代から中世までのヨーロッパ演劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して高度な知識・理解力・思考力を身につけることができる（専門的知識・幅広い教養） 2、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して主体的な考察ができる（洞察力・分析力、論理的思考力）	1、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関して基本的な知識・理解力・思考力を身につけることができる（専門的知識・幅広い教養） 2、古代から中世までのヨーロッパ演劇に関してある程度の考察ができる（洞察力・分析力、論理的思考力）
西洋演劇史各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して高度な知識・理解力・思考力を身につけることができる（専門的知識・幅広い教養） 2、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して主体的な考察ができる（洞察力・分析力、論理的思考力）	1、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関して基本的な知識・理解力・思考力を身につけることができる（専門的知識・幅広い教養） 2、ルネッサンスから近代までのヨーロッパ演劇に関してある程度の考察ができる（洞察力・分析力、論理的思考力）
舞台美術各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	演劇と上演空間とのかわりについて学ぶ授業である。舞台美術についての基本的な知識を身につけ、具体的な作品によってその特性を考えたいこととする。	1、舞台美術の役割や表現の可能性について考えるための基本的な知識を身につける（専門的知識・幅広い教養） 2、具体的な作品の舞台美術について主体的に分析することができる（洞察力・分析力、主体的関与・論理的思考力）	1、舞台美術の役割や表現の可能性について考えるための基本的な知識を身につける（専門的知識・幅広い教養） 2、具体的な作品の舞台美術についてある程度分析することができる（洞察力・分析力、主体的関与・論理的思考力）
現代美術各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	19世紀後半から20世紀前半までの美術についての知識を身につける。欧米の美術を主たる対象とするが、現代のグローバル化をふまえて、欧米に限定せず、アジア、その他の地域にも目を向ける。芸術家たちが何をどのように表現しようとしたのか、その内容がどのようなものであるのか、従来の美術と何が異なっているのか、そしてそれらが今日を生きるわれわれにどのような意味をもっているのかを考察する。	1対象となる時代の主要な芸術家やその作品について十分な知識をもっている。（専門的知識） 2 芸術家たちが表現しようとしたことについて十分な知識をもっている。（専門的知識） 3 19世紀後半までの美術との相違点について十分な知識を持ち、的確に説明できる。（洞察力・分析力） 4 われわれ自身にとどどのような意味があるかを深く考察し、詳細に説明できる。（洞察力・分析力・論理的思考力）	1対象となる時代の主要な芸術家やその作品について基本的な知識をもっている。（専門的知識） 2 芸術家たちが表現しようとしたことについて基本的な知識をもっている。（専門的知識） 3 19世紀後半までの美術との相違点について基本的な知識を持ち、的確に説明できる。（洞察力・分析力） 4 われわれ自身にとどどのような意味があるかを深く考察し、説明できる。（洞察力・分析力・論理的思考力）
現代美術各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	20世紀後半から21世紀までの美術についての知識を身につける。欧米の美術を主たる対象とするが、現代のグローバル化をふまえて、欧米に限定せず、アジア、その他の地域にも目を向ける。芸術家たちが何をどのように表現しようとしたのか、その内容がどのようなものであるのか、従来の美術と何が異なっているのか、そしてそれらが今日を生きるわれわれにどのような意味をもっているのかを考察する。	1対象となる時代の主要な芸術家やその作品について十分な知識をもっている。（専門的知識） 2 芸術家たちが表現しようとしたことについて十分な知識をもっている。（専門的知識） 3 20世紀前半までの美術との相違点について十分な知識を持ち、的確に説明できる。（洞察力・分析力） 4 われわれ自身にとどどのような意味があるかを深く考察し、詳細に説明できる。（洞察力・分析力・論理的思考力）	1対象となる時代の主要な芸術家やその作品について基本的な知識をもっている。（専門的知識） 2 芸術家たちが表現しようとしたことについて基本的な知識をもっている。（専門的知識） 3 20世紀前半までの美術との相違点について基本的な知識を持ち、的確に説明できる。（洞察力・分析力） 4 われわれ自身にとどどのような意味があるかを深く考察し、説明できる。（洞察力・分析力・論理的思考力）
建築史A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本における一般的な認識と異なり、建築は芸術作品として捉えることが可能であり、その理解は美術史理解のために不可欠である。美術史学の基本的構式概念は建築に基礎を置いており、また絵画も形も同じくは特定の建築空間に設置されることを前提としているからである。また建築は社会と生活に密着しているがゆえに、社会のありようとしてそれが生み出す文化を理解する助けとなる。この観点に立ち、主として古代及び中世ヨーロッパの建築のデザイン、構造、その展開とそれらの背景にある思想・宗教、あるいは社会との関わりについて、また芸術の他の領域との相互関係について、基本的な知識を修得することを旨とする。	1 主要な建築物や建築家を十分に理解できる。（専門的知識） 2 建築の用語・概念・理論について十分に理解し、的確に説明できる。（専門的知識） 3 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて十分に理解し、的確に説明できる。（洞察力・分析力） 4 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を的確に説明することができる。（洞察力・分析力・論理的思考力）	1 主要な建築物や建築家を理解できる。（専門的知識） 2 建築の用語・概念・理論について理解し、説明できる。（専門的知識） 3 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて理解し、説明できる。（洞察力・分析力） 4 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。（洞察力・分析力・論理的思考力）
建築史B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本における一般的な認識と異なり、建築は芸術作品として捉えることが可能であり、その理解は美術史理解のために不可欠である。美術史学の基本的構式概念は建築に基礎を置いており、また絵画も形も同じくは特定の建築空間に設置されることを前提としているからである。また建築は社会と生活に密着しているがゆえに、社会のありようとしてそれが生み出す文化を理解する助けとなる。この観点に立ち、主として前近代及び近代ヨーロッパの建築のデザイン、構造、その展開とそれらの背景にある思想・宗教、あるいは社会との関わりについて、また芸術の他の領域との相互関係について、基本的な知識を修得することを旨とする。	1 主要な建築物や建築家を十分に理解できる。（専門的知識） 2 建築の用語・概念・理論について十分に理解し、的確に説明できる。（専門的知識） 3 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて十分に理解し、的確に説明できる。（洞察力・分析力） 4 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を的確に説明することができる。（洞察力・分析力・論理的思考力）	1 主要な建築物や建築家を理解できる。（専門的知識） 2 建築の用語・概念・理論について理解し、説明できる。（専門的知識） 3 建築物や建築家について、時代や地域、あるいは伝統、他の芸術領域と関連づけて理解し、説明できる。（洞察力・分析力） 4 建築という営みの持つ意義について考え、自分の意見を説明することができる。（洞察力・分析力・論理的思考力）
造形理論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	造形表現における基礎理論と技法を学び、作品を理解する能力の深化、高度化に資することを目的とする。造形理論、色彩理論、造形学などの基礎理論に加え、多様な材料、技法、支持体、それらの歴史的背景の解説を通して、美術作品の構成要素と原理を学ぶ。	①視覚認知、組織のメカニズムの概要を十分に理解し、的確に説明できる。 ②黄金分割を十分に理解し、的確に説明できる。 ③幾何学図形の作用を十分に理解し、的確に説明できる。 ④透視図法を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑤色彩理論の概要を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑥造形理論を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑦材料学的基础的知識を十分に理解し、的確に説明できる。 ⑧造形・彫刻の各種の技法、表現形式や表現材料などを十分に理解し、的確に説明ができる。 ⑨写真撮影の原理を十分に理解し、的確に説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	①視覚認知、組織のメカニズムの概要を理解し、説明できる。 ②黄金分割を理解し、説明できる。 ③幾何学図形の作用を理解し、説明できる。 ④透視図法の概要を理解し、説明できる。 ⑤色彩理論を理解し、説明ができる。 ⑥造形理論を理解し、説明ができる。 ⑦材料学的基础的知識を理解し、説明ができる。 ⑧造形・彫刻の各種の技法、表現形式や表現材料などを理解し、説明ができる。 ⑨写真撮影の原理を十分に理解し、説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
文化資源学	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	文化資源学とは何か。文化活動の所産を包括的に表す言葉として文化財という語があるが、文化資源学はそれらを多様な観点からとらえ直し、分析し、新たな価値や意義を見出すとする学問である。その対象は狭い意味での芸術に限らず、貴重資料も含め、広範に及ぶ。それらにどのような価値や意味を見出すことができるか、それらをわれわれの社会にどう活かすか、それらをもとにして継承し、時代に受け渡していくかについて、学び、考える。	①文化資源という考え方を十分に理解している。 ②文化資源学の研究方法を十分に理解している。 ③文化資源の維持保存伝承について詳細に理解している。（専門的知識・分析力） ④社会における文化資源のあり方について、自身の考えを明確に持っている。（分析力・洞察力・論理的思考力）	①文化資源という考え方を理解している。 ②文化資源学の研究方法を理解している。 ③文化資源の維持保存伝承について理解している。（専門的知識・分析力） ④社会における文化資源のあり方について、自身の考えを明確に持っている。（分析力・洞察力・論理的思考力）
西洋美術史講読	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	美術史研究の実践に不可欠な読解能力を身につけることを目的とする。1篇の論文、1冊の書物がどのように成り立っているのか、丹念に解きほぐすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。西洋美術史講読では、西洋美術史に関する日本語または外国語の文献を取り上げる。	①西洋美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を的確に把握することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力） ②学術文献が前提としている知識を十分に持っている。（専門的知識） ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力）	①西洋美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を把握することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力） ②学術文献が前提としている知識を十分に持っている。（専門的知識） ③理解した内容をまとめて説明することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力）
日本美術史講読	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	美術史研究の実践に不可欠な読解能力を身につけることを目的とする。1篇の論文、1冊の書物がどのように成り立っているのか、丹念に解きほぐすことで、読解能力を高めるとともに、関連する知識を身につける。日本美術史講読では、日本美術史および西洋美術史に関する日本語または外国語の文献を取り上げる。	①日本美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を的確に把握することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力） ②学術文献が前提としている知識を十分に持っている。（専門的知識） ③理解した内容をまとめて詳細に説明することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力）	①日本美術史に関する専門的な内容の学術文献を読んで、内容を把握することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力） ②学術文献が前提としている知識を十分に持っている。（専門的知識） ③理解した内容をまとめて説明することができる。（分析力・洞察力・論理的思考力）
放送ドラマ各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	テレビメディアの特性を考えながら、主として「ドラマ」にスポットを当て、「ドラマ」が時代の流れとどのように関係し、その姿や内容、演出などがどのように変化してきたかについて考えていく。テレビ放送の歴史から今までの、放送、実行といった時代背景がどう「ドラマ」の中に反映されてきたか映像資料も使用しながら検討していくこととする。	1. テレビドラマと時代との関係について深い知識を身につける。（専門的知識） 2. テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていくことが可能か主体的に考察することができるようになる。（洞察力・分析力・論理的思考力）	1. テレビドラマと時代との関係についてある程度の知識を身につける。（専門的知識） 2. テレビというメディアが社会の中でどのような役割を果たしていくことが可能か自分なりに考察することができるようになる。（洞察力・分析力・論理的思考力）
放送ドラマ各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	テレビメディアの歴史において、テレビドラマは様々な役割を担ってきた。時代とリンクして社会現象にまでつながる作品も少なくない。授業では話題を呼び、今なお人々の記憶に残っているドラマのいくつかを様々な角度から読み解いていく。また、技術的な進化、ドラマの作り手と視聴者との関係の変化などテレビドラマを取り巻く状況についての見聞も深め、具体的な作品について考察するための手がかりを習得する。	1. テレビドラマが同世代の社会問題や流行を反映している事例を理解し、メディアとしての特性に深く関心をもつことができるようになる（専門的知識・幅広い教養）（論理的思考力、リテラシー） 2. 話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を主体的に考察するための手がかりを習得する（洞察力・分析力）	1. テレビドラマが同世代の社会問題や流行を反映している事例を理解し、基本的なメディアとしての特性を理解できるようにする（専門的知識、幅広い教養）（論理的思考力、リテラシー） 2. 話題性が高かったテレビドラマに触れながら、作り手と視聴者との関係を考察するための手がかりを習得する（洞察力・分析力）
芸術環境	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	この授業では、演劇を中心に、社会が芸術をどのように支えているか、その環境はどのような理念と実践によって実現されているかを知り、一人ひとりがそれを支える役割として何が出来るかを考える。	演劇や芸術を成立させる環境について、具体的な知識を基に理解している。（専門的知識、幅広い教養） 将来的にどのような芸術環境があるべきか、現状の問題点を踏まえ、具体的に考えて論じることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力）	演劇や芸術を成立させる環境について、一通り理解している。（専門的知識、幅広い教養） 将来的にどのような芸術環境があるべきか、自分なりに考えて論じることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力）
音楽	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	西洋クラシック音楽について学ぶ。授業ではさまざまな作曲家及び作品をとりあげる。作曲家の生涯やその時代を踏まえたりと、多くのジャンルの作品を鑑賞し、西洋音楽について広く知ることを目的とする。	1. 西洋クラシック音楽の諸ジャンルについて、授業で取り上げた作品の基本的な特徴を理解することができる。（専門的知識・幅広い教養） 2. 授業で学んだことを踏まえて、強い関心をもって作品を鑑賞することができる。（洞察力・分析力、主体的関与、論理的思考力）	1. 西洋クラシック音楽の諸ジャンルについて、それぞれの違いを理解することができる。（専門的知識・幅広い教養） 2. 授業で学んだことを生かして作品を鑑賞することができる。（洞察力・分析力、主体的関与、論理的思考力）
発声朗読法Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	この授業は、朗読を通して日本語の魅力、その響きの美しさを認識することを目的とする。基礎となる発声方法から学び、文学作品を読み込んでいく過程で朗読の実践方法をさらに習得していく。また、実際に文学作品を中心に朗読の実践を行い、文章の流れ、登場人物の人間性、風景描写、遠近感などの理解を深め、音として作品の素晴らしさを体感する。	1. 積極的に授業に臨み、作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。（専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力） 2. 他の学生の解釈や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術をより深めることができる。（洞察力、主体的関与、リーダーシップ）	1. 授業で取り上げる作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。（専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力） 2. 他の学生の解釈や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術に生かすことができる。（洞察力、主体的関与、リーダーシップ）
発声朗読法Ⅱ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	この授業は、発声朗読法Ⅰに続き、朗読を通して日本語の魅力、その響きの美しさを認識することを目的とする。発声朗読法Ⅰで学んだ基礎をもとに、文学作品を読み込んでいく過程で朗読の実践方法をさらに習得していく。また、実際に文学作品を中心に朗読の実践を行い、文章の流れ、登場人物の人間性、風景描写、遠近感などの理解を深め、音として作品の素晴らしさを体感する。	1. 発声朗読法Ⅰに続き、積極的に授業に臨み、作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。（専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力） 2. 他の学生の解釈や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術をより深めることができる。（洞察力、主体的関与、リーダーシップ）	1. 授業で取り上げる作品への理解を深めるとともに、聞き手に伝えるよう表現力を磨く。（専門的知識、幅広い教養、分析力、論理的思考力） 2. 他の学生の解釈や朗読を享受することを通じて、自らの知見や技術に生かすことができる。（洞察力、主体的関与、リーダーシップ）
舞台演習	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	演劇は演じる人と観る人が分かれたときに最も豊かな形で誕生した。「演じる」ということは演劇を成り立たせている重要な要素である。例えば戯曲を朗読しただけでは、まだ演劇は成立しない。しかも音読した瞬間、そこには演技が入り込む余地が生まれ、演劇が成立する可能性が生じる。演劇研究の観点から「演じる」ということは「演じる」が不可欠な要素である。ここでは演劇研究のための基礎的意義として、「演じる」ということへの関心を深めることを目的とする。	1. 台本の内容を深く読み込み、魅力的に表現できるようにする。（専門的知識、幅広い教養） 2. 伝わるように表現することがなぜ難しいのか演劇の特性をふまえて考えられるようになる。（論理的思考力、洞察力、分析力） 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）	1. 台本の役割を理解し、読む段階と演じる段階との差異を実感できるようにする。（専門的知識、幅広い教養） 2. 自らの理解を表現することがなぜ難しいのか考えられるようになる。（論理的思考力、洞察力、分析力） 3. 他者と協力することができる。（主体的関与・リーダーシップ）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位取得目標 (成績評価C)
書道I	文芸学部 専門分野I	2	1	書写教育の基礎となる「文字の実用性」と「文字の表現美」を、書道史を辿りながら追求してゆく。特に、文字の発生から行書体に至るまでを辿り、楷書体・隷書体・草書体の基本的な用筆法を学び、書写教育の主軸となる行書体の確実な実技力(毛筆力)を身につける。	1.毛筆(行書体)によるすぐれた表現技術を習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構造美と表現美について広汎に理解できる。(専門的知識) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさを深く鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)	1.毛筆(行書体)による表現技術をある程度習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構造美と表現美についてある程度理解できる。(専門的知識・洞察力) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさをある程度鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)
書道II	文芸学部 専門分野I	2	1	書写教育の基礎となる「文字の実用性」と「文字の表現美」を、書道史を辿りながら追求してゆく。特に、楷書体の芽生えから現代に至るまでを書道史で辿り、書写教育の主軸となる楷書体の実技力と原理を確実に習得する。また、仮名の造形美と表現美を追求する。	1.毛筆(楷書体)によるすぐれた表現技術を習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構造美と表現美について広汎に理解し、説明できる。(専門的知識) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさをより深く鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)	1.毛筆(楷書体)による表現技術を習得できる。(洞察力・分析力) 2.多くの古典に触れ、文字構造美と表現美について理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) 3.多くの書道作品に触れ、文字の美しさを一通り鑑賞できる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力)
新芸術演習 AI	文芸学部 専門分野I	2	1	歌麿や能、人形浄瑠璃の代表的な作品について理解を深める。テキストを読み、映像も使いながら、各作品の特徴を掴む。また作品論などの先行研究を取り上げ、作品へのアプローチの可能性を探る。	1. 古典芸能のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解し、考察に生かすことができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究を踏まえて、作品に対する自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 古典芸能のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究の内容を口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) (洞察力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見に耳を傾け、自分の意見も言うことができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
新芸術演習 AII	文芸学部 専門分野I	2	1	新芸術演習AIに続き、歌麿や能、人形浄瑠璃の代表的な作品について理解を深める。テキストを読み、映像も使いながら、各作品の特徴を掴む。また作品論などの先行研究を取り上げ、作品へのアプローチの可能性を探る。	1. 新芸術演習AIに続き、古典芸能のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解し、考察に生かすことができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究を踏まえて、作品に対する自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 古典芸能のテキストを読んで、作品の概要やあらすじを理解することができる。(専門的知識・幅広い教養) 2. 先行研究の内容を口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力・分析力) (洞察力) 3. 意見交換の中で、他の受講生の意見に耳を傾け、自分の意見も言うことができる。(論理的思考力、リテラシー) (洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
新芸術演習 BI	文芸学部 専門分野I	2	1	日本の近現代の戯曲を取り上げていく。明治前期から大正末期までは外国の戯曲の影響をうけながら新しい演劇の姿を模索していた時期である。またそれを上回る新しい俳優を十分に用意できなかった状況でもなかった。同時代の資料も確認しながら、上演の問題も考えられるようになることをめざす。	1. 明治前期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての深く知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近現代の戯曲を多角的な視点をもって読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して自由に考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 明治前期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近現代の戯曲を正確に読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近現代の戯曲について自ら考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
新芸術演習 BII	文芸学部 専門分野I	2	1	新芸術演習BIに続き、日本の近現代の戯曲を取り上げていく。明治前期から大正末期までは外国の戯曲の影響をうけながら新しい演劇の姿を模索していた時期である。またそれを上回る新しい俳優を十分に用意できなかった状況でもなかった。同時代の資料も確認しながら、上演の問題も考えられるようになることをめざす。	1. 新芸術演習BIに続き、明治前期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての深く知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近現代の戯曲を多角的な視点をもって読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して自由に考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 明治前期から昭和30年頃までの代表的な日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 2. 近現代の戯曲を正確に読むことができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 近現代の戯曲について自ら考察することができる。(洞察力・分析力) 4. 他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
新芸術演習 CI	文芸学部 専門分野I	2	1	この演習では、西洋の名作戯曲を歴史的背景を踏まえて読む。様々な時代や文化、歴史的出来事によってどのように戯曲は変化するのか、その方法論を踏まえた上で議論する。	1. 西洋の名作戯曲について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代性や周辺との関連を含めて理解し、具体的に記述できるようにする。(専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1.西洋の名作戯曲について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代性や周辺との関連を含めて一通り理解し、説明できるようにする。(専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
新芸術演習 CII	文芸学部 専門分野I	2	1	新芸術演習CIに続き、この演習では、西洋の名作戯曲を歴史的背景を踏まえて読む。様々な時代や文化、歴史的出来事によってどのように戯曲は変化するのか、その方法論を踏まえた上で議論する。	1. 新芸術演習CIに続き西洋の名作戯曲について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代性や周辺との関連を含めて理解し、具体的に記述できるようにする。(専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1.西洋の名作戯曲について、歴史的背景を踏まえた上で、その時代性や周辺との関連を含めて一通り理解し、説明できるようにする。(専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
新芸術演習 DI	文芸学部 専門分野I	2	1	宝塚歌劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	1. 宝塚歌劇について主体的な考察ができる。(洞察力・分析力) 2. 宝塚歌劇について基本的な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 宝塚歌劇について基本的な考察ができる。(洞察力・分析力) 2. 宝塚歌劇について基本的な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記号	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
劇芸術演習 DI	文芸学部 専門分野 I	2	1	劇芸術演習D Iに続き、宝塚歌劇について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 劇芸術演習D Iに続き、宝塚歌劇について主体的な考察ができる。（洞察力・分析力） 2. 宝塚歌劇について高度な知識・理解力・思考力を身につけている。（専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宝塚歌劇について基本的な考察ができる。（洞察力・分析力） 2. 宝塚歌劇について基本的な知識・理解力・思考力を身につけている。（専門的知識・幅広い教養・洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）
劇芸術演習 EI	文芸学部 専門分野 I	2	1	この授業では映像作品を取り上げ、表現の特質や作品を研究するための基本的な知識を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 映像作品を研究する上で必要とされる専門的な考え方や知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2. 映像作品を鑑賞して深く考察し、説明することができる。（洞察力・分析力） 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をあらかじめ考えをねり、感覚を言葉で説明することができる。（論理的思考力、リテラシー） 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 映像作品を研究する上で必要な考え方や知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2. 映像作品を鑑賞して考察し、説明することができる。（洞察力・分析力） 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をあらかじめ、感覚を言葉で説明することができる。（論理的思考力、リテラシー） 4. 他者と協力することができる。（主体的関与・リーダーシップ）
劇芸術演習 EII	文芸学部 専門分野 I	2	1	劇芸術演習E Iに続き、この授業では映像作品を取り上げ、表現の特質や作品を研究するための基本的な知識を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 劇芸術演習E Iに続き、映像作品を研究する上で必要とされる専門的な考え方や知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2. 映像作品を鑑賞して深く考察し、説明することができる。（洞察力・分析力） 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をあらかじめ考えをねり、感覚を言葉で説明することができる。（論理的思考力、リテラシー） 4. 積極的に他者と協力して成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 劇芸術演習E Iに続き、映像作品を研究する上で必要な考え方や知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 2. 映像作品を鑑賞して考察し、説明することができる。（洞察力・分析力） 3. 自身と映像作品についての関係に思いをめぐらせて、資料をあらかじめ、感覚を言葉で説明することができる。（論理的思考力、リテラシー） 4. 他者と協力することができる。（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 AI	文芸学部 専門分野 I	2	1	日本美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を獲得することを目的とする。具体的には、作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての基本的な知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての基本的な知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 AII	文芸学部 専門分野 I	2	1	美術史演習A Iに続き、日本美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一段高めることを目的とする。具体的には、作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての高度な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての高度な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細かつ広範囲に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 BI	文芸学部 専門分野 I	2	1	日本およびアジア諸地域の近現代美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一段高めることを目的とする。具体的には、作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての基本的な知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての基本的な知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習 BII	文芸学部 専門分野 I	2	1	美術史演習B Iに続き、日本およびアジア諸地域の近現代美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一段高めることを目的とする。具体的には、作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文献の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養う。	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての高度な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての高度な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細かつ広範囲に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> ①美術作品に表現された主題についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
美術史演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	ヨーロッパ（中南米およびアジア・アフリカの一部を含む）の美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を養育することを目的とする。具体的には作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養育する。	①美術作品に表現された主題についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての十分な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての基本的な知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての基本的な知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる程度である（主体的関与・リーダーシップ）
美術史演習Ⅱ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	美術史演習Ⅰに続き、ヨーロッパ（中南米およびアジア・アフリカの一部を含む）の美術史に関する考察・研究を行う上で不可欠な知識を身につけるとともに、方法論を理解し、研究を実践する能力や技能を一層高めることを目的とする。具体的には作品を実際に観察・分析・記述する能力、主題とその表現形式に関する知識、文脈の批判的読解能力の獲得である。それらを踏まえて、美術史に関する自身の関心を養育する。	美術史演習Ⅰに続き、①美術作品に表現された主題についての高度な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての高度な知識をもち説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細かつ広範囲に調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて的確に発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	①美術作品に表現された主題についての知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ②表現形式についての知識をもちある程度説明することができる。（専門的知識・洞察力） ③文献資料や作品について、文献やインターネットで調査することができる。（分析力） ④調査した事項をまとめて発表できる。（分析力・論理的思考力） ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる程度である（主体的関与・リーダーシップ）
ジェンダー各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	欧米を中心とする文化、社会におけるジェンダーのありようを、具体的な事象に即して考察する。	1. 欧米の文化、社会におけるジェンダーのありようを深く理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. 自らの生きる文化、社会におけるジェンダーのありようと比較して、これを相対化することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて、自分なりの意見を述べるることができる（分析力・論理的思考力）	1. 欧米の文化、社会におけるジェンダーのありようを理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. 自らの生きる文化、社会におけるジェンダーのありようと比較することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて意見を述べるることができる（分析力・論理的思考力）
ジェンダー各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本・アジアを中心とする文化、社会におけるジェンダーのありようを、具体的な事象に即して考察する。	1. 日本・アジアの文化、社会におけるジェンダーのありようを深く理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. そのほかの地域の文化、社会におけるジェンダーのありようと比較して、これを相対化することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて、自分なりの意見を述べるることができる（分析力・論理的思考力）	1. 日本・アジアの文化、社会におけるジェンダーのありようを理解し、説明できるようになる（専門的知識） 2. そのほかの地域の文化、社会におけるジェンダーのありようと比較することができる（洞察力） 3. グローバル時代のジェンダーのありようについて意見を述べるることができる（分析力・論理的思考力）
現代文化各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	欧米を中心とする現代文化の特定の領域について、絵画・音楽・文学などを通じて見てゆき、その時代・場所に特徴的なありようを知ることを通じて、現在自分が身を置いている時代・場所の文化とのつながりや違いについて考察する。	1. 欧米の現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 欧米の現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に活用することができるようになる（洞察力・論理的思考力）。	1. 欧米の現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについてある程度説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 欧米の現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、考察し、それを表現することができるようになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために活用することができるようになる（洞察力・論理的思考力）。
現代文化各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本・アジアを中心とする現代文化の特定の領域について、絵画・音楽・文学などを通じて見てゆき、その時代・場所に特徴的なありようを知ることを通じて、現在自分が身を置いている時代・場所の文化とのつながりや違いについて考察する。	1. 日本・アジアの現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについて正確に説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本・アジアの現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に活用することができるようになる（洞察力・論理的思考力）。	1. 日本・アジアの現代文化の学習を通じて、それがどのような特徴を持っているのかについてある程度説明できるようになる（幅広い教養・専門的知識） 2. 日本・アジアの現代文化について理解した上で、みずから問いを立て、考察し、それを表現することができるようになる（リテラシー・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために活用することができるようになる（洞察力・論理的思考力）。
歴史文化各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	欧米を中心とする文化の多様性と個性性、歴史学的な視点から考察する。	1. 欧米を中心とする文化の多様性・個性性について、深い知識を習得している（専門的知識）。 2. 欧米を中心とする文化の多様性・個性性について、高度な分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 3. 欧米を中心とする文化の多様性・個性性についての深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。	1. 欧米を中心とする文化の多様性・個性性について、基礎的な知識を習得している（専門的知識）。 2. 欧米を中心とする文化の多様性・個性性について分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 欧米を中心とする文化の多様性・個性性についての関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。
歴史文化各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	日本・アジアを中心とする文化の多様性と個性性、歴史学的な視点から考察する。	1. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個性性について、深い知識を習得している（専門的知識）。 2. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個性性について、高度な分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 3. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個性性についての深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。	1. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個性性について、基礎的な知識を習得している（専門的知識）。 2. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個性性について分析・考察ができ、自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 日本・アジアを中心とする文化の多様性・個性性についての関心・意欲をもって授業に臨むことができる（関心・意欲・態度）。

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
思想文化各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	主に欧米系の哲学・思想の展開を概観し、考察する。その際、イギリス経験論や大陸合理論といった思想の対立論や、キリスト教、あるいは産業革命を経て成立する資本主義と科学、さらには認識論や倫理における理性と感性の働き、アメリカ哲学等々、さまざまなバースペクティブから分析・考察する。	1.欧米系の哲学・思想を概観説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.欧米系それぞれの哲学・思想が有する問題点を具体的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.設定されたバースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を哲学的に考察できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4.授業で培った理解に基づいて哲学的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.欧米系の哲学・思想を概観できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.欧米系それぞれの哲学・思想が有する問題点を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.設定されたバースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を考察できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4.授業で培った理解に基づいてレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
思想文化各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	主にアジア系の哲学・思想の展開を概観し、考察する。その際、原始仏教とその後に展開する大乘あるいは小乗仏教や、インダ哲学、孔孟あるいは老荘思想といった古代中国思想の概観、さらには神道や独自に形成される日本人の精神(たとえば死生観)等々、さまざまなバースペクティブから分析・考察する。	1.アジア系の哲学・思想を概観説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.アジア系それぞれの哲学・思想が有する問題点を具体的に理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.設定されたバースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を哲学的に考察できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4.授業で培った理解に基づいて哲学的なレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.アジア系の哲学・思想を概観できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 2.アジア系それぞれの哲学・思想が有する問題点を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考力) 3.設定されたバースペクティブを理解し、そこから対象となる事象を考察できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 4.授業で培った理解に基づいてレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
神話・伝説各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	主として欧米系の社会、文化における言説の伝承と伝播の諸相を取り上げ、具体的な事例に則しつつ、その特質を論じ、究明する。	1.社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げつつ正確に説明することができる(専門的知識) 2.その伝承と伝播が欧米系の社会、文化とどのような関係にあるのかを深く考察し、自分の言葉で説明することができる(洞察力) 3.特定の神話・民話作品について分析し、的確に論じることができる(分析力・論理的思考力)	1.社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げることができる(専門的知識) 2.その伝承と伝播が欧米系の社会、文化とどのような関係にあるのかを考察することができる(洞察力) 3.特定の神話・民話作品について分析し、論じることができる(分析力・論理的思考力)
神話・伝説各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	主としてアジア系の社会、文化における言説の伝承と伝播の諸相を取り上げ、具体的な事例に則しつつ、その特質を論じ、究明する。	1.社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げつつ正確に説明することができる(専門的知識) 2.その伝承と伝播がアジア系の社会、文化とどのような関係にあるのかを深く考察し、自分の言葉で説明することができる(洞察力) 3.特定の神話・民話作品について分析し、的確に論じることができる(分析力・論理的思考力)	1.社会、文化における言説の伝承と伝播について、具体例を挙げることができる(専門的知識) 2.その伝承と伝播がアジア系の社会、文化とどのような関係にあるのかを考察することができる(洞察力) 3.特定の神話・民話作品について分析し、論じることができる(分析力・論理的思考力)
物語文化各論A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	主として欧米系の文学作品のジャンル(映像、絵画、漫画、舞台芸術など)との関連から読み解く。	1.主として欧米の物語文化についての具体的な知識をえている(専門的知識) 2.主として欧米の物語文化について自ら問いを立て、考察し、説得力をもって表現することができる(洞察力) 3.授業で得た知識、考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(分析力・論理的思考力)	1.作品名をいくつか挙げる(専門的知識) 2.作品について基礎的な説明することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)
物語文化各論B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	主としてアジア系の文学作品を他のジャンル(映像、絵画、漫画、舞台芸術など)との関連から読み解く。	1.主としてアジア系の物語文化についての具体的な知識をえている(専門的知識) 2.主としてアジア系の物語文化について自ら問いを立て、考察し、説得力をもって表現することができる(洞察力) 3.授業で得た知識、考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(分析力・論理的思考力)	1.作品名をいくつか挙げる(専門的知識) 2.作品について基礎的な説明することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)
中国文化各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	中国文化が東アジアの文化の伝播、伝承に果たしてきた役割は大きい。この科目ではそうした中国文化の意義と役割に着目し、中国文化の諸相、内実を考え、現代文化を読み解く手法を追究する。	1.中国文化の様々な面について深く理解し、その特徴を自分の言葉で述べることができる。(専門的知識) 2.中国文化が文化の伝播、伝承に果たす役割について深く理解し、議論することができる。(洞察力) 3.現代文化における中国文化の意義と意義について深く理解し、「いま・ここ」の分析と考察に役立てることができる。(分析力・論理的思考力)	1.中国文化の実例を挙げ、その特徴を自分の言葉で述べることができる。(専門的知識) 2.中国文化が文化の伝播、伝承に果たす役割を挙げ、その実例を述べることができる。(洞察力) 3.中国文化における漢字文化の意義と意義について、自分の言葉で考えを述べることができる。(分析力・論理的思考力)
地中海文化各論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	地中海文化は欧米系の社会、文化の形成、展開に大きな影響を及ぼし続けている。この科目ではその具体的な諸相を議論しつつ、地中海文化を見るまなざしを培う。	1.地中海文化を深く理解し、具体例を挙げつつその要素、構造、性質を説明することができる(専門的知識・分析力) 2.地中海文化が欧米系の社会、文化に及ぼしている影響について深く理解し、自分の言葉でその関係を議論することができる(洞察力・論理的思考力)	1.地中海文化を理解し、具体例を挙げつつその要素、構造、性質を説明することができる(専門的知識・分析力) 2.地中海文化が欧米系の社会、文化に及ぼしている影響について理解し、その関係を議論することができる(洞察力・論理的思考力)
文化研究の手法A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	物語の理解に関する基礎的な知識を身につけ、文芸作品を分析することを学ぶ。	1.物語を研究するために必要な知識が身につけている(専門的知識) 2.物語を研究するために必要な技法が身につけている(リテラシー) 3.知識、技法を用いて、物語の具体的な分析をし、説得力のある説明を施すことができる(洞察力・分析力) 4.他者と意見を交換し、自分の考えを構築することができる(論理的思考力)	1.物語を理解するための方法をいくつか挙げることができる(専門的知識) 2.作品について説明することができる(洞察力・分析力) 3.他者と意見を交換し、自分の考えをある程度構築することができる(論理的思考力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
文化研究の手法B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	アンケート調査やインタビュー調査、フィールドワークといった社会調査に関する基本的な知識と技能を学ぶ。	1. 社会学の調査方法を正しく理解できる (専門的知識) 2. 調査倫理について正しく理解できる (専門的知識) 3. アンケート、インタビュー、フィールドワークといった調査方法を用いて、対象を分析することができる (洞察力・分析力) 4. 分析結果を正しく考察することができる (論理的思考力)	1. 社会学の調査方法をおおむね理解できる (専門的知識) 2. 調査倫理について正しく理解できる (専門的知識) 3. アンケート、インタビュー、フィールドワークといった調査方法を用いて、対象を分析することができる (洞察力・分析力) 4. 分析結果を考察することができる (論理的思考力)
文化研究の手法C	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	時代という文脈を踏まえて過去の所産を理解し、研究するための視座、基本的な知識と技能を学ぶ。	1. 歴史、思想を研究するために必要な知識が身についている (専門的知識) 2. 歴史、思想を研究するために必要な技法が身についている (洞察力・分析力) 3. 知識、技法を用いて、歴史、思想の具体的な分析をし、説得力のある説明を構築することができる (論理的思考力)	1. 歴史、思想を研究するために必要な基礎的な知識が身についている (専門的知識) 2. 歴史、思想を研究するために必要な基礎的な技法が身についている (洞察力・分析力) 3. 知識、技法を用いて、歴史、思想の具体的な分析をし、説明を構築することができる (論理的思考力)
思想文化演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	グループワークを通じて、私たち日本人の生活世界の基盤にある「ものの見方・考え方」を、主に思想と信仰の側面から考察する。Ⅰではキリスト教および仏教それぞれの思想的な源流が、いかに現代の私たち日本人の暮らしに流れ込み、影響を与えているのかを分析し検証する。最終的には神道をも対象に入れつつ、私たち日本人独自の「ものの見方・考え方」や思想・信仰がどのように形成されてきたのか、その構造的な原理を理解する。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの基本的な思想、原始・大衆宗教の基本的な思想、基本的な中国思想を理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考) 3. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの基本的な思想、原始・大衆宗教の基本的な思想、基本的な中国思想それぞれの展開を理解し、さらには神道とその展開についても理解し、説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考) 4. 理解した思想にもとづき、日本人のものの考え方やへの影響と形成に関して、自らの有効な意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 5. 自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 6. 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ) 7. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 8. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆宗教の思想、中国思想を概観的に理解説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考) 3. 理解した思想にもとづき、日本人のものの考え方やへの影響と形成に関して自らの意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 4. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 5. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
思想文化演習Ⅱ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	グループワークを通じて、私たち日本人の生活世界の基盤にある「ものの見方・考え方」を、主に思想と信仰の側面から考察する。Ⅱでは神道および先住民(アイヌ)それぞれの思想的な源流が、いかに現代の私たち日本人の暮らしに流れ込み、影響を与えているのかを分析し検証する。私たち日本人独自の「ものの見方・考え方」や思想・信仰がどのように形成されてきたのか、その構造的な原理を理解する。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆宗教の思想、中国思想を専門的に理解し、具体的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考) 3. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆宗教の思想、中国思想それぞれの展開を専門的に理解し、さらには神道とその展開についても理解し、具体的に説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考) 4. 理解した思想にもとづき、日本人のものの考え方やへの影響と形成に関して、自らの有効な意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 5. 自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 6. 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ) 7. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 8. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 各思想・信仰に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。(幅広い教養・リテラシー・専門的知識) 2. 入手した資料をもとに、ヘレニズム・ヘブライズムの思想、原始・大衆宗教の思想、中国思想を理解説明できる。(専門的知識・分析力・論理的思考) 3. 理解した思想にもとづき、日本人のものの考え方やへの影響と形成に関して自らの意見を展開することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 4. 授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考) 5. グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
芸術社会演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	芸術社会を対象に、基礎的なテキスト・資料を読み解き、考察する。また発表、グループワーク、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1. 作品や事象について適切に理解し説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象を適切に分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を適切に表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 作品や事象を説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象を分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
芸術社会演習Ⅱ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	芸術社会を対象に、基礎的なテキスト・資料を読み解くとともに、自らデータを収集し、考察する。また発表、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1. 作品や事象について正しく理解し説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象とそれとまつるデータを適切に分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を適切に表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 作品や事象を説明することができる(専門的知識) 2. 作品や事象とそれとまつるデータを分析することができる(洞察力・分析力) 3. 分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
物語文化演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	国、ジャンルを問わず、文芸作品(小説、映画、漫画など)を取り上げ、物語文化を考察する。文献探し、グループ発表、討論を通して意見を構成し、他人に伝える力を身につける。	1. 物語文化に関する批評についての基礎的な知識をえている(専門的知識)。 2. 作品を分析することができる(洞察力・分析力)。 3. 調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 物語文化について基礎的な事例をおげることができる(専門的知識) 2. 発表、レポートを行なう最低限の能力を身につけている(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
物語文化演習Ⅱ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	国、ジャンルを問わず、文芸作品(小説、映画、漫画など)を取り上げ、物語文化を考察する。文献探し、個人発表、討論を通して意見を構成し、他者に伝える力を身につける。	1. 物語文化に関する批評についての知識をえている(専門的知識)。 2. 作品を分析することができる(洞察力・分析力)。 3. 調査・分析の結果を表現することができる(論理的思考力) 4. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1. 物語文化について事例をおげることができる(専門的知識) 2. 発表、レポートを行なう最低限の能力を身につけている(洞察力・分析力・論理的思考力) 3. 他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
比較文化演習Ⅰ	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	国や時代の異なる文芸作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を理解する。それについてグループ発表することで、他人に伝える技術を磨く。	1. それぞれの基礎的な文芸作品について、他の作品との違いから魅力や価値を判断し、自分の言葉で伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考) 2. 比較する文芸作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な刺激を与えられる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. それぞれの基礎的な文芸作品について、他の作品との違いからある程度は魅力や価値を判断し、自分の言葉で最低限、伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考) 2. 比較する文芸作品についての初歩的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけていく。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自由に有意義な刺激を与えようとしている。(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
比較文化演習II	文芸学部 専門分野I	2	1	国や時代の異なる文芸作品同士、あるいは作品と現実の社会等と比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を理解する。それについて個人発表することで、他の人に伝える技術を磨く。	1. それぞれのやや基礎的な文芸作品について、他の作品との違いから魅力や価値を判断し、自分の言葉で伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 比較する文芸作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自他に有意義な刺激を与えられる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. それぞれのやや基礎的な文芸作品について、他の作品との違いからある程度は魅力や価値を判断し、自分の言葉で論議し、伝えることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 2. 比較する文芸作品についての初歩的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけ始める。(専門的知識) 3. 他の学生の発表にコメントすることで自他に有意義な刺激を与えようとしている。(主体的関与・リーダーシップ)
歴史文化演習I	文芸学部 専門分野I	2	1	日本史の史料や歴史書などのうち、基礎的なテキストを読み解き、時代の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、深い知識を習得している(専門的知識)。 2.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを、正確に読み解くことができる(技能)。 3.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学の方法論によって高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力)。 4.日本史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度)。 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1.日本史の史料や歴史書などより基礎的なテキストについて、基礎的な知識を習得している(専門的知識)。 2.日本史の史料や歴史書などのより基礎的なテキストを読み解くことができる(技能)。 3.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学の方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力)。 4.日本史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度)。 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
歴史文化演習II	文芸学部 専門分野I	2	1	日本史の史料や歴史書などのうち、基礎的なテキストを読み解き、時代と社会の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、より深い知識を習得している(専門的知識)。 2.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを、より正確に読み解くことができる(技能)。 3.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学の方法論によってより高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力)。 4.日本史の研究全般に対するより高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度)。 5.他者と協力しながら、より主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.日本史の史料や歴史書など基礎的なテキストについて、基礎的な知識を習得している(専門的知識)。 2.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストを読み解くことができる(技能)。 3.日本史の史料や歴史書などの基礎的なテキストについて、歴史学の方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる(洞察力・分析力・論理的思考力)。 4.日本史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる(関心・意欲・態度)。 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
地中海文化演習I	文芸学部 専門分野I	2	1	地中海文化にかなる基本的な文章を読み解き、それに基づいて地中海文化について考え、世界の中の地中海文化について議論するための基礎を固め、基本的な知識を学ぶ。	1.基本的な文章から地中海文化の要素、構成、特質を正確に読み取ることができる(専門的知識) 2.その情報を用いて、地中海文化と世界の関係について、自分の言葉で説明することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.基本的な文章から地中海文化の要素、構成、特質を読み取ることができる(専門的知識) 2.その情報を用いて、地中海文化と世界の関係について、説明することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
地中海文化演習II	文芸学部 専門分野I	2	1	地中海文化にかなる基本的な文章を読み解き、それに基づいて地中海文化について考え、世界の中の地中海文化について議論するための基礎を固め、基本的な知識を充実させる。	1.基本的な文章から地中海文化の要素、構成、特質を正確に、かつ有機的に読み取ることができる(専門的知識) 2.その情報を用いて、地中海文化と世界の関係について、自分の言葉で説明することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.基本的な文章から地中海文化の要素、構成、特質を正確に読み取ることができる(専門的知識) 2.その情報を用いて、地中海文化と世界の関係について、説明することができる(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
現代文化演習I	文芸学部 専門分野I	2	1	現代文化のさまざまなありようを、グループワークで、文献、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1.現代文化について、文献や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識)。 2.みずからが得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力)。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる(論理的思考力・リテラシー)。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.現代文化について、文献や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識)。 2.みずからが得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力)。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことを伝達することができるようになる(論理的思考力・リテラシー)。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
現代文化演習II	文芸学部 専門分野I	2	1	現代文化のさまざまなありようを、個人で、文献、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1.現代文化について、文献や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識)。 2.みずからが得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力)。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる(論理的思考力・リテラシー)。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.現代文化について、文献や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる(専門的知識)。 2.みずからが得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を計画し、実行することができるようになる。(洞察力・分析力)。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことを伝達することができるようになる(論理的思考力・リテラシー)。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。
中国文化演習I	文芸学部 専門分野I	2	1	中国の基本的な文学作品に触れ、中国文化に出会う機会としつつ、中国のことわざから、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身が感じたことを表現する力を身につける。	1.中国文化の基本的な特色をよく理解し、説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを簡潔に示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.中国文化の基本的な特色を一定程度理解し、その要点を説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)。

科目名称	科目区分	記年度次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位取得目標 (成績評価C)
中国語文化演習II	文芸学部 専門分野I	2	1	中国の基本的な文学作品に触れ、中国文化に出会った経験を分かちあう。中国のことにとらわれず、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身が感じたことを表現する力を身につける。	1.中国語の基本的な文法を十分理解し、説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを筋道を立てて示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組みることができる(主体的関与・リーダーシップ)。	1.中国語の基本的な文法を一定程度理解し、説明することができる。(専門的知識) 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 3.他者と協力しながら、主体的に取り組みることができる(主体的関与・リーダーシップ)。
メディアと文芸A	文芸学部 専門分野I	2	2	メディアと文芸Aでは「放送メディア」について幅広く学ぶ。放送・音声メディアである放送は、数百年前から人々に同時に伝達される「メディア」として巨大な役割を担ってきた。日本の政治・社会・文化に大きな影響を与えてきた。その一方で放送は今日、デジタル化や「放送・通信の融合」、インターネット、ソーシャルメディア、携帯情報端末の普及といったメディア環境の急激な変化の中で、大きな転換期を迎えている。これらを背景に、本講義ではメディアとは何か、放送とは何かという基礎論を身につけること、さらには放送の歴史、放送のあり方について多角的に検討し、放送のあるべき姿や将来、課題等を探り、理解する。	1.放送をとりまく現代の状況について理論的、および実践的に理解・説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 2.メディア環境の変化が放送にもたらしている影響などについて理論的、および実践的に理解・説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 3.メディアとは何か、放送とは何かについて基礎論を理解したうえで総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.放送をとりまく現代の状況についての基本的な事項について理解・説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 2.メディア環境の変化が放送にもたらしている基本的な事項について理解・説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 3.メディアとは何か、放送とは何かについて基礎論を理解したうえで最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディアと文芸B	文芸学部 専門分野I	2	2	メディアと文芸Bでは「出版メディア」に関する歴史や文化について幅広く学ぶ。出版文化は歴史的に、文字の発明から写本時代、次いで印刷を基礎として成り立ってきた。近年、デジタル化・ネットワーク化の広がりによって出版形態自体も多様化し、出版の定義は必ずしも紙に印刷されたものだけに限定されない状況がもたれている。こうした状況は、人々の読書のあり方や出版流通の形態、著者・出版社・読者の関係性にも少なからぬ変化を迫っている。本講義では従来の紙を中心としたアナログの出版文化に加え、複数のデジタル化・ネットワーク化による出版文化の姿容を軸に、出版メディアをとりまく諸問題について理解する。	1.出版メディアに関する歴史と文化について、その背景を含めて総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力) 2.日本における出版流通の特色について、制度上の長所短所をふまえて、具体的な事例を挙げながら総合的に説明できる。(専門的知識・洞察力) 3.現代の出版文化をとりまくアナログ・デジタル・ネットワーク/パッケージ・コンテンツの特色のうち数個について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 4.読者と著者、出版社と取次と小売店、人々と読書など、出版メディアに関わる相互の関係性や仕組みの姿容について簡潔的に把握し総合的な説明ができる。(専門的知識・洞察力) 5.テーマに関する適切な資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)	1.出版メディアに関する歴史と文化について、基本的な事項を説明できる。(専門的知識・洞察力) 2.日本における出版流通の特色について、代表的な事例を挙げつつ最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 3.現代の出版文化をとりまくアナログ・デジタル・ネットワーク/パッケージ・コンテンツの特色のうち数個について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 4.読者と著者、出版社と取次と小売店、人々と読書など、出版メディアに関わる相互の関係性や仕組みの姿容について基本的な説明ができる。(専門的知識・洞察力) 5.テーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)
メディアと文芸C	文芸学部 専門分野I	2	2	芸術論全体の歴史的変遷とメディア論の視点からの芸術への視座について理解する。特に、複製可能なメディアによる芸術表現の今日的な意味づけと可能性について理解し、表現の一因性を旨とする伝統的な芸術作品との対比を習得する。すなわち、活版印刷技術誕生以前の絵画・彫刻・建築・音楽・ダンスなどの芸術作品と社会の関係について、あるいは印刷技術の黎明期から映画・インターネット・モバイルネットワークによって記録・複製・流通をくりかえしながら発展してきたメディアについて、歴史的変遷に検討した上で新しいメディア表現、メディア操作を指し示す可能なメディアへのアクセス能力を身につける。	(1)文学芸術の歴史の中でメディアの果たした役割を理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) (2)複製技術が文学芸術に与えた影響や思想、およびその変化について理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)コンピュータおよびそのネットワークがどのような変化を生じさせるかを追跡することが出来る。(洞察力) (4)新しいメディア表現・メディア操作を通じて、たとえば精神分析やジェンダー論に関する知識を習得し、応用できる。(専門的知識・洞察力) (5)新しいメディア表現・メディア操作を通じて、物語の深層を読み解く技法を身につけ、応用できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1)文学芸術の歴史の中でメディアの果たした役割を理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) (2)複製技術が文学芸術に与えた影響や思想、およびその変化について理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)新しいメディア表現・メディア操作を通じて、物語の深層を読み解くことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア文化論A	文芸学部 専門分野I	2	2	本科目では、雑誌という媒体が政治・経済などの社会背景やメディア環境、ジェンダー規範などの諸要因と関連しながらどのように変遷してきたかに注目し、メディア文化研究のための基礎的な力を身につけることを目指す。雑誌のどのように企画・制作・流通・消費され、人々によって消費され、アイデンティティ形成に寄与するか、というさまざまなプロセスに注目するほか、作り手や読者、モデルなどのさまざまな主体を想定し、文化としての雑誌の位置づけや意味を考えた。雑誌は読者の性別や属性、嗜好ごとに読者を想定したメディアであり、ジェンダー視点での分析が不可欠である。	(1)マスメディアとしての雑誌の機能や特性、生産・消費のプロセスを高いレベルで理解している。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2)雑誌文化が社会背景やメディア環境、ジェンダー規範などの諸要因と関連して成立していることを理解し、自分で事例を挙げながら説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3)メディアとジェンダーという観点から雑誌文化を多角的に分析することができる。(専門的知識・洞察力・分析力)	(1)マスメディアとしての雑誌の機能や特性、生産・消費のプロセスを最低限必要なレベルで理解している。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2)雑誌文化が社会背景やメディア環境、ジェンダー規範などの諸要因と関連しながら成立してきたことを理解している。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3)メディアとジェンダーという観点から雑誌文化を分析することができる。(専門的知識・洞察力・分析力)
メディア文化論B	文芸学部 専門分野I	2	2	メディア史やカルチュラル・スタディーズを含むメディア文化研究の視座をめぐり、新聞、雑誌、ラジオ、映画、テレビといったマスメディアや、インターネットやSNS等のソーシャルメディアが歴史のなかでどのように機能・形態をくりかえしながら発展してきたかについて、総合的に学ぶ。また、その歴史のみならずそれが形成してきたプロセスや文化的背景についても考えていく。具体的歴史資料や映像作品に触れながら、メディアを体系的に、そして歴史的に捉えることでメディア文化について深く理解する。	1.メディア文化の歴史と背景を理解し、各メディアごとの総合的な説明をすることができる。(専門的知識・洞察力) 2.メディア文化研究の知識と方法論を習得し、総合的に説明することができる。(専門的知識・洞察力) 3.パーソナルメディアとマスメディアの違いや特性について論理的に説明できる。(専門的知識・洞察力) 4.マスメディアの発展研究論と文化記号論双方の特色について理解し、説明することができる。(専門的知識・洞察力) 5.テーマに関する適切な資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)	1.メディア文化の歴史と背景を理解し、各メディアの一部に関して基本的な説明をすることができる。(専門的知識・洞察力) 2.メディア文化研究の知識と方法論を習得し、基本的な事項について説明できる。(専門的知識・洞察力) 3.パーソナルメディアとマスメディアの違いや特性についておおよそ説明できる。(専門的知識・洞察力) 4.マスメディアの発展研究論と文化記号論双方の特色について理解し、基本的な説明をすることができる。(専門的知識・洞察力) 5.テーマに関する適切な資料を図書館やWebにて入手し、レポート作成等に反映することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア文化論C	文芸学部 専門分野I	2	2	メディアとしての「広告」とは、どのような種類のもので、何を(広告内容)・誰に(広告ターゲット)・どのように(広告戦略および表現)・何のために(広告目的)伝達しようとするものなのか、そしてその社会的役割とは何か等々について幅広く理解し、考察する。その際、受容者たる生活者・消費者との間に瞬時に成立するコミュニケーションの性質と意味、さまざまな商品がブランディングの持つ意味、さらにその広告に込められたメッセージ性について、表象文化論的・記号論的に分析し考察する。多様な広告ジャンルの中から、どこに焦点を絞るのかによっても考察の仕方が変わるであろうが、可能な限り身近な広告を例として制作の技術的側面も触れられる。	(1)メディアとしての広告とは何か、理解し説明できる。(専門的知識・洞察力) (2)広告内容・広告ターゲット・広告戦略および表現・広告目的、そしてその社会的役割について理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)受容者との間に成立するコミュニケーションの性質と意味について理解し説明でき、他のコミュニケーションと比較考察できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (4)ブランディングとは何かを理解し、さらにその商品のブランディングの特性と意味を考察できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (5)表象文化論および記号論とは何か、理解し説明できる。(専門的知識・洞察力) (6)方法論としての表象文化論および記号論を理解し、分析技法に活用できる。(専門的知識・洞察力・分析力)	(1)メディアとしての広告とは何か、理解し説明できる。(専門的知識・洞察力) (2)広告内容・広告ターゲット・広告戦略および表現・広告目的、そしてその社会的役割について理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力) (3)受容者との間に成立するコミュニケーションの性質と意味について理解し、説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (4)ブランディングとは何かを理解し、さらにその商品のブランディングの特性と意味を説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
図書論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		2	伝統的な社会機関としての図書館について、その意義・機能や歴史、関連法規と行政、基本的機能と構築要素について知り、図書館の種類とそれぞれの役割、図書館のサービスと活動について概観し、図書館とその機能についての理解を深めるようとする。また情報化・国際化が進む社会における役割、生涯学習社会における代表的な社会教育機関としての役割や図書館が果たすべき社会的役割を考察する。	図書館の存在意義、機能、および社会の中での役割について体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) 図書館の構築要素および業務の種類について体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) 図書館司書課程の入門科目である本科目と図書館司書課程の他の科目との関連を体系的に理解し、専門用語を用いて他者に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	図書館の存在意義、機能、および社会の中での役割について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 図書館の構築要素および業務の種類について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 図書館司書課程の入門科目である本科目と図書館司書課程の他の科目との関連を理解し、具体的に述べることができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
自己表現実習	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		1	人生を振り返りつつ「私」について語ること(自己の語り)、相手に認めてもらうために行う表現(自己呈示)、相手とのコミュニケーションを想定した表現技術という3つの側面から自己表現を捉え実践的な実習を行う。自分史の語りについての概念的な把握と自分史制作、アートパフォーマンスの社会的な分析とオーディエンスを想定したパフォーマンス企画、プレゼンテーション技術の実践、という構成で自己表現を捉える知識ではなく自らのアツクとなるように学習する。	(1) 自分史の語りについての概念的な把握ができる(専門的知識) (2) 自分史を常に編集可能な制作物として完成させることができる(分析力・論理的思考力) (3) アートパフォーマンスの社会的な分析について理解できる(専門的知識) (4) オーディエンスを想定した独創的で説得力のあるパフォーマンスを企画できる(洞察力・分析力) (5) プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している(専門的知識) (6) プレゼンテーションの基礎のみならず応用技術も習得している(専門的知識)	(1) 自分史の語りについての概念的な把握ができる(専門的知識) (2) 自分史を制作物として完成させることができる(分析力・論理的思考力) (3) アートパフォーマンスの社会的な分析について理解できる(専門的知識) (4) オーディエンスを想定したパフォーマンスを企画できる(分析力・洞察力) (5) プレゼンテーションソフトの基礎技術を習得している(専門的知識)
身体メディア実習	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		1	マーシャル・マクルーハンは著書『メディア論—人間の拡張の諸相』において「すべてのメディアは人間の機能および感覚を拡張したものである」と述べている。この理論枠組みを基盤として本実習では、人間の身体にまつ様々なメディアを考察する。とりわけ、身体の一部の拡張産物であるファッション(ここでは、服装、化粧、表情やしぐさを含めた広義のファッションをさす)に焦点を当て、「ファッションは、我々の内外面を拡張するメディアである」という立場から、実習を通してファッションが果たしうる可能性について考察する。ファッションに影響を与えた映画、ポスター、雑誌、写真、ドラマ等を適宜鑑賞し理解を深め、履修者自身がセルフイメージを定めていく実践を通して、自己分析を行なう。これらの結果、美とは、自己を表現するメディアそのものであり、他者社会からの視線を介在させながら、自己を規定していることを理解する。	(1) マーシャル・マクルーハンの著書『メディア論—人間の拡張の諸相』における理論枠組みを理解することができる(専門的知識) (2) 人間の身体にまつ様々なメディアに対して深く考察することができる(洞察力・分析力) (3) 広義のファッションに焦点を当て、実習を通してファッションが果たしうる可能性について多角的に考察することができる(洞察力・分析力) (4) ファッションに影響を与えた映画、ポスター、雑誌、写真、ドラマ等を適宜鑑賞し理解を深めることができる(洞察力・分析力) (5) セルフイメージを多様に変化させることによって、美とは、自己表現メディアであることを充分に理解しそのことを具体的に記述することができる(専門的知識・洞察力・論理的思考力)	(1) マーシャル・マクルーハンの著書『メディア論—人間の拡張の諸相』における理論枠組みを理解することができる(専門的知識) (2) 人間の身体にまつ様々なメディアに対して考察することができる(洞察力・分析力) (3) 広義のファッションに焦点を当て、実習を通してファッションが果たしうる可能性について考察することができる(洞察力・分析力) (4) ファッションに影響を与えた映画、ポスター、雑誌、写真、ドラマ等を適宜鑑賞し理解を深めることができる(洞察力・分析力) (5) セルフイメージを多様に変化させることによって、美とは、自己表現メディアであることを理解しそのことを具体的に記述することができる(専門的知識・洞察力・論理的思考力)
芸術メディア実習A	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		1	映像表現は、芸術・娯楽・報道など多様な目的に利用されており、メディアとしては、感覚・行動・意思を共有するための最も強力な媒体の一つである。従って、『プロジェクトミュージック』や『360度動画』は、映像を用いた新しい表現媒体として個人でも手軽に利用できるようになってきた。本授業では、プロジェクトミュージックおよび360度動画の作品制作実習を通して、それらの表現力を体験し、映像による各種表現媒体の利点と欠点について考察する。	・プロジェクトミュージックの利点と欠点について説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力) ・360度動画の利点と欠点について説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力) ・動画編集または撮影における基礎的な表現技法について具体例を挙げて説明をすることができる。(専門的知識・洞察力) ・他者と協働し、プロジェクトミュージックまたは360度動画作品を完成させることができる。(専門的知識) ・他者の映像作品を鑑賞し、多様な視点で所感を述べるることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)	・プロジェクトミュージックの概要を説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力) ・360度動画の概要を説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力) ・動画編集における基礎的な表現技法について述べることができる。(専門的知識・洞察力) ・プロジェクトミュージックまたは360度動画の作品制作に参画することができる。(専門的知識) ・他者の映像作品を鑑賞し、総合的な所感を述べることができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)
芸術メディア実習B	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		1	芸術をにもたらしてきたメディア技術の発達の系譜を、広告映像制作およびアニメーション技術の歴史に照らしつつ理解する。例えば、映像制作における総コンテ・ノンコンテ技術の両方と向き合える。そのうえで、編集、アライヴ、音声の技術が、実際のプロフェッショナルな映像制作の現場では、どのように活かされるか、グループでの協働による、映像制作制作を通して経験・理解する。	(1) 広告映像制作およびアニメーション技術の歴史について数例を挙げて実際の芸術作品を対象として考察・分析できる(専門的知識・洞察力・分析力) (2) 編集、アライヴ、音声の技術について基礎的知識を習得しそれを応用することができる(リテラシー・専門的知識・論理的思考力) (3) 得られた知識を実際のオリジナルの映像制作に活用できる(専門的知識・論理的思考力) (4) グループでの協働によって自らのテーマに応じた制作への着想を自由に幅広く獲得することができる(洞察力)	(1) 広告映像制作およびアニメーション技術の歴史について数例を挙げて考察できる(専門的知識・洞察力・分析力) (2) 編集、アライヴ、音声の技術について最低限の知識を習得し指示をわかりに操作することができる(リテラシー・専門的知識) (3) 得られた知識を実際のオリジナルの映像制作に活用できる(専門的知識・論理的思考力) (4) グループでの協働によって自らのテーマに応じた制作への着想を教員のサポートを受け獲得することができる(洞察力)
コンピュータ科学	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		2	コンピュータは、複雑な処理を間違いなくこなす優れた情報処理装置である。この優れた機能は、ハードウェア・ファームウェア・ドライバ・OS・アプリケーション・データを階層的に構成し役割分担する事で実現されている。個々の階層の内容と、階層間の相互関係を、体系的な知識として身に付けられるよう解説する。	コンピュータの基本構成や動作原理を体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) ICT関係の機器やサービスの仕様を理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) 得た知識を用いて「世の中の動き」を読み解き、また、トラブル回避を行うことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)	コンピュータの基本構成や動作原理についての最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) ICT関係の機器やサービスの仕様についての最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 得た知識を用いて「世の中の動き」をある程度読み解くことができる。(洞察力・分析力・論理的思考力)
コンピュータネットワーク	文芸学部 専門分野Ⅰ	2		2	コンピュータネットワークとして代表的な利用実務を有するTCP/IP、あるいはコンピュータの通信機能として国際機関により制定されたOSI参照モデルを取り上げて解説する。基本原則と階層構造を説明し、多数のコンピュータを相互接続して双方向通信を実現する仕組みを理解する。コンピュータネットワークの存在を前提としたサービスその実現方法について解説する。	基本プロトコルの原理と階層構造を体系的に理解し、それを他者に説明することができる。(専門的知識・洞察力) コンピュータを相互接続して通信を実現するしくみを体系的に理解し、それを他者に説明することができる。(専門的知識・洞察力) コンピュータネットワークが人間社会にもたらす利便性を体系的かつ網羅的に理解し、それを他者に説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) コンピュータネットワークの危険性および危険回避の考え方を網羅的に理解し、それを他者に説明することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	基本プロトコルの原理と階層構造について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) コンピュータを相互接続して通信を実現するしくみについて最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) コンピュータネットワークが人間社会にもたらす利便性について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) コンピュータネットワークの危険性および危険回避の考え方について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
情報システム論	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	2	コンピュータやインターネット、ソフトウェア、そしてそれを使用する人間を組み合わせて、あるまとまった制作をするために作られた「しくみ」を情報システムという。前回は情報システムがなければ社会が動かないとまで言われている。本科目では、我々の生活の中でのどのような情報システムが使われており、それらがどのように動作しているかを解説する。また、人間にとって有用な情報システムが備えるべき要件や情報システム構築法的一般論、情報システムを安全に運用するための工夫などを解説する。	身の回りの情報システムの構成要素および「どのように動作しているか」を体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) 情報システムの構築方法や安全運用の方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) どのような情報システムが人間にとって有用であるかを網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力) 情報システムを安全に運用する方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	身の回りの情報システムの構成要素および「どのように動作しているか」についての最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 情報システムの構築方法や安全運用の方法について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) どのような情報システムが人間にとって有用であるかについて最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力) 情報システムを安全に運用する方法について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
文芸メディア演習 AI	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	映像撮影技法に現れるリアリズムとフォルムリズム、空間構成とミゼンセツ分析、モンタージュ技法と映像のリアリティなどを実践的・体験的に学ぶ。実際にグループワークによる映像制作を通じて上記の映像メディア技術に対する基礎的理解を深める。その後、学びの振り返りを通して切り取るワークショップを通じて、映像に関する基礎的な知識を実践に展開すると同時に、地域への洞察を深める映像フィールドワーカーとしてエスグライターを書く/書くことを目指す。	決められたテーマに関する映像技法を図書館やWebにて適切に検索し獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 発表に向け、執筆資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する最低限の映像技法を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を得て、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において積極的発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(論理的思考力) 7.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 AM	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	映像撮影技法に現れるリアリズムとフォルムリズム、空間構成とミゼンセツ分析、モンタージュ技法と映像のリアリティなどを実践的・体験的に学ぶ。実際にグループワークによる映像制作を通じて上記の映像メディア技術に対する基礎的理解を深める。その後、学びの振り返りを通して切り取るワークショップを通じて、映像に関する基礎的な知識を実践に展開すると同時に、地域への洞察を深める映像フィールドワーカーとしてエスグライターを書く/書くことを目指す。	1.決められたテーマに関する映像技法を図書館やWebにて適切に検索し獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 発表に向け、執筆資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する最低限の映像技法を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を得て、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において積極的発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(論理的思考力) 7.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 BI	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.発表に向け、執筆資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化に関する幅広い知識を正しく理解し、それらを自ら選んだテーマへ適切に活用することができる。(専門的知識・洞察力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を得て、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において積極的発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(論理的思考力) 7.メディア文化に関する基礎的な知識を理解できる。(専門的知識・洞察力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	
文芸メディア演習 BII	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.発表に向け、執筆資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化に関する幅広い知識を正しく理解し、それらを自ら選んだテーマへ適切に活用することができる。(専門的知識・洞察力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を得て、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において積極的発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(論理的思考力) 7.メディア文化に関する基礎的な知識を理解し、それらを自ら選んだテーマへ適切に活用することができる。(専門的知識・洞察力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	
文芸メディア演習 CI	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	多様な通信技術やメディアを駆使すると共に、先端ICT機器の実験を通じてその変遷や進化を探る。また、文学や芸術において、近代の高度情報化社会やサイバーメディアがどのような作用をしているのか、検証あるいは創造的活動を通じて考察する。本科目では、自由に各自のテーマを見出し、個人またはグループで調査や作品制作を行う。必要に応じて、本学O1・3・4年次や大学院生および他大学の学部生や研究生との交流・研究発表会を通じて、テーマを決めるきっかけや口頭発表の進行を理解していただくこと、卒業ゼミナールなどのようなものがある機会を設ける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.発表に向け、執筆資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(専門的知識・洞察力) 7.自らテーマを設定し調査または作品制作に着手できる。(専門的知識・洞察力) 8.4年次の卒業論文や卒業制作がどのようなものか把握する (専門的知識・洞察力) 9.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において積極的発言ができる。(主体的関与) 6.4年次の卒業論文や卒業制作がどのようなものか把握する (専門的知識・洞察力) 7.メディア文化に関する基礎的な知識を理解し、それらを自ら選んだテーマへ適切に活用することができる。(専門的知識・洞察力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
文芸メディア演習 CI	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	多様な通信技術やメディアを模倣すると共に、先端ICT機器の実験を通じその変遷や進化を探る。また、文学や芸術において、近代の高度情報化社会やハイパーメディアがもたらしたような作用をしているのが、検証あるいは創造的活動を通じて考察する。本科目では、前期に設定した個人またはグループにおける調査活動や作品制作を通じて一定の成果を得ることを目標とし、本学の1・3・4年生や大学院生および他大学の学部生や院生との交流や研究発表会を通じ、本年度の各自のテーマについて経過発表を行うと共に、卒業研究で何がしたいか見出す機会とする。	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効果的に検索し入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 発表に際し、挨拶資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（主体的関与） 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 自らテーマを設定し調査または作品制作に着手できる（専門的知識・洞察力） 4年次の卒業論文や卒業制作がどのようなものか把握する（専門的知識・洞察力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換において積極的に発言ができる。（主体的関与） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（論理的思考力） 4年次の卒業論文や卒業制作がどのようなものか把握する（専門的知識・洞察力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことがある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ）
文芸メディア演習 DI	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	日本のマンガに関するメディア産業・コンテンツ流通の特徴や歴史的な成立過程、今後の在り方について考えを述べて、メディア文化研究・サブカルチャー研究・マンガ研究の基本的知識やメディアリテラシーの研究視点を実践的・体験的に学ぶ。得られた知識をもとに討議やグループワークを行うとともに、各自テーマを見出し、レポートにまとめられたプレゼン形式で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効果的に検索し入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 発表に際し、挨拶資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（主体的関与） 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。（主体的関与） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことがある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ）
文芸メディア演習 DIH	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	メディア産業・コンテンツ流通・メディアリテラシーを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者の意見交換を行う。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための基礎的な技術や知識を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効果的に検索し入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 発表に際し、挨拶資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（主体的関与） 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手手段を理解し查找することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。（主体的関与） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことがある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ）
文芸メディア演習 EII	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	社会におけるメディアの位置づけや機能、メディア社会における文化や人間関係、行動などを理解するための基礎的な知識を学ぶ。マスメディア（法・新聞・雑誌）やソーシャルメディアが提供する情報の注目の人間同士のメディアを介したコミュニケーションなどを分析・考察の対象とする。メディア研究の代表的な理論や調査・研究の方法論の基礎を身につけるとともに、資料や先行研究の探し方、レジュメやプレゼンテーション資料の作り方、レポートの書き方、研究計画の立て方といった基本的な学習スキルを学び、プレゼンテーションやディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて他者と意見交換するための基礎的な能力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効果的に検索し入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 発表に際し、挨拶資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（主体的関与） 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。（主体的関与） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことがある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ）
文芸メディア演習 EII	文芸学部 専門分野Ⅰ	2	1	社会におけるメディアの位置づけや機能、メディア社会における文化や人間関係、行動などについて実践的に学ぶ。マスメディア（主に新聞・雑誌）やソーシャルメディアが発信する情報のほか、人間同士のメディアを介したコミュニケーションなども分析・考察の対象とする。資料や先行研究の探し方、レジュメやプレゼンテーション資料の作り方、レポートの書き方、研究計画の立て方といった基本的な学習スキルを学び、プレゼンテーションやディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて他者と意見交換するための基礎的な能力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効果的に検索し入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 発表に際し、挨拶資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（主体的関与） 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて入手することができる。（専門的知識・洞察力） 入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 手もとの原稿を見ながら口頭発表することができる。（洞察力・論理的思考力） 他者の発表についての意見交換において積極的に発言ができる。（主体的関与） 自らの発表についてのレポートを作成できる。（論理的思考力） 他者と協働しながら、主体的に取り組むことがある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。（主体的関与・リーダーシップ）
日本文学論A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに上代文学を理解・履修するための基礎力を身につける。過去のバリエーションに因り、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、上代文学の特徴を深く理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上代文学に関する専門的な知識を習得している。（専門的知識） 2. 上代文学に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・分析力） 3. 上代文学を履修する観点・方法を習得している。（論理的思考力） 4. 上代文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することが、十全にできる。（論理的思考力） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上代文学に関する知識を習得している。（専門的知識） 2. 上代文学に関する知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・分析力） 3. 上代文学を履修する観点・方法をある程度習得している。（洞察力・分析力） 4. 上代文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することがある程度できる。（論理的思考力）
日本文学論B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに中古文学（平安文学）を理解・履修するための基礎力を身につける。過去のバリエーションに因り、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、中古文学の特徴を深く理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中古文学に関する専門的な知識を習得している。（専門的知識） 2. 中古文学に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・分析力） 3. 中古文学を履修する観点・方法を習得している。（論理的思考力） 4. 中古文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することが、十全にできる。（論理的思考力） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中古文学に関する知識を習得している。（専門的知識） 2. 中古文学に関する知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。（洞察力・分析力） 3. 中古文学を履修する観点・方法をある程度習得している。（洞察力・分析力） 4. 中古文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することがある程度できる。（論理的思考力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
日本文学論C	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに中近世文学を理解・鑑賞するための専門力を身につける。過去のバリエーションに因り、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、中近世文学の特徴を深く理解する。	1. 中近世文学に関する専門的な知識を得ている。(専門的知識) 2. 中近世文学に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 中近世文学を鑑賞する観点・方法を習得している。(洞察力・分析力) 4. 中近世文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することが、十分にできる。(論理的思考力)	1. 中近世文学に関する知識を得ている。(専門的知識) 2. 中近世文学に関する知識を、ある程度自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 中近世文学を鑑賞する観点・方法をある程度習得している。(洞察力・分析力) 4. 中近世文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することがある程度できる。(論理的思考力)
日本文学論D	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに近代文学を研究するための専門力を身につける。過去のバリエーションに因り、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、近代文学の特徴を深く理解する。	1. 近代文学に関する専門的な知識を、十分に習得している。(専門的知識) 2. 近代文学に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 近代文学を研究するための観点・方法に関する専門的な知識を、十分に習得している。(洞察力・分析力) 4. 近代文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することが、十分にできる。(論理的思考力)	1. 近代文学に関する知識を得ている。(専門的知識) 2. 近代文学に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 近代文学を研究するための観点・方法に関する最低限の知識を得ている。(洞察力・分析力) 4. 近代文学作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することがある程度できる。(論理的思考力)
日本文学論E	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	日本文学を体系的、歴史的に学ぶにあたり、とくに歌謡・詩歌を理解・鑑賞するための基礎力を身につける。過去のバリエーションに因り、特定の作品や作家、ジャンル、テーマに絞って作品を考察してゆくことで、歌謡・詩歌の特徴を深く理解する。	1. 歌謡・詩歌に関する専門的な知識を得ている。(専門的知識) 2. 歌謡・詩歌に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 歌謡・詩歌を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識を得ている。(洞察力・分析力) 4. 歌謡・詩歌作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することが、十分にできる。(論理的思考力)	1. 歌謡・詩歌に関する知識を得ている。(専門的知識) 2. 歌謡・詩歌に関する最低限の知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 歌謡・詩歌を鑑賞する観点・方法に関する基礎的な知識をある程度習得している。(洞察力・分析力) 4. 歌謡・詩歌作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することがある程度できる。(論理的思考力)
日本文学論F	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	特定のジャンルに焦点を出て日本文学を学ぶにあたり、とくに物語・歴史文学を理解・鑑賞するための基礎力を身につける。ジャンルとしての成り立ちや変遷を追いながら、個々の作品の特徴を考察してゆくことで、物語・歴史文学の特徴を深く理解する。	1. 歴史・物語文学に関する専門的な知識を得ている。(専門的知識) 2. 歴史・物語文学に関する専門的な知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 歴史・物語文学を鑑賞する観点・方法を習得している。(洞察力・分析力) 4. 歴史・物語作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することが、十分にできる。(論理的思考力)	1. 歴史・物語文学に関する知識を得ている。(専門的知識) 2. 歴史・物語文学に関する知識を、自分の問題意識に引き付けて考えられる。(洞察力・分析力) 3. 歴史・物語文学を鑑賞する観点・方法に関する最低限の知識を得ている。(洞察力・分析力) 4. 歴史・物語作品から、自分の問題意識に引き付けて課題を発見し論理的に考察することがある程度できる。(論理的思考力)
日本文学講読A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	古典籍(和書)に関する体系的な知識や古典籍を扱う注意点を学び、変体仮名の読解能力と、翻刻、校訂などの基礎力を身につける。	1. 古典籍(和書)の種類や形態について説明できる(専門的知識) 2. 字義の使い方を理解し、正しく字を直すことができる(分析力) 3. 代表的な語彙品を変体仮名で分記することができる(分析力) 4. 読みかた変体仮名を正しく翻刻(翻字)することができる(分析力) 5. 通称している全篇等の本文が校訂されていることを理解し、校訂本文の長所と短所について説明することができる(洞察力・論理的思考力)	1. 古典籍(和書)の種類や形態についてある程度説明できる(専門的知識) 2. 字義の使い方を理解し、ある程度字を直すことができる(分析力) 3. 代表的な語彙品を変体仮名で分記することができる(分析力) 4. 読みかた変体仮名をある程度翻刻(翻字)することができる(分析力) 5. 通称している全篇等の本文が校訂されていることを理解し、校訂本文の長所と短所についてある程度説明することができる(洞察力・論理的思考力)
日本文学講読B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	古代から中近世までの日本文学作品を個別に取り上げ、それぞれの時代性や、文化、芸術、言語や表現の問題に配慮しながら作品を精読する。	1. 講読対象となる作品の文学史的な位置づけを、当時の文化、芸術や代表的な文学に触れた上で十分説明することができる(専門的知識) 2. 講読対象となる作品を、歴史的な文脈を正しく理解した上で、音読することができる(洞察力) 3. 講読対象となる作品を古典文法や古語の意味に基づき、説明することができる(洞察力・分析力) 4. 講読対象となる作品について、修飾や先行作品の引用などに基づき、その表現の特徴を説明することができる(論理的思考力) 5. 講読対象となる作品について、注釈書等の先行する見解や読みかたを把握し、問題点を発見することができる(論理的思考力) 6. 古代日本語文法について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 講読対象となる作品の文学史的な位置づけを、当時の文化、芸術や代表的な文学に触れた上である程度説明することができる(専門的知識) 2. 講読対象となる作品を、歴史的な文脈を正しく理解した上で、ある程度音読することができる(洞察力) 3. 講読対象となる作品を古典文法や古語の意味に基づき、ある程度説明することができる(洞察力・分析力) 4. 講読対象となる作品について、修飾や先行作品の引用などに基づき、その表現の特徴をある程度説明することができる(論理的思考力) 5. 講読対象となる作品について、注釈書等の先行する見解や読みかたを把握し、ある程度問題点を発見することができる(論理的思考力) 6. 古代日本語文法について、他者と協力しながら、ある程度主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本語学演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	国語教育における、おもに古代日本語文法に関する、自らの関心に基づいたテーマ・現象についての研究の方法論を学び、その特徴・傾向を明らかにするための専門的な調査・研究を行い、その結果をより専門的に口頭発表・レポートにまとめる。	1. 国語教育における古代日本語文法に関する専門的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を明確に理解できる。(専門的知識・洞察力) 2. 古代日本語文法の体系的かつ個別的な把握およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを実践できる。(分析力・論理的思考力) 3. 古代日本語文法に対する関心やそれを究明する意欲・態度が顕著になる。(主体的関与) 4. 古代日本語について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	1. 国語教育における古代日本語文法に関する知識を得て、その体系的な特徴・傾向をある程度理解できる。(専門的知識・洞察力) 2. 古代日本語文法の体系的かつ個別的な把握およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それをある程度実践できる。(分析力) 3. 古代日本語文法に対する関心やそれを究明する意欲・態度をある程度表示することができる。(論理的思考力) 4. 古代日本語文法について、一通り、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本語学演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	国語教育における、おもに古代日本語文法に関する、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、日本語学演習Ⅲでの学びをふまえた上で、その特徴・傾向を明らかにするための専門的な調査・研究を行い、その結果をより専門的に口頭発表・レポートにまとめる。	1. 国語教育における古代日本語文法に関する専門的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を明確に理解できる。(専門的知識・洞察力) 2. 古代日本語文法の体系的かつ個別的な把握およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを十分に実践できる。(分析力・論理的思考力) 3. 古代日本語文法に対する関心やそれを究明する意欲・態度がより顕著になる。(主体的関与) 4. 古代日本語について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめるレポートを作成することができる(論理的思考力)	1. 国語教育における古代日本語文法に関する知識を得て、その体系的な特徴・傾向を一通り理解できる。(専門的知識・洞察力) 2. 古代日本語文法の体系的かつ個別的な把握およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それをある程度実践できる。(分析力) 3. 古代日本語文法に対する関心やそれを究明する意欲・態度を一通り示すことができる。(論理的思考力) 4. 古代日本語文法について、一通り、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ) 5. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でより調査や考察をすすめるレポートを作成することができる(論理的思考力)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
日本文学演習 DIII	文芸学部 専門分野II	3	1	1	日本文学 (近現代文学) を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品 (近現代文学) をそれぞれのテキストが内容とする問題を自ら発見し、論証し、発表などにして報告することができる能力を養う。その中で、『読む』行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。IIIは比較的高度な本文や資料を用いて、より専門的な学習を行う。	1. 日本文学 (近現代文学) の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、説明できる。(専門的知識) 2. Iをもとに、日本文学研究に関わる様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を実践することができる。(洞察力・論理的思考力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる。(洞察力・論理的思考力) 5. 他者学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる。(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる。(論理的思考力・主体的関与) 7. 日本文学 (近現代文学) について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本文学 (近現代文学) の読解のための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、ある程度説明できる。(専門的知識) 2. Iをもとに、日本文学研究に関わる様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析をある程度実践することができる。(洞察力・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、ある程度発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場においてある程度やりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他者学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、ある程度質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる(論理的思考力・主体的関与) 7. 日本文学 (近現代文学) について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本文学演習 DIV	文芸学部 専門分野II	3	1	1	日本文学 (近現代文学) を読解するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品 (近現代文学) をそれぞれのテキストが内容とする問題を自ら発見し、論証し、発表やレポートにして報告することができる能力を養う。その中で、『読む』行為についての、日本文学研究についての基本姿勢を身につけ、授業の出席者と日本文学作品を語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。IVはIIIよりも比較的高度な本文や資料を用いて、より専門的な学習を行う。	1. 日本文学 (近現代文学) を専門的に読解するための調査、分析方法にどのようなものがあるかより深く理解し、説明できる。(専門的知識) 2. Iをもとに、日本文学研究に関わる様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を的確に実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において的確なやりとりができる。(洞察力・論理的思考力) 5. 他者学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、的確な質問や意見を述べることができる。(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる。(論理的思考力) 7. 日本文学 (近現代文学) について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 日本文学 (近現代文学) を専門的に読解するための調査、分析方法にどのようなものがあるか理解し、一歩説明できる。(専門的知識) 2. Iをもとに、図書館図書や電子図書等、様々な媒体を駆使し、作品精読のための調査、分析を一通り実践することができる。(専門的知識・分析力) 3. 先行研究を精査し、調査結果を的確に用いた上で作品を読解し、一通り発表資料を作成することができる。(論理的思考力) 4. 自らの口頭発表において聞き手を意識しながら発言をし、質疑応答の場において一通りやりとりができる(洞察力・論理的思考力) 5. 他者学生の口頭発表において、深い関心をもって聞き、一通り質問や意見を述べることができる(主体的関与) 6. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを一通り作成することができる(論理的思考力・主体的関与) 7. 日本文学 (近現代文学) について、一通り、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本文学演習 EIII	文芸学部 専門分野II	3	1	1	日本文学作品 (日本語表現) を探究するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品 (日本語表現) に関する、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果を専門的に口頭発表などによる。授業の出席者と日本語表現について語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。	1. 文学における日本語表現に関する専門的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を理解し、説明できる。(専門的知識) 2. 文学における日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それを十分に実践できる。(洞察力・分析力) 3. 文学における日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度がもっとも顕著になる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる。(洞察力・論理的思考力) 5. 文学 (日本語表現) について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 文学における日本語表現に関する専門的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向をある程度理解し、説明できる。(専門的知識) 2. 文学における日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それをある程度実践できる。(洞察力・分析力) 3. 文学における日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度をある程度示すことができる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートをある程度作成することができる(論理的思考力) 5. 文学 (日本語表現) について、ある程度、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
日本文学演習 EIV	文芸学部 専門分野II	3	1	1	日本文学作品 (日本語表現) を探究するために、そのアプローチ方法を学生主体の発表を積み重ねながら実践的に学んでいくことを目的とする。日本文学作品 (日本語表現) に関する、自らの関心に基づいたテーマ・現象について、その特徴・傾向を明らかにするための調査・研究を行い、その結果を専門的に口頭発表などによる。授業の出席者と日本語表現について語り合う楽しさも味わいつつ、他者に自分の意見を伝えること訓練を徹底的に重ねてゆく。IVはIIIよりも比較的高度な本文や資料を用いて、より専門的な学習を行う。	1. 文学における日本語表現に関する専門的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を明確に理解し、説明できる。(専門的知識) 2. 文学における日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能をより深く習得し、それを十分に実践できる。(洞察力・分析力) 3. 文学における日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度がもっとも顕著になる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを作成することができる。(洞察力・論理的思考力) 5. 文学 (日本語表現) について、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	1. 文学における日本語表現に関する専門的な知識を得て、その体系的な特徴・傾向を一通り理解し、説明できる。(専門的知識) 2. 文学における日本語の調査・研究およびそのプレゼンテーションに関する専門的な技能を習得し、それをある程度実践できる。(洞察力・分析力) 3. 文学における日本語に対する関心やそれを究明する意欲・態度をある程度示すことができる。(主体的関与) 4. 口頭発表での様々な外部の意見に耳を傾け、取捨選択した上でさらに調査や考察をすすめたレポートを一通り作成することができる(洞察力・論理的思考力) 5. 文学 (日本語表現) について、一通り、他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)
英語学論	文芸学部 専門分野II	3	2	2	英語学という包括的な研究領域の中から、特定の分野を取り上げて、その分野の観点から英語や人間の言語の特徴を考察する。本科目では、『英語学各論』よりやや難解度の高い下位分野である語法論を中心に取り上げる。書物だけでなく、音や口の伝わる言外の意味の研究である語用論は、言葉の本質、人間の言葉を理解するために必須の学問分野である。理論自体には抽象的に理解するのにやや時間がかかる側面があるので、具体例を豊富に用いて考察する。	1. 語法論の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 語法論の知識を豊富に用いて、的確な言語コミュニケーションをすることができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	1. 語法論の事項について、他者に説明することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 語法論の知識を用いて、言語コミュニケーションをすることができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
イギリス文学論	文芸学部 専門分野II	3	2	2	イギリスを含む欧米の様々な文学批評の手法を学び、文学作品を多様な角度から分析する方法を学ぶ。『フェミニズム』『ポストコロニアル』『ジェンダー』など、現代社会を考える上でも欠かせない概念や思想を紹介しながら、それらを用いることで個別的文学作品がどのように読まれるかを考える。	1. 主だった文学批評の手法について正しく理解し、文献を読みこなすことができる。(リテラシー) (専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 学習した批評の方法を用いて、授業で取り上げた作品を適切に分析することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 学習した批評の方法を、様々な文学作品の読解に適切に応用することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	1. 主だった文学批評の手法についておおよそ理解し、文献を読みこなすことができる。(リテラシー) (専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 学習した批評の方法を用いて、授業で取り上げた作品を分析することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 学習した批評の方法を、様々な文学作品の読解に一定程度まで応用することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)
アメリカ文学論	文芸学部 専門分野II	3	2	2	『構造主義』『物論論』『ジェンダー論』『新歴史主義』などの様々な文学批評の手法を学び、アメリカ文学・文化を多様な角度から分析・批評する方法を学ぶ。批評用語は文学・文化を読み解き、理解し、共感し、批判するための重要な便利ものである。それらの学習を通して、アメリカ文学で扱われる文化や社会の抱える諸問題を読み解き、考察する手がかりを得る。	1. アメリカ文学・文化研究の重要な批評用語・手法・概念を深く理解し、日本語文献のみならず英語文献も正確に読み解くことができる。(リテラシー) (専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表現できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)	1. アメリカ文学研究の重要な批評用語・手法・概念を理解し、日本語文献のみならず英語文献の読解を試みることができる。(リテラシー) (専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 批評的態度で個々のアメリカ文学作品を読み解き、自分の問題意識に基づいて作品に対する意見を表現できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
イギリス文化論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	イギリスにおける重要な文化的現象を、地理的・歴史的背景を考慮しつつ取り上げる。いわゆるハイ・カルチャーからサブカルチャー・カルチャーまで幅広く扱い、イギリス文化に対する関心を深め、文化研究の多様な在り方を理解する。	1. 地理的・歴史的背景を踏まえた上で、個別具体的なイギリス文化の特徴を理解できる。（専門的知識） 2. イギリス文化を形作る文化現象について多様な角度から調査・考察し、自分の意見を述べる事ができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. 個別具体的なイギリス文化の特徴を理解できる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 2. イギリス文化を形作る文化現象について考察し、自分の意見を述べる事ができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）
アメリカ文化論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	アメリカの地理と歴史を通じた文化へのアプローチを踏まえ、個別の文化現象を取り上げて講義する。20世紀の大衆文化・消費社会をリードしてきたアメリカのピル・カルチャー、たとえば映画や音楽などを幅広くとらえて、アメリカ文化の多様性について理解を深める。	1. 地理的・歴史的背景を踏まえた上で、個別具体的なアメリカ文化の特徴を深く理解できる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 2. アメリカ文化を形作る様々な文化現象について深く考察し、共感し、批判し、自分の意見を述べる事ができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）	1. 地理的・歴史的背景を踏まえた上で、個別具体的なアメリカ文化の特徴を理解できる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 2. アメリカ文化を形作る様々な文化現象について考察し、共感し、自分の意見を述べる事ができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力）
英語翻訳理論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	英語から日本語への翻訳において、何が難しく、どこに工夫を凝らすべきかという問題を、英語翻訳の歴史や理論を学ぶことで考えていく。同時に、英語で書かれた文章を取り上げ、翻訳の実際的なスキルを学ぶ。それぞれの言語の持つ特性を踏まえて、英語で書かれた文章を訳す際に必要となる日本語力も磨いていく。	1. 日本における英語翻訳の歴史や理論について、基礎的な知識を身につけている。（専門的知識）（リテラシー） 2. 身につけた英語翻訳の基礎的スキルを十分に活用し、自然な翻訳を実現できる。（分析力）（洞察力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 日本における英語翻訳の歴史や理論について、基礎的な知識をある程度身につけている。（専門的知識）（リテラシー） 2. 身につけた英語翻訳の基礎的スキルを活用し、自然な翻訳をある程度実践できる。（分析力）（洞察力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語翻訳技術	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	英語から日本語への翻訳において、何が難しく、どこに工夫を凝らすべきかという問題を、実際の翻訳作業に重点を置きながら考えていく。文芸翻訳を中心しつつ、映像翻訳（字幕翻訳）にも挑戦することで、両者の違いについても考察していく。英語と日本語という二つの言語の持つ特性を踏まえて、優れた訳文を作成する際に必要となる多様な技術を習得していく。	1. 文芸翻訳と映像翻訳それぞれの特質を十分に理解することが出来る。（専門的知識）（リテラシー） 2. 翻訳上の多様な技術を習得し、十分に活用して優れた訳文を作成することが出来る。（分析力）（洞察力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 文芸翻訳と映像翻訳それぞれの特質をある程度理解することが出来る。（専門的知識）（リテラシー） 2. 翻訳上の多様な技術を習得し、活用して訳文を作成することが出来る。（分析力）（洞察力）（論理的思考力） 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語プレゼンテーション演習	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	日本的な英語会話ではなく、格式的な場面で、自分の言いたいことを英語で話すことができるようになることをめざす。そのためには、(1) 基本的な英語会話ができることに加えて、(2) 自分が言いたいことを要領の準でもっと整理できること、(3) 自然な流れを崩さず（すなわち論理的に）自分の言いたいことを聞き手に伝えられるように話せること、(4) 聞き手に共感してもらえるようなスピーチができること、なども必要不可欠である。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語（lingua franca）としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、自分のスピーチを聞く人が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語を用いたプレゼンテーションを見直す態度も大切である。	1. 自信を持って、活発に英語でスピーチすることができる。（リテラシー） 2. 自分の言いたいことを聞き手に正確に理解してもらえる話し方ができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 相手の立場や感情に受け入れられるのではなく、的確に質問したり、反論したりすることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 4. 英語のプレゼンテーションのあり方について、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語でスピーチすることができる。（リテラシー） 2. 自分の言いたいことを聞き手に理解してもらえる話し方ができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 相手の立場や感情に受け入れられるのではなく、的確に質問したり、反論したりすることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 4. 英語のプレゼンテーションのあり方について、協力しながら、主体的に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語ディスカッション演習	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	「英語プレゼンテーション演習」は自分のスピーチ（すなわち発表）に力点を置いているのに対し、本科目は共通の話題をめぐって、英語で他者とディスカッションができるようになることをめざす。そのためには、(1) 基本的な英語会話ができること、(2) 自分が言いたいことを要領の準でもっと整理できること、(3) 自然な流れを崩さず（すなわち論理的に）自分の言いたいことを聞き手に伝えられるように話せること、(4) 聞き手に共感してもらえるようなスピーチができること、に加えて、(5) 相手の言いたいことを聞き取って正確に理解できること、(6) 相手の言いたいことと自分が言いたいことの共通点と相違点を正確に理解できると、(7) 相手の主張に対して的確に質問したり、反論したりすることができること、なども必要不可欠である。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語（lingua franca）としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、英語でディスカッションする相手世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語を用いたディスカッションを見直す態度も大切である。	1. 自信を持って、英語でディスカッションすることができる。（リテラシー） 2. ディスカッションにふさわしい態度をきちんと身につけている。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 相手の主張や感情に受け入れられるのではなく、的確に質問したり、反論したりすることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 4. 英語のディスカッションのあり方について、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語でディスカッションすることができる。（リテラシー） 2. ディスカッションにふさわしい態度を身につけている。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 相手の主張や感情に受け入れられるのではなく、的確に質問したり、反論したりすることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 4. 英語のディスカッションのあり方について、協力しながら、主体的に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語学演習 AII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	発展期にある学生を対象とするので、英語学という上位の研究領域に包括されるさまざまな下位研究領域の発展的な内容的文献、主に意味論や語用論などの領域に関連する文献を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習BIIとは異なる分野のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで正確に読み取ることができる。（リテラシー） 2. 英語学・言語学の分野に関連する卒業論文の問いのうち、独創的で価値の高い問いを見つけることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 英語学について、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習BIIとは異なる分野のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことを最低限正確に読み取ることができる。（リテラシー） 2. 英語学・言語学の分野に関連する卒業論文の問いを見つけることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 英語学について、協力しながら、主体的に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）
英語学演習 BII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	発展期にある学生を対象とするので、英語学という上位の研究領域に包括されるさまざまな下位研究領域の発展的な内容的文献、主に言語の歴史的・空間的リ・エーションに関連する文献を読む。	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習AIIとは異なる分野のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことを深いレベルまで正確に読み取ることができる。（リテラシー） 2. 英語学・言語学の分野に関連する卒業論文の問いのうち、独創的で価値の高い問いを見つけることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 英語学について、協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）	1. 英語で書かれた英語学・言語学関連の英語学演習AIIとは異なる分野のやや高度な文章を読んで、書き手の言いたいことを最低限正確に読み取ることができる。（リテラシー） 2. 英語学・言語学の分野に関連する卒業論文の問いを見つけることができる。（専門的知識）（洞察力）（分析力）（論理的思考力） 3. 英語学について、協力しながら、主体的に意見を言うことができる。（主体的関与）（リーダーシップ）

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
イギリス文学文化演習 AII	文芸学部 専門分野 II	3	1	イギリス文学・文化に関する、比較的難易度の高い英語で書かれた作品を取り上げて精読し、文学的な表現を深く味わうための英語力を身につける。作品が書かれた時代の、文化的背景について理解を深め、作品に対して自発的な関心や問いを抱き、考察できるようにする。文学作品を分析するための基本的な手法を学ぶことで、卒業論文のテーマを見つける力も養う。	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的難易度の高い英語で書かれた文章を読みこなし、文学的な表現を味わうことができる。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を正しく理解した上で、作品に対して自発的に関心や疑問を抱くことができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目で扱う作品について書かれた文献を読みこなし、自分の意見と区別しつつ作品理解に役立てることができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 4. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的かつ詳細に意見を言うことができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的難易度の高い英語で書かれた文章を読んで、文学的な表現を味わうことができる程度である。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を正しく理解した上で、作品に対して関心や疑問を抱くことができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目で扱う作品について書かれた文献を読み、自分の意見と区別しつつ作品理解に役立てることができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 4. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
イギリス文学文化演習 BII	文芸学部 専門分野 II	3	1	イギリス文学・文化に関する、比較的難易度の高い英語で書かれた作品を取り上げて精読し、文学的な表現を深く味わうための英語力を身につける。作品が書かれた時代の、文化的背景について理解を深め、作品に対して自発的な関心や問いを抱き、考察できるようにする。文学作品を分析するためのトピックやテーマの立て方を学び、卒業論文の計画を具体的に立てていく。	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的難易度の高い英語で書かれた文章を読みこなし、文学的な表現を味わうことができる。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を正しく理解した上で、作品に対して自発的に関心や疑問を抱くことができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 様々な角度から作品を研究する手法を学ぶことで、卒業論文のテーマを十分具体的に定めることができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 本科目で扱うイギリス文学文化に関する、比較的難易度の高い英語で書かれた文章を読んで、文学的な表現を味わうことができる程度である。(リテラシー) 2. 本科目で扱う作品が書かれた時代の、文化的背景を正しく理解した上で、作品に対して関心や疑問を抱くことができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 様々な角度から作品を研究する手法を学ぶことで、卒業論文のテーマをある程度具体的に定めることができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
アメリカ文学文化演習 AII	文芸学部 専門分野 II	3	1	様々なアメリカ文学を原書で読むことで、アメリカ文化の多様性を理解する。アメリカ文学作品で描かれる多様な文化を歴史・社会的文脈に位置づける基礎的な訓練を通して、多様なアメリカ文学を批評するための自分なりの視点を持つようになる。アメリカ文学をとおした文化理解を促進し、卒業論文につながるような問題発見や考察に切り進む基礎を築く。	1. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品の読解を通して、アメリカ文学で描かれた個別の問題意識を深く理解できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品・評論の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、自発的に意見を言うことができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的に意見を言うことができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品の読解を通して、アメリカ文学で描かれた個別の問題意識をある程度理解できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品・評論の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、意見を言うことができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
アメリカ文学文化演習 BII	文芸学部 専門分野 II	3	1	様々なアメリカ文学を読みアメリカ文化の多様性を理解した上で、自分自身の解釈や考察を深め、文学作品に描かれている論議の中から、自分なりの視点を持って文学作品を独自に解釈し、文化の考察を深めるための批評を実践する。自分自身の視野を広げ、視点を確立するための関連資料や先行研究を自発的に読み解き、自分の考察を発展的批評へと高めていくために口頭発表を行い、レポートを執筆し、卒業論文につながる問題発見や考察を深化させる。	1. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品の読解を通して、アメリカ文学で描かれた個別の問題意識を深く理解できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品・評論の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、自発的に意見を言うことができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者と協力しながら、主体的に意見を言うことができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品の読解を通して、アメリカ文学で描かれた個別の問題意識をある程度理解できる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 2. 本科目で扱う英語で書かれた難易度の高い文学作品・評論の読解を通して、自分自身の問題意識について考察し、意見を言うことができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目のグループワークでは、他者とある程度協力しながら、意見を言うことができる。(主体的関与) (リーダーシップ)
英語圏児童文学演習 AII	文芸学部 専門分野 II	3	1	文学史や、「子ども」を取り巻く文化や社会の変化に目を向け、英語圏の児童文学を原書で精読し、独自の解釈を深める演習である。選定、解釈を深めるための批評理論を紹介する。やや難易度の高い英語圏の児童文学の原書を読み、文学史上の位置付け、ジャンル、作品の背景となっている社会や文化について調べ、それらを踏まえた解釈や考察を発表する。文学作品の精読や研究のための英語力を積極的に身につけることや、卒業論文につながるような問題発見や考察に取り組むことが求められる。	1. 本科目で扱う英語圏の児童文学を精読する英語力と、必要な資料を調べ、読む力を身につけている。(リテラシー) (専門的知識) 2. 自発的に本科目で扱う作品や関連する資料を読み、独自の問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身につけている。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目で扱う個々の作品についての自分の解釈を、文学史や先行研究を踏まえて論理的に表現することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 4. 作品の精読や解釈に主体的に関わり、他者と協力しながら、主体的にグループやゼミ全体の活動に関わることができる。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 本科目で扱う英語圏の児童文学を精読する英語力と、必要な資料を調べ、読む力がある程度身につけている。(リテラシー) (専門的知識) 2. 自発的に本科目で扱う作品や関連する資料を読み、独自の問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度をある程度身につけている。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 個々の作品についての自分の解釈を、文学史や先行研究を踏まえて論理的に表現することができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 4. 作品の精読や解釈を通して、主体的にリサーチやプレゼンテーションを行うことができる程度である。またグループや演習全体での活動に積極的に関わり、各々の発表に対し、積極的なレスポンスやフィードバックを行い、クラスに貢献することができる程度である。(主体的関与) (リーダーシップ)
英語圏児童文学演習 BII	文芸学部 専門分野 II	3	1	文学史や、「子ども」を取り巻く文化や社会の変化に目を向け、英語圏の児童文学を原書で精読し、独自の解釈を深める演習である。難易度の高い英語圏の児童文学の原書を読み、文学史上の位置付け、ジャンル、作品の背景となっている社会や文化、先行研究について調べ、それらを踏まえた解釈や考察を発表する。文学作品の精読や研究のための英語力を積極的に身につけることや、先行研究の積極的なリサーチ、また選定、批評理論を用い、卒業論文につながるような問題発見や考察に取り組むことが求められる。	1. 本科目で扱う英語圏の児童文学を精読する英語力と、必要な資料を調べ、読む力を身につけている。(リテラシー) (専門的知識) 2. 自発的に本科目で扱う作品や関連する資料を読み、独自の問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身につけている。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 本科目で扱う個々の作品についての自分の解釈を、文学史や先行研究を踏まえて論理的に表現することができる。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 4. 作品の精読や解釈を通して、主体的にリサーチやプレゼンテーションを行うことができる。またグループや演習全体での活動に積極的に関わり、各々の発表に対し、積極的なレスポンスやフィードバックを行い、クラスに貢献することができる程度である。(主体的関与) (リーダーシップ)	1. 本科目で扱う英語圏の児童文学を精読する英語力と、必要な資料を調べ、読む力がある程度身につけている。(リテラシー) (専門的知識) 2. 自発的に本科目で扱う作品や関連する資料を読み、独自の問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度をある程度身につけている。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 3. 個々の作品についての自分の解釈を、文学史や先行研究を踏まえて論理的に表現することができる程度である。(専門的知識) (洞察力) (分析力) (論理的思考力) 4. 作品の精読や解釈を通して、主体的にリサーチやプレゼンテーションを行うことができる程度である。またグループや演習全体での活動に積極的に関わり、各々の発表に対し、レスポンスやフィードバックを行い、クラスに貢献することができる程度である。(主体的関与) (リーダーシップ)
フランス児童文学論	文芸学部 専門分野 II	3	2	文学史や、「子ども」を取り巻く文化や社会の変化に目を向け、フランス圏の児童文学に精通し、自分なりの解釈を深める演習である。既習を前提としながら、よく知られているフランスの作品を読み、作品の背景となっている社会や文化について調べ、自分なりに解釈し、考察する。文学作品の精読や研究のための方法を身につけることや、卒業論文につながるような問題発見や考察に取り組むことが求められる。	1. フランス圏の児童文学を精読する高度な力を身につけている。(専門的知識) 2. 自発的に作品や関連する資料を読み、独自の問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身につけている。(洞察力) (分析力) 3. 個々の作品についての自分の解釈を、文学史や先行研究を踏まえて論理的に表現することができる。(論理的思考力)	1. フランス圏の児童文学を精読する基本的な力を身につけている。(専門的知識) 2. 自発的に作品や関連する資料を読み、独自の問題を見出し、能動的に作品を解釈する態度を身につけている。(洞察力) (分析力) 3. 個々の作品についての自分の解釈を、文学史や先行研究を踏まえて、おおよそ表現することができる。(論理的思考力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
フランス映画論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	フランスにおける映画芸術のあり方の特質を知り、フランス映画史の基本的な流れを学ぶ。各時代の代表的な作品を鑑賞し、映画の解釈、批評の訓練をする。フランス映画について頻りに扱われるテーマを通して、フランス文化の特質を探る。また、映画と文学の関係性について考察する。	1. フランス映画およびフランス映画史について十分な知識を持ち、概観することができる (専門的知識)。 2. フランスの映画作品について三つ以上、監督名や制作年代、内容について時代背景を含めて解説することができる (洞察力・分析力)。 3. フランス映画と文化、または文学との関係について詳細に論述できる (論理的思考力)。 4. 批評的精神を強くもって研究対象を追究することができる (論理的思考力)。	1. フランス映画およびフランス映画史について基本的な知識を持ち、概観することができる (専門的知識)。 2. フランスの映画作品について、監督名や制作年代、内容について時代背景を含めて、最低限の解説することができる (洞察力・分析力)。 3. フランス映画と文化、または文学との関係についておおむね論述できる (論理的思考力)。 4. 批評的精神を理解し、研究対象を追究することができる (論理的思考力)。
フランス語学演習 AII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	フランス語で「伝える」「つながる」を表現する。日常的によく使う表現を身につけるようになる。実践的なフランス語の表現能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語が使われている異文化を想像してみる。そのために視聴覚教材やインターネットを用いて、フランス人の考えを知る。授業教育科目「フランス語I (入門)」「フランス語II (表現)」を修得済み、同時に履修することを原則とする。	1. フランス語のCEFR A1レベルの文章表現で簡単な文を深く理解することができる (専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1レベルの文章表現にすぐれて習熟することができる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1レベルのフランス語の文章表現に積極的に取り組むことができる (論理的思考力)。 4. フランス語の文章表現 (CEFR A1レベル) から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的によく説明することができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. フランス語のCEFR A1レベルの文章表現で簡単な文を最低限、理解することができる (専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1レベルの文章表現に習熟することができる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1レベルのフランス語の文章表現に積極的に取り組むことができる (論理的思考力)。 4. フランス語の文章表現 (CEFR A1レベル) から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的に最低限の説明をすることができる (主体的関与・リーダーシップ)。
フランス語学演習 BII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	フランス語で「伝える」「つながる」を表現する。日常的によく使う表現を身につけるようになる。実践的なフランス語の表現能力の向上を目的とする。感想文、日記、メール、SNSなどの文を実際に着いてみる。そのために視聴覚教材やインターネットを用いて、フランス人の考えを知る。授業教育科目「フランス語I (入門)」「フランス語II (表現)」を修得済み、同時に履修することを原則とする。	1. フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現で簡単な文を深く理解することができる (専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現にすぐれて習熟することができる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の文章表現に積極的に取り組むことができる (論理的思考力)。 4. フランス語の文章表現 (CEFR A1完成レベル) から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的によく説明することができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現で簡単な文を最低限、理解することができる (専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1完成レベルの文章表現に習熟することができる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の文章表現に積極的に取り組むことができる (論理的思考力)。 4. フランス語の文章表現 (CEFR A1完成レベル) から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的におおむね説明することができる (主体的関与・リーダーシップ)。
フランス文化・芸術演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	フランス語を翻訳する。平易なフランス語で書かれたフランス文化についてのテキストを扱う。取り上げるテキストを正確に読み取る訓練を重ねて、フランス文化の諸相を把握する。フランス語圏の文化・芸術を通して豊かな感受性を養い、あるいは思索を深め、異文化理解を深めることを目指す。日本語に翻訳する作業もあわせて行い、日本語による表現力の向上も目指す。	1. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストを深く理解できる (専門的知識)。 2. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストを深く理解し、日本語で説明できる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストを熟読を通して、フランス語圏文化を、自身の文化とも比較しながら、よく関係づけることができる (論理的思考力)。 4. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストについて、協力しながら、主体的に意見を言うことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストを最低限、理解できる (専門的知識)。 2. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストをおおむね理解し、日本語で説明できる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストの熟読を通して、フランス語圏文化を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる (論理的思考力)。 4. CEFR A1レベルのフランス語の、文化に関するテキストについて、協力しながら、主体的に最低限、意見を言うことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
フランス語翻訳演習Ⅱ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	フランス語を翻訳する。平易なフランス語で書かれたフランス語圏の文化に関する文章を扱う。取り上げるテキストを正確に読み取る訓練を重ねてフランス語のさらなる理解力向上を図るとともに、フランス文化の諸相を把握する。フランス語圏の文化・芸術を通して豊かな感受性を養い、あるいは思索を深め、異文化理解を深めることを目指す。日本語に翻訳する作業もあわせて行い、日本語による表現力の向上も目指す。	1. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストを深く理解できる (専門的知識)。 2. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストを深く理解し、日本語で説明できる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストを熟読を通して、フランス語圏文化を、自身の文化とも比較しながら、よく関係づけることができる (論理的思考力)。 4. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストについて、協力しながら、主体的に意見を言うことができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストを最低限、理解できる (専門的知識)。 2. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストをおおむね理解し、日本語で説明できる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストの熟読を通して、フランス語圏文化を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる (論理的思考力)。 4. CEFR A1完成レベルのフランス語の、文化に関するテキストについて、協力しながら、主体的に最低限、意見を言うことができる (主体的関与・リーダーシップ)。
フランス語コミュニケーション演習 AII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。日常的によく使う表現を身につけ、「聴くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語が使われている異文化を想像してみる。そのために視聴覚教材やインターネットを用いて、フランス人の考えを知る。授業教育科目「フランス語I (入門)」「フランス語II (表現)」を修得済み、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1. フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる (専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1レベルの実践的な会話の運用にすぐれて習熟することができる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる (論理的思考力)。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的によく説明することができる (主体的関与・リーダーシップ)。	1. フランス語のCEFR A1レベルの会話で簡単な文を理解することができる (専門的知識)。 2. フランス語のCEFR A1レベルの実践的な会話の運用におおむね習熟することができる (洞察力・分析力)。 3. CEFR A1レベルのフランス語会話に参加することができる (論理的思考力)。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的におおむね説明することができる (主体的関与・リーダーシップ)。

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
フランス語コミュニケーション演習 III	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語でコミュニケーションする楽しさを実感する。自己表現のスキルを身につけ、「聴くこと、話すこと」ができるようになる。実践的なフランス語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。フランスで生活することを想定し、フランス語の使われている異文化を想像してみる。そのために視聴覚教材やインターネットも用いて、フランス人の考えを知る。教育教育科目「フランス語（入門）」「フランス語（表現）」を修得済みか、同時に履修することを原則とする。フランス語を母語とするネイティブ教員が担当する。	1. フランス語のCEFR A1完成レベルの会話で簡単な文を深く理解することができる（専門的知識）。 2. フランス語のCEFR A1完成レベルの実践的な口語の運用に慣れて音声を聴くことができる（洞察力・分析力）。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語会話に積極的に参加することができる（論理的思考力）。 4. フランス語の口語表現（CEFR A1完成レベル）から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的に説明することができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1. フランス語のCEFR A1完成レベルの会話で簡単な文を理解することができる（専門的知識）。 2. フランス語のCEFR A1完成レベルの実践的な口語の運用におおむね習熟することができる（洞察力・分析力）。 3. CEFR A1完成レベルのフランス語会話に参加することができる（論理的思考力）。 4. フランス語の口語表現から、フランス語の特徴を、協力しながら、主体的におおむね説明することができる（主体的関与・リーダーシップ）。
フランス語フランス文学演習 III	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語学、フランス語圏の文学または文化に関わる分野から、卒業論文のテーマと題材を見出すための演習である。翻訳の基礎も学ぶ。フランス語での資料検索方法の基礎も身につける。さらに資料収集と研究の方法を知り、批評的精神を身に付け、複数のアプローチで多面的な研究の方法の知見を見出すことを目指す。口頭発表とレポート執筆により、論文形式で自分の意見を客観的かつ論理的に述べる訓練を行う。同時にフランス文学について、既存の翻訳や解説を参考にしながら、フランス語圏の社会・芸術を含む文化全般に題材を求め、フランス語圏文化への理解を深めるための基礎的な演習である。まずは取り上げる個々の問題に関する文献に触れ、先行研究を知り、文化をテーマとした研究方法を学ぶ。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。口頭発表、レポート執筆により、様々な題材の中からみずから興味を持った問題を見出し、解決する訓練を重ねる。	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する高度な専門的知識およびフランス語の知識を持っている（専門的知識）。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチに習熟している（洞察力・分析力）。 3. 卒業論文の課題を発見することができる（洞察力・分析力）。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料を収集、整理、読解し、論理的に卒業論文の計画を述べ、主体的にクラスメートと積極的に意見交換することができる（主体的関与・リーダーシップ）。 5. 批評的精神をもって研究対象を扱うことができる（論理的思考力）。	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する最低限の専門的知識およびフランス語の知識を持っている（専門的知識）。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチにおおむね習熟している（洞察力・分析力）。 3. 卒業論文の課題を発見することができる（洞察力・分析力）。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについて資料を収集、整理、読解し、卒業論文の計画を述べ、主体的にクラスメートと意見交換することができる（主体的関与・リーダーシップ）。 5. 批評的精神を理解し、研究対象を扱うことができる（論理的思考力）。
フランス語フランス文学演習 IV	文芸学部 専門分野 II	3	1	フランス語学、フランス語圏の文学または文化に関わる分野から、卒業論文のテーマと題材を扱うためのアプローチを見出すための演習である。翻訳の方法論を学ぶ。フランス語での資料検索方法のスキルも身につける。さらに資料収集と研究の方法を知り、批評的精神を身に付け、複数のアプローチで多面的な研究の方法の知見を見出すことを目指す。口頭発表とレポート執筆により、論文形式で自分の意見を客観的かつ論理的に述べる訓練を行う。同時にフランス文学について、既存の翻訳や解説を参考にしながら、フランス語圏の社会・芸術を含む文化全般に題材を求め、フランス語圏文化への理解を深めるための基礎的な演習である。まずは取り上げる個々の問題に関する文献に触れ、先行研究を知り、文化をテーマとした研究方法を学ぶ。ことばから、作品の背景にある歴史・文化を研究する方法を知るとともに、問題を発見し、考察したことをグループで協議して検討し、表現する能力を養う。フランス語でのCOMMENTAIRE DE TEXTE、RESUMEの作成、口頭発表、レポート執筆により、様々な題材の中からみずから興味を持った問題を見出し、解決する訓練を重ねる。	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する高度な専門的知識、およびそれを理解し表出するためのフランス語の運用能力を持っている（専門的知識）。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチに習熟している（洞察力・分析力）。 3. 卒業論文の課題で掘り下げた論点を表出することができる（洞察力・分析力）。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについてじっくりと資料を収集、整理、読解し、論理的に卒業論文の計画を述べ、主体的にクラスメートと積極的に意見交換することができる（主体的関与・リーダーシップ）。 5. COMMENTAIRE DE TEXTEの方法をよく理解し、実践することができる（論理的思考力）。 6. 批評的精神をもって研究対象を扱うことができる（論理的思考力）。	1. フランスの言語、文学、文化を研究する上で、対象に関する最低限の専門的知識、およびそれを理解し表出するためのフランス語の運用能力を持っている（専門的知識）。 2. フランスの言語、文学、文化を対象とする。研究アプローチにおおむね習熟している（洞察力・分析力）。 3. 卒業論文の課題で掘り下げた論点を最低限表出することができる（洞察力・分析力）。 4. 自分で見出した卒業論文のテーマについて資料を収集、整理、読解し、卒業論文の計画を述べ、主体的にクラスメートと意見交換することができる（主体的関与・リーダーシップ）。 5. COMMENTAIRE DE TEXTEの方法を最低限理解し、実践することができる（論理的思考力）。 6. 批評的精神を理解し、研究対象を扱うことができる（論理的思考力）。
現代演劇論	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本演劇史の昭和前半から平成初年までの歴史をたどる。その過程や戦時における国民文化の形成、戦後の復興期のアマチュア演劇の台頭など時代の変わり目において日本人にとって演劇がどのような存在であったのかを考察することも行う。演劇について基本的なことを理解するとともに演劇と時とのかかわりについて意識をもつようになることを目指す。	昭和前半から平成初年までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について正確な知識を身につける。（専門的知識、幅広い教養） 近代の日本演劇が抱えてきた問題を理解し、その背景と関連を考察する提案をもつようになる（洞察力、分析力、論理的思考力）	昭和前半から平成初年までの日本演劇史における大きな出来事や重要な人物、事項について知識を身につける。（専門的知識、幅広い教養） 近代の日本演劇が抱えてきた問題を理解し、その背景との関連を考察する提案をもつようになる（洞察力、分析力、論理的思考力）
演劇論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	西洋における古代から近代までの演劇理論の歴史をたどる。劇作品の成立する背景にある思想を理解した上で、個々の具体的作品を理解することを目的とする。	古代から近代までの西洋演劇の歴史を十分に理解している。（専門的知識、幅広い教養） 思想を十分に理解した上で古代から近代までの西洋演劇の作品を読むことができる。（専門的知識、幅広い教養） 古代から近代までの代表的な作品の思想について、学術的な用語を用いて説明することができる。（洞察力、分析力、論理的思考力）	古代から近代までの西洋演劇の歴史をある程度理解している。（専門的知識、幅広い教養） 思想をある程度理解した上で古代から近代までの西洋演劇の作品を読むことができる。（専門的知識、幅広い教養） 古代から近代までの代表的な作品の思想についてある程度説明することができる。（洞察力、分析力、論理的思考力）
演劇論B	文芸学部 専門分野 II	3	2	西洋における近代から現代の演劇理論の歴史をたどる。劇作品の成立する背景にある思想を理解した上で、個々の具体的作品を理解することを目的とする。	近代の西洋演劇の歴史を十分に理解している。（専門的知識、幅広い教養） 思想を十分に理解した上で近代の西洋演劇の作品を読むことができる。（専門的知識、幅広い教養） 近代の代表的な作品の思想について、学術的な用語を用いて説明することができる。（洞察力、分析力、論理的思考力）	近代の西洋演劇の歴史をある程度理解している。（専門的知識、幅広い教養） 思想をある程度理解した上で近代の西洋演劇の作品を読むことができる。（専門的知識、幅広い教養） 近代の代表的な作品の思想について説明することができる。（洞察力、分析力、論理的思考力）
舞踊論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本の芸能における舞踊の種類や表現と意味について考察を行う。最先端の創作にも触れながら、現代における伝統的意義と創作の価値、その評価・審美的判断基準、舞踊の見方など、日本舞踊を題材として、そこに隠れている奥義論、日本文化の姿を考察する。	舞踊や歌舞伎、それらにまつ舞台総合芸術から、古来より日本人が表現しようとした文化、美意識をについて論理的に思考することができる。（洞察力、分析力） 日本の古典芸能を更に楽しむ視点を修得出来るようになる。（論理的思考力、リテラシー）（専門的知識、幅広い教養）	舞踊や歌舞伎、それらにまつ舞台総合芸術から、古来より日本人が表現しようとした文化、美意識について自分なりの意見を述べることができる。（洞察力、分析力） 日本の古典芸能に関心向けられるようになる。（論理的思考力、リテラシー）（専門的知識、幅広い教養）
舞踊論B	文芸学部 専門分野 II	3	2	クラシック・バレエを中心に、西洋の舞踊の歴史と作品を扱う。16世紀の宮廷・バレエをはじめ、劇団作品としての形式の完成とロマンティック・バレエの発展、バレエ・リュウによる革新、日本におけるバレエの発展など、その全体像と方法論を構築する諸要素を紹介。教養としての西洋舞踊の基本的知識を習得し、舞台芸術全般、あるいは身体的表現の全体の中に位置づけをしておくことを狙いとする。	起源から現代までのバレエの流れと、背景を具体的に説明できるようになる。（専門的知識・幅広い教養） 授業で学んだ事例を踏まえつつ、今現在劇場で上演されているバレエ作品を、自分なりのテーマ、アプローチ方法で具体的に考察できるようにする。（洞察力、分析力、論理的思考力）	起源から現代までのバレエの流れと、背景をある程度説明できるようにする。（専門的知識・幅広い教養） 授業で学んだ事例を踏まえつつ、今現在劇場で上演されているバレエ作品を、自分なりのテーマ、アプローチ方法である程度考察できるようにする。（洞察力、分析力、論理的思考力）
劇場論A	文芸学部 専門分野 II	3	2	日本の劇場についての大きな歴史を理解し、現代における劇場の実態について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	日本の劇場の歴史と実態について主体的な考察ができる。（分析力、主体的関与、論理的思考力） 日本の劇場に関し、高度な知識、理解力・思考力を身につけている。（専門的知識、幅広い教養、洞察力、分析力）	日本の劇場についての基礎的知識に基づき、主体的な考察ができる。（専門的知識、幅広い教養、洞察力、分析力、論理的思考力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
劇場論B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	西洋の劇場について基本的な歴史を理解し、劇場の美観について学ぶ。知識・理解力・思考力を養う。	西洋の劇場の歴史と美観について主体的な考察ができる。(専門的知識・幅広い教養) 高度な知識・理解力・思考力を身につけている。(洞察力・分析力、論理的思考力)	西洋の劇場についての基本的な知識に基づき、ある程度主体的な考察ができる。(専門的知識、幅広い教養、洞察力、分析力、論理的思考力)
映画論A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	日本で制作・上映された様々な時代の、様々な映画についての知識を定める。 映画論、アニメーション映画、ドキュメンタリー映画、実験映画を鑑賞しつつ、映像表現の分析方法、映画制作のプロセスについての知識を得る。また映画作品を通じて社会や歴史について考える方法を習得する。	映画に関しての広範な知識を獲得する。(専門的知識) 映像を見つめる視線を豊かにし、映像についての感受や対話を豊かにすることができる。(論理的思考力、リテラシー) 自分が見ていることに気づけると、自分自身の「好き」を言葉で表現して深く技術を身につけることができる。(洞察力、分析力)	人間が作りだしてきたさまざまな映像のジャンル・形態について幅広い知識を身につけている(専門的知識・幅広い教養) 映像をみる習慣について、1つ以上の方法を工夫をこらさずすることができる(論理的思考力、洞察力、分析力)。
映画論B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	外国映画の歴史や映像表現の特質について、具体的な作品に触れながら観察する。映画が文学や演劇、その他の芸術と同様に一つの表現媒体であることを学び、考察する対象として意識することを習得する。	具体的な外国映画の作品に親しみ、その歴史的背景や多様性を深く考察できる(専門的知識・幅広い教養) 外国映画の作品を通じて映像表現の可能性について知見を深め、自らの考えを表現できるようになる(洞察力、分析力、論理的思考力)	具体的な外国映画の作品に親しみ、その歴史的背景や多様性を考察できる(専門的知識・幅広い教養) 外国映画の作品を通じて映像表現の特質を理解し、自らの考えを表現できるようになる(洞察力、分析力、論理的思考力)
劇芸術演習 AⅡ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	劇芸術演習AⅠ・Ⅱで学んだ内容をふまえて、考察・発表の授業を展開していく。卒業論文を書く前の段階として、劇芸術作品やテーマを取り上げて論じる手法を身につける機会もある。本授業では歌舞伎を中心に鑑賞・映像の分析、論文の読解、資料の理解などを経て、作品に考察を加え、レポートの執筆へとつなげる。やや専門的な歌舞伎資料にも触れる機会を持ちたい。	歌舞伎に関する文字資料や映像資料を用いて、多角的に作品を理解し、把握することができる。(専門的知識・幅広い教養) 自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力、分析力) 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	歌舞伎に関する文字資料や映像資料を用いて、作品理解に役立てることができる。(専門的知識・幅広い教養) 自分で調べたことをまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力、分析力) 意見交換の中で、自分なりの考えを述べることもできる。(論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 AⅢ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	劇芸術演習AⅢに読み、考察・発表の授業を展開していく。卒業論文を書く前の段階として、劇芸術作品やテーマを取り上げて論じる手法を身につける機会もある。本授業では歌舞伎を中心に鑑賞・映像の分析、論文の読解、資料の理解などを経て、作品に考察を加え、レポートの執筆へとつなげる。やや専門的な歌舞伎資料にも触れる機会を持ちたい。	歌舞伎に関する文字資料や映像資料を用いて、多角的に作品を理解し、把握することができる。(専門的知識・幅広い教養) 自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力、分析力) 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	歌舞伎に関する文字資料や映像資料を用いて、作品理解に役立てることができる。(専門的知識・幅広い教養) 自分で調べたことをまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力、分析力) 意見交換の中で、自分なりの考えを述べることもできる。(論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 AⅣ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	劇芸術演習AⅣに読み、考察・発表の授業を展開していく。卒業論文を書く前の段階として、劇芸術作品やテーマを取り上げて論じる手法を身につける機会もある。本授業では歌舞伎を中心に鑑賞・映像の分析、論文の読解、資料の理解などを経て、作品に考察を加え、レポートの執筆へとつなげる。やや専門的な歌舞伎資料にも触れる機会を持ちたい。	歌舞伎に関する文字資料や映像資料を用いて、多角的に作品を理解し、把握することができる。(専門的知識・幅広い教養) 自らの考察をまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力、分析力) 意見交換の中で、他の受講生の意見を尊重しながら、自身の考察を構築していくことができる。(論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	歌舞伎に関する文字資料や映像資料を用いて、作品理解に役立てることができる。(専門的知識・幅広い教養) 自分で調べたことをまとめ、口頭発表やレポートにまとめることができる。(洞察力、分析力) 意見交換の中で、自分なりの考えを述べることもできる。(論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 BⅡ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	日本の近現代の戯曲を取り上げ、様々な位相で読むことを習得していく。作者が上演を本としてみ、何を伝えようとした作品であるのかを客観的に読み解くとともに、舞台上での上演についての考察を進められるようにする。必要な資料の収集と分析、演劇状況についての知識もその過程で身につけていくこととなる。	日本の劇作家とその戯曲に関する深い知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の戯曲について深く分析をすることができる。(論理的思考力、洞察力) 現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して上演の問題も含めて考察することができる。(洞察力、分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の戯曲を読んで理解することができる。(論理的思考力、洞察力) 現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して考察することができる。(洞察力、分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 BⅢ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	日本の近現代の戯曲を取り上げ、様々な位相で読むことを習得していく。作者が上演を本としてみ、何を伝えようとした作品であるのかを客観的に読み解くとともに、舞台上での上演についての考察を進められるようにする。必要な資料の収集と分析、演劇状況についての知識もその過程で身につけていくこととなる。	日本の劇作家とその戯曲に関する深い知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の戯曲について深く分析をすることができる。(論理的思考力、洞察力) 現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して上演の問題も含めて考察することができる。(洞察力、分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の戯曲を読んで理解することができる。(論理的思考力、洞察力) 現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して考察することができる。(洞察力、分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 BⅣ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	日本の近現代の戯曲を取り上げ、様々な位相で読むことを習得していく。作者が上演を本としてみ、何を伝えようとした作品であるのかを客観的に読み解くとともに、舞台上での上演についての考察を進められるようにする。必要な資料の収集と分析、演劇状況についての知識もその過程で身につけていくこととなる。	日本の劇作家とその戯曲に関する深い知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の戯曲について深く分析をすることができる。(論理的思考力、洞察力) 現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して上演の問題も含めて考察することができる。(洞察力、分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	日本の劇作家とその戯曲についての知識を身につける。(専門的知識・幅広い教養) 現代の戯曲を読んで理解することができる。(論理的思考力、洞察力) 現代の戯曲について必要な演劇史的な知識を駆使して考察することができる。(洞察力、分析力) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 CⅡ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	古代から現代まで、様々なテーマによって演劇作品・戯曲作品をその思想と歴史から読解し、理解することを目的とする。それによって現在の演劇のあり方を相対化し、個々の作品を多角的に考察する。	劇作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について十分な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景について十分に説明できる。(洞察力) 自分が観劇する際に、その思想的側面について意識し、どのように演出されているかを考えて観ることができる。(分析力、論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	劇作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について基礎的な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景についてある程度説明できる。(洞察力) 自分が観劇する際に、その思想的側面について意識して見ることができ。(分析力、論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 CⅢ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	古代から現代まで、様々なテーマによって演劇作品・戯曲作品をその思想と歴史から読解し、理解することを目的とする。それによって現在の演劇のあり方を相対化し、個々の作品を多角的に考察する。	劇作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について十分な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景について十分に説明できる。(洞察力) 自分が観劇する際に、その思想的側面について意識し、どのように演出されているかを考えて観ることができる。(分析力、論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	劇作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について基礎的な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景についてある程度説明できる。(洞察力) 自分が観劇する際に、その思想的側面について意識して見ることができ。(分析力、論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 CⅣ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	古代から現代まで、様々なテーマによって演劇作品・戯曲作品をその思想と歴史から読解し、理解することを目的とする。それによって現在の演劇のあり方を相対化し、個々の作品を多角的に考察する。	劇作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について十分な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景について十分に説明できる。(洞察力) 自分が観劇する際に、その思想的側面について意識し、どのように演出されているかを考えて観ることができる。(分析力、論理的思考力、リテラシー) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	劇作品の社会的背景と、テーマ、描き方との関連性について基礎的な知識を身につけている。(専門的知識・幅広い教養) 個々の作品の歴史的背景についてある程度説明できる。(洞察力) 自分が観劇する際に、その思想的側面について意識して見ることができ。(分析力、論理的思考力、リテラシー) 他者と協力してある程度の成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)
劇芸術演習 DⅡ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	宝塚歌劇の作品を研究を行なう。知識・理解力・思考力を養う。	宝塚歌劇の作品を主体的に研究できるだけの基礎的な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識・幅広い教養、論理的思考力、洞察力、分析力) 積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)	宝塚歌劇の作品を研究できるだけの基礎的な知識・理解力・思考力を身につけている。(専門的知識・幅広い教養、論理的思考力、洞察力、分析力) 他者と協力してある程度成果を出すことができる。(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
劇芸術演習 DIV	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	劇芸術演習DIIIに続き、宝塚歌劇の作品研究を行なう。知識・理解力・思考力を養う。	劇芸術演習DIIIに続き、宝塚歌劇の作品を主体的に研究できるだけの高度な知識・理解力・思考力を身につけている。（専門的知識・幅広い教養、論理的思考力、洞察力、分析力）積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）	宝塚歌劇の作品を研究できるだけの基礎的な知識・理解力・思考力を身につけている。（専門的知識・幅広い教養、論理的思考力、洞察力、分析力）他者と協力してある程度成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）
劇芸術演習 EIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	映像作品を取り上げ、その成立の背景や作品の受容について考察するための方法を習得し、考察を深められるようにする。2年次に学んできた、関心がある対象について、図書館や古書店などを使って専門的に調査する練習や、自分の関心のある映像作品やそれに関わる映画関係者をさがし出す練習をおこなう。4年次の卒業論文の作成を視野におきながら、興味のあることから、映像をとおして、広く専門的に学び想像し、言葉でつづる勉強をかき進めていく。	映像作品を研究する上で必要とされる専門的な知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 映像作品を鑑賞して深く考察することができる。（論理的思考力、洞察力、分析力）自身の考察をひろげる資料や文献を探し出し、読解して自分の文章へ生かす力を身につけている。（洞察力）積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）	映像作品を研究する上で必要とされる基礎的な知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 映像作品を鑑賞して自分なりに考察することができる。（論理的思考力、洞察力、分析力）自身の考察をひろげる資料や文献を探ることができる。（洞察力）他者と協力してある程度成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）
劇芸術演習 EIV	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	劇芸術演習EIIIに続き、映像作品を取り上げ、その成立の背景や作品の受容について考察するための方法を習得し、考察を深められるようにする。2年次に学んできた、関心がある対象について、図書館や古書店などを使って専門的に調査する練習や、自分の関心のある映像作品やそれに関わる映画関係者をさがし出す練習をおこなう。4年次の卒業論文の作成を視野におきながら、興味のあることから、映像をとおして、広く専門的に学び想像し、言葉でつづる勉強をかき進めていく。	劇芸術演習EIIIに続き、映像作品を研究する上で必要とされる専門的な知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 映像作品を鑑賞して深く考察することができる。（論理的思考力、洞察力、分析力）自身の考察をひろげる資料や文献を探し出し、読解して自分の文章へ生かす力を身につけている。（洞察力）積極的に他者と協力して豊かな成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）	映像作品を研究する上で必要とされる基礎的な知識を身につける。（専門的知識・幅広い教養） 映像作品を鑑賞して自分なりに考察することができる。（論理的思考力、洞察力、分析力）自身の考察をひろげる資料や文献を探ることができる。（洞察力）他者と協力してある程度成果を出すことができる。（主体的関与・リーダーシップ）
ドラマ創作	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	4	ドラマ（舞台の戯曲・テレビ台本）の創作を行う授業である。1年間に3作品のオリジナル・ドラマを制作し、完成させた作品を提出する。制作方法（ドラマの発想・題材・主題・構成・人物・セリフなど）や原稿用紙の使い方、実際に書く手順などを学び、それをもとに受講者は劇作を重ねる。授業担当者や履修生同士による作品批評も行う。作品の完成度を高める。	テレビドラマや舞台の台本を書くための基本的な要素を習得し、自ら多くの作品に触れることを目指す。（専門的知識・幅広い教養、論理的思考力、洞察力） 1年間で完成度の高いレベルの作品を3作品完成させる。（主体的関与） 自分の作品、他の履修生の作品とともに観客的批評ができるようになり制作にも反映させられるようになる。（洞察力、分析力、主体的関与、リーダーシップ）	テレビドラマや舞台の台本を書くための基本的な要素を知り、自ら多くの作品に触れることを目指す。（専門的知識・幅広い教養、論理的思考力、洞察力） 1年間で完成度の高いレベルの作品を3作品完成させる。（主体的関与） 自分の作品、他の履修生の作品とともに批評ができるようになり制作にも反映させられるようになる。（洞察力、分析力、主体的関与、リーダーシップ）
日本美術史論A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を理解する。絵画の基礎材や色料の調査・分析方法について理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を得る。また、文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を身に付ける。美術史研究と技法科学的な観点も関連付けて、日本の絵画史を見直し、美術作品についての構造的・物質的理解を深める。講義内容を通じて、日本美術史研究の実践力を獲得する。	1. 前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を十分理解している。（専門的知識・洞察力） 2. 絵画の基礎材や色料の調査・分析方法について十分理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を十分獲得している。（専門的知識・分析力） 3. 文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を十分身に付けている。（専門的知識・分析力・洞察力） 4. 日本美術史研究のための実践力を十分獲得している。（分析力・洞察力・論理的思考力） 5. 美術作品についての構造的・物質的理解の獲得や運用について積極的になる。（分析力・洞察力・論理的思考力）	1. 前近代の絵画を通じて、日本美術の特質を一通り理解している。（専門的知識・洞察力） 2. 絵画の基礎材や色料の調査・分析方法について一通り理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を部分的に獲得している。（専門的知識・分析力） 3. 文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を一通り身に付けている。（専門的知識・洞察力） 4. 日本美術史研究のための実践力を部分的に獲得している。（分析力・洞察力・論理的思考力） 5. 美術作品についての構造的・物質的理解の獲得や運用について以前よりは積極的になる。（分析力・洞察力・論理的思考力）
日本美術史論B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	各時代の美術作品を通じて、日本美術の様式と図像における特質を理解する。日本の美術が「誰によって」「どのように」作られてきたのか、史料と技法を基に理解する。絵画、彫刻のジャンル別の制作法と制作手法についての知識を獲得し、美術制作の意思について理解を深める。講義内容を通じて、日本美術史研究の実践力を獲得する。	1. 前近代の美術を通じて、日本美術の特質を十分理解している。（専門的知識・洞察力） 2. 美術作品の素材や色料の調査・分析方法について十分理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を十分獲得している。（専門的知識・分析力） 3. 文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を十分身に付けている。（専門的知識・分析力・洞察力） 4. 日本美術史研究のための実践力を十分獲得している。（分析力・洞察力・論理的思考力） 5. 美術作品についての構造的・物質的理解の獲得や運用について積極的になる。（分析力・洞察力・論理的思考力）	1. 前近代の美術を通じて、日本美術の特質を一通り理解している。（専門的知識・洞察力） 2. 美術作品の素材や色料の調査・分析方法について一通り理解し、作品研究や作家研究へ応用する視点を部分的に獲得している。（専門的知識・分析力） 3. 文化財保護の必要性から保存修復や模写、復元に対する関心を一通り身に付けている。（専門的知識・洞察力） 4. 日本美術史研究のための実践力を部分的に獲得している。（分析力・洞察力・論理的思考力） 5. 美術作品についての構造的・物質的理解の獲得や運用について以前よりは積極的になる。（分析力・洞察力・論理的思考力）
東洋美術史論A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	アジア諸地域の美術について、特定の時代、特定の地域、特定の芸術家を対象として、その様式の展開、図像内容、異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について理解する。また、作品成立・受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化など多角的に理解する。講義内容を通じて、東洋美術史研究の実践力を獲得する。	1. 古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、過渡的に十分理解している。（専門的知識・分析力） 2. アジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりについて十分理解している。（専門的知識・洞察力） 3. 美術作品を通じ、アジアの人々の何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を十分獲得している。（分析力・洞察力・論理的思考力）	1. 古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、過渡的にある程度理解している。（専門的知識・分析力） 2. アジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりについてある程度理解している。（専門的知識・洞察力） 3. 美術作品を通じ、アジアの人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点をある程度獲得している。（分析力・洞察力・論理的思考力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位取得目標 (成績評価C)
東洋美術史論B	文芸学部 専門分野II	3	2	アジア諸地域の美術について、特にその様式の展開、図像内容を中心とし、合わせて異なる時代・地域間の影響関係、芸術家間の影響関係、社会的機能、作品受容の歴史について理解する。また、作品成立、受容の背景を、歴史、思想、宗教、文化など多角的に理解する。講義内容を通じて、東洋美術史研究の実践力を獲得する。	1. 古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、過渡的に十分理解している。(専門的知識・分析力) 2. アジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりについて十分理解している。(専門的知識・洞察能力) 3. 美術作品を通じ、アジアの人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点を十分獲得している。(分析力・洞察力・論理的思考力)	1. 古代から現代までのアジアにおける美術の歴史について、過渡的にある程度理解している。(専門的知識・分析力) 2. アジア諸地域の美術について、人体、空間、時間、色彩、宗教・神話、文化の他の領域との関わり、社会との関わりについてある程度理解している。(専門的知識・洞察能力) 3. 美術作品を通じ、アジアの人々が何をどのように表現しようとしてきたのか、思想や宗教を踏まえた全体像を概観的に把握する視点をある程度理解している。(分析力・洞察力・論理的思考力)
西洋美術史論A	文芸学部 専門分野II	3	2	ヨーロッパ美術史の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の芸術家を対象として、その表現形式や方法の展開、図像内容、異なる時代や地域間の影響関係、芸術家相互の影響関係、社会的機能などが作品成立にどのように作用しているか、作品がどのように受容されてきたか、詳細な知識を獲得することを目的とする。 同時に、授業を通じて、美術史の研究方法のあらましを学ぶ。	①授業で扱われる作品や芸術家に関する問題についての詳細な知識をもち、的確に説明できる。(専門的知識・分析力) ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもち、的確に説明できる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③美術史の研究方法について基本的な事項を理解し、十分に実践することができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)	①授業で扱われる作品や芸術家に関する問題についての知識をもっている。(専門的知識・分析力) ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもっている。(専門的知識・分析力・洞察力) ③美術史の研究方法について基本的な事項を理解し、ある程度実践することができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)
西洋美術史論B	文芸学部 専門分野II	3	2	ヨーロッパ美術史について特にその様式と図像の特徴、展開、その表現形式や表現方法の展開、異なる時代や地域間の影響関係、芸術家相互の影響関係、社会的機能などが作品成立にどのように作用しているか、作品がどのように受容されてきたか、詳細な知識を獲得することを目的とする。 同時に、授業を通じて、美術史の研究方法のあらましを学ぶ。	①授業で扱われる作品や芸術家に関する問題についての詳細な知識をもち、的確に説明できる。(専門的知識・分析力) ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもち、的確に説明できる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③美術史の研究方法について基本的な事項を理解し、十分に実践することができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)	①授業で扱われる作品や芸術家に関する問題についての知識をもっている。(専門的知識・分析力) ②表現形式や方法と時代や地域、あるいは社会的機能との関係について知識をもっている。(専門的知識・分析力・洞察力) ③美術史の研究方法について基本的な事項を理解し、ある程度実践することができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)
デザイン論A	文芸学部 専門分野II	3	2	Aではデザインの誕生から20世紀前半を対象とし、デザインとは何であるか、デザインという領域がどのように形成され展開してきたか、美術の他の領域とどのような関係にあるか、経済活動や社会との関係はどのようなものか、デザイナーたちはデザインによって何を表現しようとしてきたのか、あるいはそもそもデザインとは表現たり得るのか、といった多岐にわたる問題について詳細な考察を行い、デザインについて理解する。とりわけ、われわれ自身の生活との関わりにおいて批判的に捉えることを重視する。	①20世紀前半までのデザインについて詳細な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力) ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について詳細な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③デザイナーの生活にとっての意義について深く考察し、研究発表、レポート作成ができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)	①20世紀前半までのデザインについて基本的な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力) ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について基本的な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③デザイナーの生活にとっての意義について考察し、研究発表、レポート作成ができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)
デザイン論B	文芸学部 専門分野II	3	2	Bでは、Aを受けて20世紀後半から21世紀を対象とし、デザインとは何であるか、デザインという領域がどのように形成され展開してきたか、美術の他の領域とどのような関係にあるか、経済活動や社会との関係はどのようなものか、デザイナーたちはデザインによって何を表現しようとしてきたのか、あるいはそもそもデザインとは表現たり得るのか、といった多岐にわたる問題について詳細な考察を行い、デザインについて理解する。とりわけ、われわれ自身の生活との関わりにおいて批判的に捉えることを重視する。	①20世紀後半以降のデザインについて詳細な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力) ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について詳細な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③デザイナーの生活にとっての意義について深く考察し、研究発表、レポート作成ができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)	①20世紀後半以降のデザインについて基本的な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力) ②デザインと美術の他の領域や経済・社会との関係について基本的な知識を持ち、説明ができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③デザイナーの生活にとっての意義について考察し、研究発表、レポート作成ができる。(分析力・洞察力・論理的思考力)
美術史演習III	文芸学部 専門分野II	3	1	概論、演習、各論において知識や技能を修得したのち、さらに専門領域の知識を深め、研究の方法を確実に身につける。資料調査、文献講読、作品の記述、アトリビューションの方法を理解する。研究発表、レポートの作成、美術館・博物館の見学によって研究能力を身につける。	①文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細に調査することができる。(分析力) ②文献資料を理解し、内容を詳細に説明することができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③作品記述・アトリビューションが弁である。(専門的知識・分析力・論理的思考力) ④研究発表、レポートの作成が的確にできる。(分析力・論理的思考力) ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	①文献資料や作品について、文献やインターネットで十分に調査することができる。(分析力) ②文献資料を理解し、内容を説明することができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③作品記述・アトリビューションが弁である。(専門的知識・分析力・論理的思考力) ④研究発表、レポートの作成ができる。(分析力・論理的思考力) ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる程度である(主体的関与・リーダーシップ)
美術史演習IV	文芸学部 専門分野II	3	1	美術史演習IIIに続き、さらに専門領域の高度な知識と研究の方法を確実に身につける。資料調査、文献講読、作品の記述、アトリビューションの方法を理解する。研究発表、レポートの作成、美術館・博物館の見学によって研究能力を高める。	美術史演習IIIに続き、①文献資料や作品について、文献やインターネットで詳細かつ広範囲に調査することができる。(分析力) ②文献資料を理解し、内容を詳細に説明することができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③作品記述・アトリビューションが弁である。(専門的知識・分析力・論理的思考力) ④研究発表、レポートの作成が的確にできる。(分析力・論理的思考力) ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる(主体的関与・リーダーシップ)	①文献資料や作品について、文献やインターネットで広範囲に調査することができる。(分析力) ②文献資料を理解し、内容を説明することができる。(専門的知識・分析力・洞察力) ③作品記述・アトリビューションが弁である。(専門的知識・分析力・論理的思考力) ④研究発表、レポートの作成ができる。(分析力・論理的思考力) ⑤他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる程度である(主体的関与・リーダーシップ)
世界文学論A	文芸学部 専門分野II	3	2	世界のさまざまな作品を読み解く。	1. 「世界文学」の理解ができる。(専門的知識) 2. 世界文学について自ら問いを立て、考察し、説得力を持って表現できる。事例を考えて論じることができる(洞察力・分析力) 3. 授業でえた基本的な知識・考え方を応用することができる(論理的思考力)	1. 「世界文学」について基礎的な理解ができる。(専門的知識) 2. 世界のさまざまな文学を読み、考察し、その考察内容を表現できる。(洞察力・分析力) 3. 授業でえた基本的な知識や考え方を身につけている。(論理的思考力)

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
世界文学論 B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	「世界文学」の概念がどのように形成されたかを学び、「世界文学」の観点から作品を読み解く。	1. 「世界文学」概念の問題点を理解している。（専門的知識） 2. 世界文学について自ら問いを立て、考察し、読解力を持って表現できる。事例を考えて論じることができる（洞察力・分析力） 3. 授業で得た知識・考え方を応用することができる（論理的思考力）	1. 「世界文学」について基本的な内容を理解している。（専門的知識） 2. 世界のさまざまな文学を読み、考察し、その考察内容を表現できる。（洞察力・分析力） 3. 授業で得た基本的な知識や考え方を身につけている。（論理的思考力）
音楽文化論 A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	ポピュラー音楽の歴史と、それがファッションなどの若者文化にさまざまな形で与えてきた影響を、映像・音楽・文学作品などを用いて見ておくことで、ますます多様化する現代の音楽ジャンル・消費の様式・ファンのあるりようなどについて考えさせられるようにする。	1. ポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化について説明できるようになる（専門的知識）。 2. 過去の音楽と若者文化のありようについての知識に基づいて、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（洞察力・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に活用することができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。	1. ポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化についてある程度説明できるようになる（専門的知識）。 2. 過去の音楽と若者文化のありようについての知識に基づいて、みずから問いを立て、考察し、それをある程度表現できるようになる（洞察力・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために活用することがある程度できるようになる（論理的思考力・リテラシー）。
音楽文化論 B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	20世紀から現代に至るポピュラー音楽の歴史と、それがファッションなどの若者文化にさまざまな形で与えてきた影響を、映像・音楽・文学作品などを用いて見ておくことで、ますます多様化する現代の音楽ジャンル・消費の様式・ファンのあるりようなどについて考えさせられるようにする。	1. 20世紀から現代に至るポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化について正確に説明できるようになる（専門的知識）。 2. 20世紀から現代に至る音楽と若者文化のありようについての知識に基づいて、みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる（洞察力・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に活用することができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。	1. 20世紀から現代に至るポピュラー音楽の歴史と、それに関わる若者文化についてある程度正確に説明できるようになる（専門的知識）。 2. 20世紀から現代に至る音楽と若者文化のありようについての知識に基づいて、みずから問いを立て、考察し、それをある程度表現できるようになる（洞察力・分析力） 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために活用することがある程度できるようになる（論理的思考力・リテラシー）。
芸術社会学 A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	「アート」の名で語られる、現代のさまざまな表現を対象とし、それらと社会との関わりについて考える講義である。Aでは地域（場所）とアートの関係に注目しながら、背景となる文化政策の動向や社会状況を、最新のテキストや映像とともに考察する。	1. 現代アートの概況とその事例、地域の観点からの社会課題について正確に説明することができる（専門的知識） 2. 作品やプロジェクトを社会的文脈のうえで分析することができる（洞察力・分析力） 3. 分析結果を適切に表現することができる（論理的思考力）	1. 現代アートの概況とその事例について説明することができる（専門的知識） 2. 作品やプロジェクトを分析することができる（洞察力・分析力） 3. 分析結果を表現することができる（論理的思考力）。
芸術社会学 B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	「アート」の名で語られる、現代のさまざまな表現を対象とし、それらと社会との関わりについて考える講義である。Bでは個人とアートの関係に注目しながら、背景となる文化政策の動向や社会状況を、最新のテキストや映像とともに考察する。	1. 現代アートの概況とその事例、個人の観点からの社会課題について正確に説明することができる（専門的知識） 2. 作品やプロジェクトを社会的文脈のうえで分析することができる（洞察力・分析力） 3. 分析結果を適切に表現することができる（論理的思考力）	1. 現代アートの概況とその事例について説明することができる（専門的知識） 2. 作品やプロジェクトを分析することができる（洞察力・分析力） 3. 分析結果を表現することができる（論理的思考力）。
現代思想論 A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	Aでは、20世紀から始まる西洋現代思想の展開のうち、現象学・実存主義・マルクス主義といった各思想を説明・概観し、考察する。次いで、現代に生きる哲学として「心と身体」「哲学における死の問題」「人間の社会性」といった各種テーマを設定し、説明・考察する。	1. 現代思想が展開する背景を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. 現象学とその影響を基本的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 実存主義とその影響を基本的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4. マルクス主義とその影響を基本的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 5. フラクマティズムとその影響を基本的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 6. 構造主義とその影響を基本的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 7. 分析哲学とその影響を基本的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 8. 現代に行き着く哲学として設定された各種テーマについて思考し、考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 9. 哲学的なレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	1. 現代思想とは何か説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. 現象学とは何か概観的に説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 実存主義とは何か概観的に説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4. 構造主義とは何か概観的に説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 5. 哲学的な思考のもと、哲学的なレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
現代思想論 B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	Bでは、20世紀から始まる西洋現代思想の展開のうち、フラクマティズム・構造主義・分析哲学といった各思想を説明・概観し、考察する。次いで、現代に生きる哲学として「心と身体」「哲学における死の問題」「人間の社会性」といった各種テーマを設定し、説明・考察する。	1. 現代思想が展開する背景を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. 現象学とその影響を専門的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 実存主義とその影響を専門的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4. マルクス主義とその影響を専門的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 5. フラクマティズムとその影響を専門的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 6. 構造主義とその影響を専門的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 7. 分析哲学とその影響を専門的に理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 8. 現代に行き着く哲学として設定された各種テーマについて思考し、考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 9. 哲学的なレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	1. 現代思想とは何か詳細に説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2. 現象学とは何か専門的に説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3. 実存主義とは何か専門的に説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4. 構造主義とは何か専門的に説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 5. 哲学的な思考のもと、哲学的なレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
歴史文化論 A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	文化のもつ重要性および可能性と限界性、筆記物誌と合戦絵巻を題材に歴史学的な視点から考察する。	1. 文化の重要性および可能性と限界性について、文芸作品に関する深い知識を習得している（専門的知識）。 2. 文化の重要性および可能性と限界性について、高度な分析・考察ができ、文芸作品に関する自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 3. 文化の重要性および可能性と限界性について、文芸作品に関する深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（主体的関与）。	1. 文化の重要性および可能性と限界性について、文芸作品に関する知識を習得している（専門的知識）。 2. 文化の重要性および可能性と限界性について、分析・考察ができ、文芸作品に関する自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 3. 文化の重要性および可能性と限界性について、文芸作品に関する関心・意欲をもって授業に臨むことができる（主体的関与）。

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
歴史文化論 B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	文化のもつ重要性および可能性と限界性を、身近な生活文化を素材に歴史学的な視点から考察する。	1.文化の重要性および可能性と限界性について、歴史文化に関するより深い知識を習得している（専門的知識）。 2.文化の重要性および可能性と限界性について、より高度な分析・考察ができ、歴史文化に関する自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 3.文化の重要性および可能性と限界性について、歴史文化に関するより深い関心・意欲をもって授業に臨むことができる（主体的関与）。	1.文化の重要性および可能性と限界性について、歴史文化に関する知識を習得している（専門的知識）。 2.文化の重要性および可能性と限界性について、分析・考察ができ、歴史文化に関する自らの見解を述べることができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 3.文化の重要性および可能性と限界性について歴史文化に関する、関心・意欲をもって授業に臨むことができる（主体的関与）。
幻想文学論 A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	幻想文学やファンタジー作品について、非現実的で私たちが驚かし、楽しませるものだけでなく、長い伝統を踏まえた人間の想像力の成果として捉え直す。とりわけ身近な内容を扱う。	1. 幻想文学についての知識を持ち、作品を系統立てて捉えることができる。（専門的知識） 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で判断し、それを他者に伝えることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 自分の知らない作品、時代等について積極的に学び、自分の関心対象の理解に反映させることができる。（主体的関与）	1. 幻想文学についての基本知識を持ち、作品を系統立てて捉えようとする。（専門的知識） 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で想像し、それを他者に伝えようとする。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 自分の知らない作品、時代等について学び、自分の関心対象の理解にやや反映させることができる。（主体的関与）
幻想文学論 B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	幻想文学やファンタジー作品について、非現実的で私たちが驚かし、楽しませるものだけでなく、長い伝統を踏まえた人間の想像力の成果として捉え直す。とりわけ作品の背景に即した内容を扱う。	1. 幻想文学とその背景について知識を持ち、作品を系統立てて捉えることができる。（専門的知識） 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で判断し、それを他者に伝えることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 自分の知らない作品、時代等について積極的に学び、自分の関心対象の理解に反映させることができる。（主体的関与）	1. 幻想文学とその背景についての基本知識を持ち、作品を系統立てて捉えようとする。（専門的知識） 2. 幻想文学を成り立たせるものについて自分で想像し、それを他者に伝えようとする。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3. 自分の知らない作品、時代等について学び、自分の関心対象の理解にやや反映させることができる。（主体的関与）
ジェンダー社会学	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	ジェンダーという観点からさまざまな作品や現象、社会現象をとりあげ、ジェンダーによって生じる文化・社会的課題を解決する方法について考察する。	1. ジェンダーなど性差に関する概念とそれらが生まれた背景を理解できるようになる（専門的知識） 2. ジェンダーの概念を用いて、作品や社会現象を分析することができる（洞察力・分析力） 3. ジェンダーによって生じる文化・社会的課題を解決する方法を説明できるようになる（論理的思考力） 4. この授業でえた知識を自分ごととしてとらえ、積極的に行動できるようになる（主体的関与・リーダーシップ）	1. ジェンダーなど性差に関する概念を理解できるようになる（専門的知識） 2. 作品や社会現象におけるジェンダーのありようを説明することができる（洞察力・分析力） 3. ジェンダーによって生じる文化・社会的課題を説明できるようになる（論理的思考力） 4. この授業でえた知識を自分ごととしてとらえることができる（主体的関与・リーダーシップ）
文章論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	文学作品（フィクション、散文、詩など）や歌詞の文章を扱い、文体やレトリックにどのような特徴があり、それが読者に対してどのような効果を持つのかについて考察する。そこで学んだ内容を生かして、みずからさまざまなジャンルの文章を書く技能を高める。	1.さまざまな文学作品・歌詞に用いられている文体やレトリックについて正確に説明できるようになる（専門的知識）。 2.文体やレトリックについての基礎知識を身につけた上で、どのような文章が想定する読者にふさわしいものなのかを適切に考えられるようになる（洞察力・分析力）。 3.実際に、わかりやすく自分の考えや思いが読者にうまく伝わる文章を書くことができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。	1.さまざまな文学作品・歌詞に用いられている文体やレトリックについて説明できるようになる（専門的知識）。 2.文体やレトリックについての基礎知識を身につけた上で、どのような文章が想定する読者にふさわしいものなのかを考慮することができるようになる（洞察力・分析力）。 3.実際に、自分の考えや思いが読者に伝わる文章を書くことができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。
パフォーマンス論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	パフォーマンスとは何か、それを生み出し、それが伝える文化的・社会的文脈はいかなるものか。具体的な対象を取り上げつつ様々な角度からこの問と向き合い、人間の営みを広い視野で総合的にとらえることを目指す。	1.「パフォーマンス」の意味を理解できるようになる（専門的知識） 2.「パフォーマンス」をとりまく文化・社会的文脈を理解できるようになる（専門的知識） 3.「パフォーマンス」の観点から対象を分析することができる（洞察力・分析力・論理的思考力）	1.「パフォーマンス」の意味を理解できるようになる（専門的知識）。2.「パフォーマンス」の観点から作品を分析することができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。
宗教文化論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	人間社会を世界の中に位置づけ、説明する枠組のひとつに宗教がある。本科目は古今東西に材を取り、対象とする社会・文化が宗教とどのような関係を持ち込んでいるのかを、具体的な事例によりつつ議論していく。	1.宗教という枠組、物の見方について深く確解し、自分の言葉で説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 2.各時代、地域、社会における宗教がどのような役割を果たし、どのような位置にあるのかについて深く確解し、自分の言葉で説明することができる（専門的知識・分析力・論理的思考力） 3.自分の生きる社会、文化における宗教のありようについて、自分なりの意見を持つようになる（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	1.宗教的な見方を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力）2.各時代、地域、社会における宗教の役割を説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力）3.自分の生きる社会、文化における宗教について説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
漢字文化論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	漢字が東アジアの文化の伝播、伝承に果たしてきた役割は大きい。この科目ではそうした漢字の意義と役割に着目して、漢字文化の諸相、内実を考え、現代文化を読み解く手法を涵養する。	1.漢字文化の様々な面について深く確解し、その特徴を自分の言葉で述べることができる。（専門的知識） 2.漢字文化が文化の伝播、伝承に果たす役割について深く確解し、議論をすることができる。（洞察力） 3.現代文化における漢字文化の意味と意義について深く確解し、「いま・ここ」の分析と考察に役立てることができる。（分析力・論理的思考力）	1.漢字文化の多様な面び、その特徴を自分の言葉で述べることができる。（専門的知識） 2.漢字文化が文化の伝播、伝承に果たす役割を学び、その実用を述べることができる。（洞察力） 3.現代文化における漢字文化の意味と意義について、自分の言葉で考えを述べることができる。（分析力・論理的思考力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
思想文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	西洋哲学思想あるいは東洋思想に関する代表的な原本テキスト（翻訳）を読む。その際、関連する優れた解説本がある場合は、それも併せて読みレポートし、その哲学・思想についての基礎的な見識を拓く。履修者の人数が多い場合はグループワークを通じて、少ない場合は各個人にてレポートし、プレゼン形式にて考察・分析のプロセスおよび結果を発表、全体でのディスカッションを経て、対象となる哲学・思想の基礎的な理解・考察を深める。	1.テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。 2.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について基本的に理解し、概括的に説明できる。 3.（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4.自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。（リテラシー・専門的知識・分析力・論理的思考力） 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ） 6.授業で培った理解と実践した発表を統合する哲学的思想的なレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察能力・分析力・論理的思考力） 7.グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。 2.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について基本的に理解し、概括的に説明できる。 3.（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4.授業で培った理解と実践した発表を統合するレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察能力・分析力・論理的思考力） 5.グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
思想文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	西洋哲学思想あるいは東洋思想に関する代表的な原本テキスト（翻訳）を読む。その際、関連する優れた解説本がある場合は、それも併せて読みレポートし、その哲学・思想についての見識をより深く発展的に広げる。履修者の人数が多い場合はグループワークを通じて、少ない場合は各個人にてレポートし、プレゼン形式にて考察・分析のプロセスおよび結果を発表、全体でのディスカッションを経て、対象となる哲学・思想の理解・考察をより深める。	1.テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。 2.（幅広い教養・リテラシー・専門的知識） 3.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について専門的に理解し、具体的に説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4.自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。（リテラシー・専門的知識・分析力・論理的思考力） 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。（論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ） 6.授業で培った理解と実践した発表を統合する哲学的思想的なレポートを作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察能力・分析力・論理的思考力） 7.グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.テーマに設定された各哲学・思想に関する資料を図書館やWebにて適切に検索し、入手することができる。 2.（幅広い教養・リテラシー・専門的知識） 3.入手した資料をもとに、テーマに設定された各哲学・思想について専門的に理解し、具体的に説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） 4.自らの有効な意見を他者に伝えるための適切なプレゼン資料と配布資料を作成できる。（リテラシー・専門的知識・洞察能力・分析力・論理的思考力） 5.グループワークにおいて他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
芸術社会演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	芸術社会を対象に、専門テキスト・資料を読み解き、考察する。また発表、グループワーク、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1.作品や事象について適切に理解し説明することができる（専門的知識） 2.作品や事象を適切に分析することができる（洞察力・分析力） 3.分析の結果を適切に表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.作品や事象について説明することができる（専門的知識） 2.作品や事象を分析することができる（洞察力・分析力） 3.分析の結果を表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
芸術社会演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	芸術社会を対象に、専門テキスト・資料を読み解くとともに、自らデータを収集し、考察する。また発表、討論を通して、他者の意見を聞く力、自身の考えを伝える力を身につける。	1.作品や事象について適切に理解し説明することができる（専門的知識） 2.作品や事象とそれにつながるデータを適切に分析することができる（洞察力・分析力） 3.分析の結果を適切に表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.作品や事象について説明することができる（専門的知識） 2.作品や事象とそれにつながるデータを分析することができる（洞察力・分析力） 3.調査・分析の結果を表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
物語文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	国、ジャンルを問わず、文芸作品を取り上げ、読解を学ぶ。文献探し、発表、討論を通して意見を構成し、他者に伝える力を身につける。	1.物語文化に関していくつかの観点から論じることができる（専門的知識） 2.作品を分析することができる（洞察力・分析力） 3.調査・分析の結果を表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.物語文化に関する基礎的な知識をえている（専門的知識） 2.作品をある程度分析することができる（分析力・洞察力） 3.調査・分析の結果を表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
物語文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	卒業論文作成に向けて、文献探し、発表を行い、討論を通して論文の構成を組み立てる。	1.物語文化に関して適切な観点から論じることができる（専門的知識） 2.作品を分析することができる（洞察力・分析力） 3.調査・分析の結果を表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.物語文化の観点についての基礎的な知識をえている（専門的知識） 2.作品をある程度分析することができる（分析力・洞察力） 3.調査・分析の結果を表現することができる（論理的思考力） 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
比較文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	国や時代の異なる文芸作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を理解する。自分の関心に基づくテーマについて発表することで、他の人に伝える技術を磨く。	1.それぞれの文芸作品について、他の作品との違いから魅力や価値を判断し、自分の言葉で伝えることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 2.比較する文芸作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。（専門的知識） 3.他の学生の発表にコメントすることで自他に有意義な刺激を与えられる。（主体的関与・リーダーシップ）	1.それぞれの文芸作品について、他の作品との違いからある程度は魅力や価値を判断し、自分の言葉で伝えることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 2.比較する文芸作品についての初歩的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけていく。（専門的知識） 3.他の学生の発表にコメントすることで自他に有意義な刺激を与えようとしている。（主体的関与・リーダーシップ）
比較文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	国や時代の異なる文芸作品同士、あるいは作品と現実の社会等を比較することで、作品単体では気づきにくい特徴を理解する。自分の関心に基づくテーマについてより詳細な発表をすることで、他の人に伝える技術を磨く。	1.それぞれの文芸作品について、他の作品との違いから魅力や価値を判断し、自分の言葉で詳しく伝えることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 2.比較する文芸作品についての知識を深め、それらの作品を客観的に扱う能力を有している。（専門的知識） 3.他の学生の発表にコメントすることで自他に有意義な刺激を与えられる。（主体的関与・リーダーシップ）	1.それぞれの文芸作品について、他の作品との違いからある程度は魅力や価値を判断し、自分の言葉で詳しく伝えることができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 2.比較する文芸作品についての初歩的な知識を得て、それらの作品を客観的に扱う能力を身につけていく。（専門的知識） 3.他の学生の発表にコメントすることで自他に有意義な刺激を与えようとしている。（主体的関与・リーダーシップ）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
歴史文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	日本史の史料や歴史書などのうち、応用的なテキストを読み解き、時代の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、深い知識を習得している（専門的知識）。 2.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストを、正確に読み解くことができる（技能）。 3.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストについて、歴史学の方法論によって高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 4.日本史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる（関心・意欲・態度）。 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、ある程度知識を習得している（専門的知識）。 2.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストを、ある程度読み解くことができる（技能）。 3.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストについて、歴史学の方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 4.日本史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる（関心・意欲・態度）。 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
歴史文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	日本史の史料や歴史書などのうち、応用的なテキストを丹念に読み解き、時代と社会の理解を深める。	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、より深い知識を習得している（専門的知識）。 2.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストを、より正確に読み解くことができる（技能）。 3.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストについて、歴史学の方法論によってより高度な分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 4.日本史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる（関心・意欲・態度）。 5.他者と協力しながら、より主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）	1.日本史の史料や歴史書など応用的なテキストについて、知識を習得している（専門的知識）。 2.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストを、読み解くことができる（技能）。 3.日本史の史料や歴史書などの応用的なテキストについて、歴史学の方法論によって分析・考察ができ、研究発表・レポート作成を行うことができる（洞察力・分析力・論理的思考力）。 4.日本史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に積極的に臨むことができる（関心・意欲・態度）。 5.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）
地中海文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	文献、文物、事象の検討方法を具体例に例して身につけ、古今東西に及ぶ地中海文化の興行きと広がり、現代世界の成り立ちと構造について学ぶ。	1.地中海文化に関する文献、文物、事象について、具体的に、かつ正確に理解し、その特質について自分の言葉で説明することができる（専門的知識）。 2.地中海文化に関する文献、文物、事象を批判的に検討する能力を体得している（分析力・論理的思考力）。 3.地中海文化とグローバル化する世界の関係について、具体的な知識を踏まえつつ、自分の言葉で議論することができる（洞察力）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.地中海文化に関する文献、文物、事象について理解し、説明することができる（専門的知識）。 2.地中海文化に関する文献、文物、事象を検討する初歩的な能力を体得している（分析力・論理的思考力）。 3.地中海文化とグローバル化する世界の関係について理解し、説明することができる（洞察力）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
地中海文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	文献、文物、事象の検討を通して、古今東西に及ぶ地中海文化の興行きと広がり、現代世界の成り立ちと構造について理解を深める。	1.地中海文化に関する文献、文物、事象について、具体的に、また有機的に理解し、その特質について自分の言葉で説明することができる（専門的知識）。 2.地中海文化に関する文献、文物、事象を批判的に検討する能力を体得している（分析力・論理的思考力）。 3.地中海文化とグローバル化する世界の関係について、具体的な知識を踏まえつつ、自分の言葉で議論することができる（洞察力）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.地中海文化に関する文献、文物、事象について理解し、説明することができる（専門的知識）。 2.地中海文化に関する文献、文物、事象を検討する初歩的な能力を体得している（分析力・論理的思考力）。 3.地中海文化とグローバル化する世界の関係について理解し、説明することができる（洞察力）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
現代文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	現代文化のさまざまなありようを、特に「ポップカルチャー」をめぐって、グループワークで、文献、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1.現代文化について、文献や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる（専門的知識）。 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。（洞察力・分析力）。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.現代文化について、文献や資料を使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる（専門的知識）。 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。（洞察力・分析力）。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
現代文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	現代文化のさまざまなありようを、特に「ポップカルチャー」をめぐって、個人で、文献、資料、フィールドワーク、インタビューなどの手法を用いて探り、明らかにした内容を、わかりやすく伝達する形で表現する技術を身につける。	1.現代文化について、文献や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる（専門的知識）。 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。（洞察力・分析力）。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.現代文化について、文献や資料を正確に使いこなして知識を広げ、理解を深めることができる（専門的知識）。 2.みずから得た知識に基づいて、フィールドワークやインタビューなどの調査を適切に計画し、実行することができるようになる。（洞察力・分析力）。 3.映像などのメディアを通じて、自分が明らかにしたことをわかりやすく伝達することができるようになる（論理的思考力・リテラシー）。 4.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。
中国文化演習Ⅲ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	中国の代表的な文学作品に触れ、中国文化への理解を深めつつ、中国のことにとがらず、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身の考えをみなに伝える力を身につける。	1.中国文化のさまざまな特色をよく理解し、説明することができる。（専門的知識） 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを簡潔に示すことができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.中国文化のさまざまな特色を一定程度理解し、その要点を説明することができる。（専門的知識） 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一掃り示すことができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価）	単位取得目標（成績評価C）
中国文化演習Ⅳ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	中国の代表的な文学作品に触れ、中国文化への理解を深めた経験を生かしつつ、中国のことわざから、各自が興味を持つテーマに即した発表や話し合いを通して、自身の考えをみなに伝える力を身につける。	1.中国文化のさまざまな特色を十分理解し、説明することができる。（専門的知識） 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを筋道を立てて示すことができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる（主体的関与・リーダーシップ）。	1.中国文化のさまざまな特色を一定程度理解し、説明することができる。（専門的知識） 2.発表や質疑、またレポート作成の際に、自身の考えを一通り示すことができる。（洞察力・分析力・論理的思考力） 3.他者と協力しながら、主体的に取り組むことができる程度まで（主体的関与・リーダーシップ）。
メディア社会論A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	社会の高度情報化が進化するに伴い、情報操作・メディアスクラムによる報道操作・著作権やプライバシーの侵害・個人情報等の流出・不正アクセス等々、さまざまな倫理的問題や、匿名性を前提とした他者との匿名ネットワークコミュニティ（例えばWeiboなど）が生まれていることを理解し、考察する。特に現代のデジタルメディアであるコンピュータおよびその世界規模的ネットワークによってもたらされるさまざまな倫理的問題は、今後のモバイルネットワークやIoT社会の在り方を考える上でも重要であることを考察する。さまざまなメディアを横断し、法規という立場を見据えつつ、最終的にはそれを根拠づけている人間の基本的な倫理観・世界観を問い直し、社会をメディア論的に考える。	(1)テレコミュニケーションマルチメディアの歴史的展開を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (2)テレコミュニケーションマルチメディアの倫理的問題の所在を明らかにし、解説できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (3)著作権の問題を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (4)著作権の問題を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (5)プライバシーと個人情報保護の問題を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (6)現代のデジタルメディアであるコンピュータおよびその世界規模的ネットワークによってもたらされるさまざまな倫理的問題が、今後のモバイルネットワークやIoT社会の在り方を考える上で重要であることを分析し、考察する。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (7)さまざまなメディアを横断し、法規という立場を見据えつつ、最終的にはそれを根拠づけている人間の基本的な倫理観・世界観を問い直し、社会をメディア論的に考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	(1)テレコミュニケーションマルチメディアの歴史的展開を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (2)テレコミュニケーションマルチメディアの倫理的問題の所在を明らかにし、考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (3)著作権の問題を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (4)プライバシーと個人情報保護の問題を理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力）
メディア社会論B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	メディア技術の普及に伴い、人間の創造活動から結実する法文化は変容した。そこでこの変容を示す顕著な現象につき、大きく3点に準拠して学習する：(1)芸術作品を発信する側の表現の自由に関する問題、(2)発信された無形の文化的創造物をめぐる著作権に関する問題、そして、(3)映像メディアを使った法の可視化の問題である。青少年の健全な育成と著作権や大手出版社の表現の自由との衝突、情報セキュリティ強化の必要性に伴って変化するプライバシー権の侵害、などを学び、法システムの知識とメディア論理解をベースに法文化メディア論の理解を深める	(1)表現の自由に関する基礎的知識があり判例について説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） (2)発信された無形の文化的創造物をめぐる著作権に関する問題について基礎的知識があり判例について説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） (3)映像メディアによる法の可視化の問題について基礎的知識があり判例を説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力）(4)上記の法知識とメディア論理解をベースに法文化メディア論の深い考察ができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	(1)表現の自由に関する基礎的知識がある（専門的知識・分析力・論理的思考力） (2)発信された無形の文化的創造物をめぐる著作権に関する問題について説明できる（専門的知識・分析力・論理的思考力） (3)映像メディアによる法の可視化の問題について基礎的知識がある。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (4)上記の法知識とメディア論理解をベースに法文化メディア論の考察ができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
メディア産業論A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	IT化とグローバル化によって変化していく経済について考察する。今後の経済・社会がどこに向かうとしているのかを的確に把握し、更りゆく社会の中で自らの立ち位置を認識する能力を習得する。まず、グローバル経済の発展経緯と、国際政治の要請の中で成長してきたIT発達の経緯を理解し、次いで、IT化が経済・社会に及ぼす影響を考察、現時点で理解できるIT化の本質を明らかにする。また、その新しい社会概念の中で必要とされる人材とはどのようなものかを検討し、自らの在り方を考察する。	(1)IT化およびグローバル化とはいかなることか理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (2)IT化およびグローバル化によって変化していく経済について理解し、説明できる。（専門的知識・分析力・論理的思考力） (3)今後の経済・社会がどこに向かうとしているのかを的確に把握し、更りゆく社会の中で自らの立ち位置を認識し、分析することができる。（専門的知識・洞察力・分析力） (4)グローバル経済の発展経緯と、国際政治の要請の中で成長してきたIT発達の経緯を理解し、考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力） (5)IT化が経済・社会に及ぼす影響を分析し、考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力） (6)新しい社会概念の中で必要とされる人材とはどのようなものかを検討し、自らの在り方を考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	(1)IT化およびグローバル化とはいかなることか、最低限の理解をしている。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） (2)IT化およびグローバル化によって変化していく経済について最低限の理解をしている。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） (3)今後の経済・社会がどこに向かうとしているのかを最低限把握している。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (4)グローバル経済の発展経緯と、国際政治の要請の中で成長してきたIT発達の経緯を最低限理解している。（専門的知識・洞察力・分析力）
メディア産業論B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	インターネットの普及やネットワークに伴い、メディア産業は実業の途上にある。出版・放送・コンテンツ業界の専らとした。メディアの産業構造や仕組みを学ぶ。グローバルかつ複層的な視点で、各メディア産業の現状と未来について考察する。	(1)メディア産業としての出版・放送・コンテンツ業界について複合的な知識を有し、説明できる。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） (2)出版・放送・コンテンツ業界が社会に与える影響について理解し、説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (3)出版・放送・コンテンツ業界の未来について自ら思考し考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (4)グローバルかつ複層的な視点で出版・放送・コンテンツ業界について分析・考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	(1)メディア産業としての出版・放送・コンテンツ業界についての知識を有する。（専門的知識・洞察力・論理的思考力） (2)出版・放送・コンテンツ業界が社会に与える影響について最低限の理解をしている。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (3)出版・放送・コンテンツ業界の未来について他者の助けを得て考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） (4)グローバルかつ複層的な視点で出版・放送・コンテンツ業界について他者の助けを得て考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
メディア教育論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	そもそも教育とは何かから始め、教えられるものばかりといえない子どもたちの教育環境として歴史的な勢いで変遷する情報・メディア人間形成機能としての教育との関係、その問題状況を把握した上で、21世紀を生きる子どもにとらに肥大化するであろう情報・メディアとの関わりについての大人の責任について考える。また学校における「情報」教育で何が目指され、実際にどのような教育が行われているか、そこ何が付け、求められているのかを突きとめ、情報・メディアの活用を通して、着実な社会参画へ導き、支援するメディア教育の明日を展望する。	・教育の本質を理解する。（専門的知識・洞察力・分析力） ・伝統的学校教育の行き詰まりと打開策について考察する。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） ・学校のオールタナティブズとしてのメディアについて考察する。（専門的知識・洞察力・分析力） ・メディアリテラシー教育の必要性を認識する。（専門的知識・洞察力・分析力） ・教育におけるメディアの役割機能について確かな知識を身につける。（専門的知識・洞察力・分析力） ・メディア教育の実践的方法論を考察する。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） ・メディア教育についての的確な知見と実践態度を身につける。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	・教育の本質を理解する。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） ・伝統的学校教育の行き詰まりと打開策について他者の補助を得ながら考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） ・学校のオールタナティブズとしてのメディアについて他者の補助を得ながら考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力） ・メディアリテラシー教育の必要性を認識する。（専門的知識・洞察力・分析力） ・教育におけるメディアの役割機能について他者の補助を得ながら考察できる。（専門的知識・洞察力・分析力） ・メディア教育の実践的方法論を他者の補助を得ながら考察することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） ・メディア教育についての最低限の知見と実践態度を身につける。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
図書及び図書史	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	いずれ時代にも作られた図書にしろ図書史にしろ、その時代に生き生きとした人たちの要求を反映した社会的な産物であったことは言うまでもない。従って、それぞれの時代の社会体制の変化や文化の発達の歴史などと密接に関連付けて図書や図書史を考えたならば、本書の理解を得ることにはできない。図書をはじめとする情報の記録媒体と図書史の発展の過程を概観し、図書史の基本的な機能と社会的役割を考える。ヨーロッパおよびアメリカを中心に、近代の図書思想が成立してゆく過程を歴史的に謝り付けることにより、近代図書史が有している特有の思想や性格を知り理解を深めようという目的とする。	図書をはじめとするメディアの形態の歴史について網羅的に理解し、それを現代のメディアと対比させつつ他者に説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 印刷の歴史について網羅的に理解し、それを現代の印刷技術と対比させつつ他者に説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 図書の流通の歴史について網羅的に理解し、それを現代の流通（日本及び海外）と対比させつつ他者に説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 近代の図書思想の成立してゆく過程を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 図書史の持つ基本的機能と社会的役割の変遷について網羅的に理解し、それを現代の図書史と対比させつつ他者に説明できる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）	図書をはじめとするメディアの形態の歴史について最低限の説明ができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 印刷の歴史について最低限の説明ができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 図書の流通の歴史について最低限の説明ができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） 図書史の歴史をおよそ理解し、それを具体的に述べることができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
ジャーナリズム論	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	2	2	ジャーナリズムとは、新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどで時事的な問題を報道・解説・批評などを行う活動である。ジャーナリズムに近接する概念として、大衆への大衆的な情報伝達を意味するマスメッセージングやメディアを用いたコミュニケーションの在り方を意味するメディアコミュニケーションなどがある。こうしたことを前提として、本講義ではジャーナリズムをめぐる諸問題について、新聞、雑誌、テレビ、インターネットにおける報道、ルポルタージュ、ノンフィクションコミュニティ、フォトジャーナリズム、フェイクニュース、市民ジャーナリズム等について理解を深める。これらを通じて、ニュース報道に対するメディアリテラシーを正しく理解し、自ら思考し問題の所在を的確に判断する能力や、他者や異文化に対する共感と理解、グローバルな想像力をも身に付ける。	1.ジャーナリズムの機能や役割について理解し、総合的な説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 2.言論や表現の自由をめぐる諸問題やグローバルな社会問題について、現状を正しく把握し的確な説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 3.多様な社会や文化のあり方に十分な共感と理解をもって接することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 4.ニュース報道に対するメディアリテラシーを正しく理解し、自らの考えを適切な言葉や文章で表現することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5.一日に複数回、さまざまな種類のニュースに自発的に触れることができる。(専門的知識・洞察力・分析力)	1.ジャーナリズムの機能や役割について理解し、基本的な説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 2.言論や表現の自由をめぐる諸問題やグローバルな社会問題について、基本的な説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 3.多様な社会や文化のあり方に最低限の理解をもって接することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 4.ニュース報道に対するメディアリテラシーを最低限理解し、自らの考えを表現することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 5.一日一回、さまざまな種類のニュースに触れることができる。(専門的知識・洞察力・分析力)
メディア応用実習A	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	1	新聞制作の工程(記事の企画・執筆・取材・校正・レイアウト等)を実践的に学ぶ。新聞記事と雑誌記事の違い、プランケット判とタブロイド判の違い、アナログ版とデジタル版の表現構成上の違い等について比較考察しながら、新聞という媒体の特性を理解する。取材やインタビュー、資料収集、記事の執筆、校閲・校正、排版、刷込作業等体験し、その具体的な方法論を実践的に学ぶ。	1.新聞制作の全工程および専門用語に関して、総合的な知識を習得している。(リテラシー・専門的知識) 2.新聞制作の全工程に関して、専門的な技能を習得している。(専門的知識・洞察力) 3.新聞の版組に関する実践的技術を十分有している。(専門的知識・洞察力) 4.著作権・肖像権に関する正しい知識を有すると共にそれを実践できる。(専門的知識・洞察力) 5.取材依頼書を選択して作成することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 6.課題に対して他者と協同しながら、自発的に編集実務に取り進むことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 7.成果のプレゼンテーションができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 8.他者の発表を公平に評価できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.新聞制作の全工程に関して、基本的な知識を習得している。(リテラシー・専門的知識) 2.新聞制作の全工程に関して、基本的な技能を習得している。(専門的知識・洞察力) 3.新聞の版組に関する実践的技術を十分有している。(専門的知識・洞察力) 4.著作権・肖像権に関する基本的な知識を有する。(専門的知識・洞察力) 5.取材依頼書を作成することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 6.課題に対して他者と協同しながら、編集実務に取り進むことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 7.成果のプレゼンテーションができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 8.他者の発表を評価できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア応用実習B	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	1	図書制作の一連の工程(体の企画・執筆・取材・紙面レイアウト・編集・製本等)を実践的に学ぶ。自ら企画制作した本を、ワークショップを通して一冊のハードカバー本に完成させる。本が実際にどのような編集・制作されているのか理解し、身近な書籍や雑誌、Webサイトにおける編集技術の実例を参考にしながら、各メディアに適した発想力・表現力、そして編集力をも身に付ける。	1.図書制作の全工程および専門用語に関して、総合的な知識を習得している。(リテラシー・専門的知識) 2.図書制作の全工程に関して、専門的な技能を習得している。(専門的知識・洞察力) 3.図書編集に関する実践的技術を十分有している。(専門的知識・洞察力) 4.著作権・肖像権に関する正しい知識を有すると共にそれを実践できる。(専門的知識・洞察力) 5.取材依頼書を選択して作成することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 6.課題に対して他者と協同しながら、自発的に編集実務に取り進むことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 7.成果のプレゼンテーションができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 8.他者の発表を公平に評価できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	1.図書制作の全工程および専門用語に関して、基本的な知識を習得している。(リテラシー・専門的知識) 2.図書制作の全工程に関して、基本的な技能を習得している。(専門的知識・洞察力) 3.図書編集に関する実践的技術を最低限有している。(専門的知識・洞察力) 4.著作権・肖像権に関する基本的な知識を有すると共にそれを実践できる。(専門的知識・洞察力) 5.取材依頼書を作成することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 6.課題に対して他者と協同しながら、基本的な編集実務に取り進むことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 7.成果のプレゼンテーションが最低限できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 8.他者の発表を評価できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア応用実習C	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	1	「メディア文化論C/広告コミュニケーション論」履修者を想定した演習科目である。広告の役割や手法を学びながら、広告制作の実務を試みる。具体的な制作作業はコンピュータにも依存することになるが、さまざまな新聞広告・雑誌広告・ポスター広告・映像広告・ネット広告等々の現状を分析し、まずは各種種類のコンピュータソフトを使って新聞・雑誌媒体用広告を可能な程度まで制作し、合評する。次いで、具体的な掲載案をもとに、映像広告を可能なところまで仕上げ、最終的にはサイバー空間における広告の在り方なども模索する。	(1) 広告の役割や手法を学びながら、広告制作の実務を試みることで、各自が取り上げたテーマ(商品)を分析・考察することができる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力) (2) 広告計画の独創的な企画案を行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3) 実際に独創的な広告作品の制作、わかりやすく簡潔な発表までを行えるようになる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1) 広告の役割や手法を学びながら、広告制作の実務を試みることで、各自が取り上げたテーマ(商品)を分析・考察することができる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力) (2) 広告計画の最低限の企画案を行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (3) 実際に広告作品の制作、発表までを行えるようになる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア応用実習D	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	1	本実習では、具体的なコンテンツを組み込みながら雑誌制作を体験する。従来の紙媒体による雑誌とWeb版の違い、既存雑誌における読者のセグメント化やクォーターに注目しながら、履修者自らが雑誌の企画・編集・レイアウト・画像処理等々の制作工程を実践的に学ぶ。雑誌制作を通じ、多様な形態の情報を発信する術を身に付けること、自ら思考・企画したことを創造的に表現し、相手に適切に伝えるコミュニケーション力を養うこと、色彩・レイアウトなどのデザイン力を高めることに努め、マルチメディア編集技術と知識の習得を目標とする。	(1) 雑誌の特色を考察し、ターゲットにふさわしい雑誌の企画立案ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2) 雑誌制作の基礎をマスターし、編集技術の基本とその応用が習得できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力) (3) 履修者同士の作品発表をみて、オリジナルなアイデアを評価したり、批判的な検証を行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1) 雑誌の特色を考察し、雑誌の企画立案ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2) 雑誌制作の基礎をマスターし、編集技術の基本を習得できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力) (3) 履修者同士の作品発表をみて評価したり、検証を行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)
メディア応用実習E	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	1	シナリオ制作、撮影、録音、と言った素材収集の技術、カットバック、モンタージュ、カットつなぎ、時間操作などの編集技術、デジタルやデータベース化などのアーカイブ技術、そして、作品を公表するための表出技術、最新のなフェーズごとに実践的に学ぶ。同時に、グループワークを基本とし、ワークフロー上の責任と他者とのコミュニケーションスキルも同時に学ぶ。映像制作プロセスを学ぶと同時に、グループ内での役割分担の構築と状況に即応した学習の契機を、身体的に獲得することが目標である。	(1) シナリオを提案しグループでわかりやすいストーリーボードを制作することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2) 十分な素材収集を行うことができる。(リテラシー) (3) 適切なカットを選択して編集することができる。(専門的知識・洞察力) (4) アーカイブ、ソーシャルネットワークなどの技術の基本を把握することができるようになる。(専門的知識・洞察力) (5) 協働を通してワークフロー上の責任と他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)	(1) シナリオを提案しグループでストーリーボードを制作することができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) (2) 素材収集を行うことができる。(リテラシー) (3) 最低限の編集をすることができる。(専門的知識・洞察力) (4) アーカイブ、ソーシャルネットワークなどの技術の基本を把握できるように。(専門的知識・洞察力) (5) 協働を通してワークフロー上の責任と他者とのコミュニケーションを行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)

科目名称	科目区分	記号	年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位取得目標（成績評価C）
コンピュータネットワーク実習	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1		<p>自宅からのパソコンやタブレット、スマホやルータなどのネットワーク機器を履修者自身の手によって実際に接続し、コンピュータネットワークを作り上げる。さらにそのうちの1台にサーバコンピュータとしての役割を持たせ、Webサーバや電子メールサーバなどのプログラムをインストールし、Webページの電子メールのサービスを行い、それをその他のパソコンから使用する。また、ネットワーク上にはデータがどのように流れているのか、管理用ソフトウェアを使用し観察する。</p>	<p>コンピュータネットワークの構成とサーバおよびクライアントの動きについて体系的に理解し、それを他者に説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 他者からのコンピュータネットワーク構築要件を整理し、自らの知識を適用して最適なコンピュータネットワークを構築できる。(専門的知識・洞察力) 各種サーバソフトウェアをインストールし、自らの知識を適用して適切に運用することができる。(専門的知識・洞察力) コンピュータネットワークの不具合の原因を特定し、それに対処することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 他の履修者との協同ネットワーク構築に積極的に参加する。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)</p>	<p>コンピュータネットワークの構成とサーバおよびクライアントの動きについて最低限の説明ができる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 他者から指示されたとおりコンピュータネットワークを構築できる。(専門的知識・洞察力) 他者から指示されたとおり各種サーバソフトウェアをインストールし、指示されたとおり運用することができる。(専門的知識・洞察力) 他者から指示された「コンピュータネットワークの不具合への対処方法」を実行することができる。(専門的知識・洞察力)</p>
情報システム実習	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1		<p>情報システムを設計し開発し管理をするという一連の流れを実践することにより、情報システムがどのように作られ運用されるのかを学ぶ。具体的には、インタラクティブなWebサイト(利用者が内容を見ただけでなく操作を行うWebサイト、例えばネット通販サイトや図書館資料検索サイトなど)を設計し、それをプログラムを作成することにより開発し、実際に運用して問題の発生等を行う。具体的には、サーバにて実行されるプログラムの開発、プログラムによるデータベースへのアクセス、データベース管理、ユーザインタフェースの設計と開発などを行う。</p>	<p>情報システムがどのように作られ管理されるのかについて体系的に理解し、それを他者に説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) インタラクティブなWebサイトのサーバプログラムを作成するためのプログラミング方法を理解し、応用的なプログラム開発ができる。(専門的知識・洞察力) データベース操作言語を深く理解し、応用的なデータベースアクセスができる。(専門的知識・洞察力) HTMLによるユーザインタフェース作成方法を深く理解し、自ら考えユーザインタフェースを設計し開発できる。(専門的知識・洞察力) 獲得した技能に関して、他者にアドバイスできる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力)</p>	<p>情報システムがどのように作られ管理されるのかについて最低限の説明ができる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) インタラクティブなWebサイトのサーバプログラムを作成するためのプログラミング方法の基礎を理解し、与えられた簡単なサーバプログラム開発ができる。(専門的知識・洞察力) データベース操作言語の基礎を理解し、与えられた簡単なデータベースアクセスの問題を解くことができる。(専門的知識・洞察力) HTMLによるユーザインタフェース作成方法を理解し、与えられたユーザインタフェース設計に基づいたユーザインタフェース開発ができる。(専門的知識・洞察力・分析力)</p>
情報検索実習	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1		<p>図書館における情報検索を中心として、コンピュータシステムを用いた情報検索の理論と実際について学ぶことにより「よい情報検索」ができるようになることを目標とする。雑誌記事・新聞記事・論文・WWW等を検索しながら、情報検索の意義と目的、情報検索に必要なもの、短時間で正確に情報検索を行う方法を学ぶ。このような実践を行いながら、情報検索システムの種類と選択、検索戦略の立て方、検索結果や情報検索システムの評価、代行業者の検索訓練法、索引語・シソーラス・件名標目表の役割を理論的に学ぶ。</p>	<p>コンピュータを用いた情報検索を行うためのデータベースの選択の方法を深く理解し、それを他者に説明できる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 様々な情報検索システムの検索方法と構想し、応用的な情報検索を行うことができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) 新聞記事、図書、論文などの資料を情報検索システムによって検索することの意義と利点を体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) シソーラス・件名標目表のしくみと役割を深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) シソーラス・件名標目表の使用法を深く理解し、応用的な検索に役立てることができる。(専門的知識・洞察力・分析力)</p>	<p>コンピュータを用いた情報検索を行うためのデータベースの選択の方法についての最低限の説明ができる。(リテラシー・専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) いくつかの情報検索システムの検索方法を理解し、基礎的な情報検索を行うことができる。(専門的知識・洞察力) 新聞記事、図書、論文などの資料を情報検索システムによって検索することの意義と利点について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) シソーラス・件名標目表のしくみと役割について最低限の説明ができる。(専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力) シソーラス・件名標目表の使用法を理解し、基礎的な検索のために使用できる。(専門的知識・洞察力) 検索結果の評価方法の基礎を理解し、それを実践することによる総合的な判断の素となる数値を得ることができる。(専門的知識・洞察力)</p>
文芸メディア演習 AⅡ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1		<p>メディアと市民社会・メディアとツーリズム・映像メディアを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理、映像制作を行うこともある。それらを通じて、卒業に向けた自らのテーマを探し、研究活動を行うための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念を盾に向け、検討資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.実験コンテンツをめぐる社会の在り方について深くかつわかりやすく説明することができる(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>	<p>1.決められたテーマに関する最低限の検索方法を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.実験コンテンツをめぐる社会の在り方についておおよそ説明できる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができることととも、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 AⅢ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1		<p>メディアと市民社会・メディアとツーリズム・映像メディアを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理、映像制作を行うこともある。それらを通じて、卒業に向けた自らのテーマを探し、研究活動を行うための応用的な技術や知識を身につける。</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念を盾に向け、検討資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.実験コンテンツをめぐる社会の在り方について深くかつわかりやすく説明することができる(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>	<p>1.決められたテーマに関するある程度の検索方法を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において複数回の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.実験コンテンツをめぐる社会の在り方について説明できる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>
文芸メディア演習 BⅡ	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1		<p>出版文化・メディア文化論・ジャーナリズム論を中心に輪読やグループディスカッショングループワークあるいは個人発表を通して、社会学的方法論の基礎を学ぶ。関連文献や出版物、映像資料、統計資料等を図書館やWebにて適切に検索し、それらを用いて客観的に考察分析を行い、レポートや論文につながる研究計画を論文とまとめられる力を養う。資料文庫調査はもろろん 切と必要に応じてアンケートやインタビュー等の社会調査、画像分析、記号論を用いた実験などを行う。学習の学びや発表を通して、卒業論文テーマを探索し、卒業論文執筆と研究活動を遂行するための基礎的な技術や知識を身につける。</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念を盾に向け、検討資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを習得し、それらを自身の対象テーマへ適切に活用することができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>	<p>1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表をもとにしたレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組を最低限習得し、他者の助けのもとでそれらを自身の対象テーマへ適用することができる。(専門的知識) 8.他者との協働がある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)</p>

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
文芸メディア演習 BI	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	出版文化・メディア文化論・ジャーナリズム論を中心に、編集やグループディスカッション・ワークショップ、あるいは個人発表を通して、批評的な方法論を実践的に学ぶ。関連文献や出版物、映像資料、統計資料等を図書館やWebにて適切に検索し、それらを用いて実践的に考察分析を行い、レポートや原稿に繋がる研究計画を論文にまとめあげる力を養う。資料文献調査はもちろんのこと、必要に応じてアンケートやインタビュー等の社会調査、質的分析、記号論を用いた映像分析などを行う。演習での学びや活動を通して卒業論文のテーマを探索し、卒業論文執筆と研究活動を進めるための複数の実践的な技術や知識を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを十分に習得し、それらを自身の対象テーマへ適切に運用することができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを適切に習得し、それらを自身の対象テーマへ運用することができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 CIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	視聴情報処理・メディアと教育・情報科学を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。また、必要に応じて、本学の1・2・4年生や大学院生および他大学の大学院生や博士の研究会や研究会発表会を通じて卒業論文のテーマを探索機会を設ける。以上の活動を通じて、卒業論文執筆のための基礎的な技術や知識を身につける。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) ・入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・自らテーマを設定し調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・自ら研究したいテーマを見出し卒業論文の研究計画書を完成できる(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) ・入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) ・自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・自らテーマを設定し調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・自ら研究したいテーマを見出し卒業論文の研究計画書を完成できる(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 CIV	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	かつてSFで登場した立体映像や複合現実などの先陣ICT機器を活用し、未来の社会・文化・芸術・教育などを考察検証すると共に、まだ現れ無い先陣メディアの創造を目指す。本科目では、前期に設定した個人または取外共同グループによる研究計画や作品制作を、卒業研究・卒業制作として本格的に着手するほか、前期の活動をもとに新たに策定した計画に従って卒業研究・卒業制作に着手する(なお、本科目が終了するまでの期間は、相談の上、卒業研究・卒業制作のテーマ変更を認める)。また、必要に応じて、本学の1・3・4年生や大学院生および他大学の大学院生や博士との研究会や研究会発表会を通じて、卒業論文のテーマを探索機会を設ける。以上の活動を通じて卒業研究・卒業制作を開始することを目標とする。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らテーマを設定し、授業で得た経験を活かした調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らテーマを設定し調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 8.他者の助けを得ながら研究したいテーマを見出し卒業論文の研究計画書を完成できる(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 9.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 DIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	デジタル時代におけるメディア産業・コンテンツ流通・メディアリテラシーを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。それらを通じて、卒業論文のテーマを探索し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための基礎的な技術や知識を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らテーマを設定し適切な学術的視点を持ちながら調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する最低限の検索方法を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手もとの懸念を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.他者の助けを得ながらテーマを設定し、調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 DIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	デジタル時代におけるメディア産業・コンテンツ流通・メディアリテラシーを中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。それらを通じて、卒業論文のテーマを探索し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための実践的な技術や知識を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らテーマを設定し適切な学術的視点を持ちながら調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する最低限の検索方法を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手もとの懸念を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.授業で学んだ内容を最低限踏まえたテーマを設定し、調査研究または作品制作が行える(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 EIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	音楽メディア・SNS・放送・電子書籍を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ処理を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探索し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための基礎的な技術や知識を身につける。	決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 入手した資料をもとに、考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 自らの意見を他者に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 懸念に際し、検閲資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 研究対象物を中心とする様々な事柄について深く説明できる。(専門的知識) 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	決められたテーマに関する基本的な資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 入手した資料をもとに、考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 自らの意見を他者に伝えるための資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 手もとの懸念を見ながら、また、検閲資料を指し示しながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 他者の発表についての意見交換に参加し、発言ができる。(主体的関与) 授業で行われた発表をもとにして、最低限の内容が書かれているレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 研究対象物を中心とする様々な事柄について最低限の説明ができる。(専門的知識) 他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度とともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記号年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
文芸メディア演習 EIV	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	音楽メディア・SNS・放送・電子書籍を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ収録を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための実践的な技術や知識を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に備へ、執筆資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.授業で得た経験を踏まえ、研究対象物を中心とする様々な事象について深く説明できる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する基本的な資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を分かりやすく他者に伝えるための資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において、最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの研究テーマについてレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らのテーマ設定に必要な情報を収集し、研究計画の立案や研究目的に応じた調査・分析方法について考え、その有用性を検証することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 FIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	本授業では、身体表現、身体姿勢、対人コミュニケーション、運動・スポーツ、心身の健康など、「身体」と「こころ」に関連するテーマについて実践的に学び、幅広い知識や考察の視点を身につけることを目指す。メディアにまつわる基礎知識を基に、現代社会における様々な事象や現象について心理学的観点から考察していく。レポート課題やグループワークを通して、図書館やWeb上での文献・資料を適切に収集し、調べた内容や自身の考えを文章及び口頭で論議のついでに発表する力を習得する。また、研究テーマについての多面的な理解を目的とし、他学部や他大生との研究発表や学術的相互学習の機会を設け、他学部や他大生との研究発表や学術的相互学習の機会を設け、積極的に自らの考えを共有する態度やスキルを養うことを目指す。受講生は、卒業論文のテーマを探し、その意義、独自性や斬新性を見出すための先行研究の知見収集を行う。場合によっては実験やデータ収録を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための実践的な技術や知識を身につける。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) ・入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) ・自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・懸念に備へ、執筆資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) ・授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する基本的な文獻や関連文獻を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を分かりやすく他者に伝えるための資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において、最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの研究テーマについて、適切な参考文献を引用したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らのテーマ設定に必要な情報を収集し、研究計画の立案や研究目的に応じた調査・分析方法について考え、その有用性を検証することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 FIV	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	本授業では、身体表現、身体姿勢、対人コミュニケーション、運動・スポーツ、心身の健康など、「身体」と「こころ」に関連するテーマについて実践的に学び、幅広い知識や考察の視点を身につけることを目指す。メディアにまつわる基礎知識を基に、現代社会における様々な事象や現象について心理学的観点から考察していく。レポート課題やグループワークを通して、図書館やWeb上での文献・資料を適切かつ発展的に収集し、調べた内容や自身の考えを文章及び口頭で論議のついでに発表する力を習得する。また、研究テーマについての多面的な理解を目的とし、他学部や他大生との研究発表や学術的相互学習の機会を設け、他学部や他大生との研究発表や学術的相互学習の機会を設け、積極的に自らの考えを共有する態度やスキルを養うことを目指す。受講生は、卒業論文のテーマを探し、その意義、独自性や斬新性を見出すための先行研究の知見収集を行う。場合によっては実験やデータ収録を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための実践的な技術や知識を身につける。	・決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) ・入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) ・自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・懸念に備へ、執筆資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) ・他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) ・授業で得た経験を踏まえつつ、授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) ・他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する基本的な文獻や関連文獻を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を分かりやすく他者に伝えるための資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において、最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの研究テーマについて、適切な参考文献を引用したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.自らのテーマ設定に必要な情報を収集し、研究計画の立案や研究目的に応じた調査・分析方法について考え、その有用性を検証することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 GIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	雑誌・図書・児童向けコンテンツ・図鑑を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ収録を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための実践的な技術や知識を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に備へ、執筆資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.児童・少年少女向けメディアやそれにかかわる事象について深く説明できる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する基本的な資料を図書館やWebにて獲得することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.手元の原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 5.他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.自らの発表についてのレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.児童・少年少女向けメディアやそれにかかわる事象について最低限の説明ができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
文芸メディア演習 GIII	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	雑誌・図書・児童向けコンテンツ・図鑑を中心とした話題について、関連資料を図書館やWebにて適切に検索し入手し、それをもとに考察を行い、考えをまとめたレポートを作成し、発表や他の履修者との意見交換を行う。場合によっては実験やデータ収録を行うこともある。それらを通じて、卒業論文のテーマを探し、また、卒業論文執筆のための研究活動を行うための実践的な技術や知識を身につける。	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて適切かつ効率的に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、深い考察を行い、自らの有効な意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に正確に伝えるための適切な資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.懸念に備へ、執筆資料を指し示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に積極的に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行われた発表を総合したレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.児童・少年少女向けメディアやそれにかかわる事象について深く説明できる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する最低限の資料を図書館やWebにて検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための最低限の資料を作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.用いた原稿を見ながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換において最低限の発言ができる。(主体的関与) 6.授業で扱った内容に関する最低限の内容が書かれたレポートを作成できる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを最低限習得し、他者の助けのもとでそれを自身の対象テーマへ適用することができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に取り組むことができる程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
文芸メディア演習HⅡV	文芸学部 専門分野Ⅱ	3	1	「メディアとジェンダー」を中心的なテーマとして位置づけ、ライフスタイルやマンガ、アニメ、ファッションメディア、映像作品などのデジタル文化やメディア現象を主な対象とし、個別的かつ複眼的な視点で研究を行う方を身につける。卒業論文のテーマへの知識・問題意識を深め、問題意識や研究対象に適した手法を用いた論文を書く方法を実践的に学ぶ。研究計画や進捗状況の発表を促す意見交換、ピアレビューなどのグループワークを実施し、リーダーシップや協働を実践しながら共同作業を行い、実社会で役立つスキルを伸ばす。	1.決められたテーマに関する複数の資料を図書館やWebにて適切に検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに深い考察を行い、自らの有効な意見を持ち、示すことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者にわかりやすく伝えるための工夫を取り入れた資料を作成することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.題名を削ぎ、検字資料を指示しながらわかりやすく口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 5.他者の発表についての意見交換に参加し、有効な発言ができる。(主体的関与) 6.授業で行った発表や自身の研究の進捗を反照し、定められた形式に則った卒業論文計画書を作成することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを習得し、それらを自身の卒業論文で取り扱うテーマへ適切に適用することができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に演習や課題に取り組むことができるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な総合的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)	1.決められたテーマに関する資料を図書館やWebにて検索し入手することができる。(専門的知識・洞察力) 2.入手した資料をもとに、考察を行い、自らの意見を持つことができる。(専門的知識・洞察力・分析力) 3.自らの意見を他者に伝えるための資料を作成することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 4.検字資料を指示しながら口頭発表することができる。(専門的知識・洞察力・論理的思考力) 5.他者の発表についての意見交換に参加し、発言ができる。(主体的関与) 6.定められた形式に則った卒業論文計画書を作成することができる。(洞察力・分析力・論理的思考力) 7.メディア文化の専門知識と分析枠組みを最低限習得し、他者の助けのもとでそれらを自身の対象テーマへ適用することができる。(専門的知識) 8.他者と協働しながら、主体的に演習や課題に取り組むことがある程度できるとともに、リーダーシップを発揮するために必要な基礎的な能力と態度を身につけている。(主体的関与・リーダーシップ)
卒業論文・卒業制作	文芸学部 専門分野Ⅱ	4	6	卒業論文・卒業制作ゼミナールを参照すること。	1. 卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、十分に実践できるようになる。(専門的知識・分析力) 2. 規定に則り、諸形式を十分に遵守した上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。(専門的知識・分析力・洞察力・論理的思考力) 3. 卒業論文・卒業制作の提出準備を通じ、主体的に取り組むことができ、独自の創意と論議を十分に示すことができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ)	1. 卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、ある程度実践できるようになる。(専門的知識・分析力) 2. 規定と諸形式がある程度守った上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。(専門的知識・分析力・洞察力・論理的思考力) 3. 卒業論文・卒業制作の提出準備を通じ、ある程度主体的に取り組むことができ、独自の創意と成果がある程度示すことができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ)
卒業論文・卒業制作ゼミナール	文芸学部 専門分野Ⅱ	4	2	この授業では、卒業論文執筆のための指導が行われる。論文執筆に際しての、基本的な事項、方法、手順、調査方法について、個々の学生の研究対象に即して指導がなされる。卒業制作についても、執筆または制作の心構え、準備、方法について、指導が行われる。いずれの場合も執筆・作成の過程で随時指導・助言がなされる。卒業論文・制作がどれだけ充実したものになるかは、この授業への（授業までの準備の）取り組みにかかっているため、積極的に参加することが求められる。	1. 卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、十分に実践できるようになる。(専門的知識・分析力) 2. 規定に則り、諸形式を十分に遵守した上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。(専門的知識・分析力・洞察力・論理的思考力) 3. 卒業論文・卒業制作の提出準備を通じ、主体的に取り組むことができ、独自の創意と論議を十分に示すことができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ)	1. 卒業論文・作品の執筆または制作の方法を理解し、ある程度実践できるようになる。(専門的知識・分析力) 2. 規定と諸形式がある程度守った上で、卒業論文・卒業制作の準備を進めることができる。(専門的知識・分析力・洞察力・論理的思考力) 3. 卒業論文・卒業制作の提出準備を通じ、ある程度主体的に取り組むことができ、独自の創意と成果がある程度示すことができる。(論理的思考力・主体的関与・リーダーシップ)
図書館制度・経営論	文芸学部 その他資格関連科目	2	2	科目に含まれる「制度」とは各種法規を意味する。図書館に直接あるいは間接的に関係する法規(憲法・法律・政令・省令・通達・条例等)を学び、さらには宣言や申し合わせ等にも視野を広げる。その上で、社会的機関としての図書館経営とは何かを考え、利用者に対する図書館サービスを提供するためには、図書館をどのように組織し、管理・運営しているらうかを、すなわち「図書館経営」を検討する。また、図書館経営には、国や自治体の行政・財政・組織、サービス計画・評価、経営管理、施設・設備などに関わる業務、すなわち利用者に対する直接的なサービス活動が効果的に行えるようするための諸業務が含まれる。図書館の経営・管理面に関する基本的な知識を学ぶ。	図書館に関する各種法規を体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 図書館経営の在り方の理論を体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 図書館経営の実態を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 今日の図書館経営における課題を指摘し、それを他者に説明できる。(専門的知識)	図書館に関する各種法規について最低限の説明ができる。(専門的知識) 図書館経営の在り方の理論について最低限の説明ができる。(専門的知識) 図書館経営の実態について最低限の説明ができる。(専門的知識) 今日の図書館経営における課題について最低限の説明ができる。(専門的知識)
図書館情報技術論	文芸学部 その他資格関連科目	3	2	図書館業務に必要な基礎的な情報技術、すなわち、コンピュータ、ネットワーク、検索エンジン、データベース、図書館情報システム(図書館業務システム)、デジタル図書館、デジタルアーカイブ、電子書籍などについて解説する。また、コンピュータやネットワークが図書館のみならず社会全体にどのような意思をもたらすのかについて述べる。	以下の事柄について深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) * コンピュータ、周辺機器、およびコンピュータネットワークのしくみと利用方法 * 文字・画像・音声・動画のデジタル化の方法 * 図書館情報システムの導入意義と各機能 * データベースの役割と各機能 * デジタルアーカイブ、およびそのネットワーク経由での公開 * 電子文書や電子書籍 * デジタル図書館およびその実例	以下の事柄について最低限の説明ができる。(専門的知識) * コンピュータ、周辺機器、およびコンピュータネットワークのしくみと利用方法 * 文字・画像・音声・動画のデジタル化の方法 * 図書館情報システムの導入意義と各機能 * データベースの役割と各機能 * デジタルアーカイブ、およびそのネットワーク経由での公開 * 電子文書や電子書籍 * デジタル図書館およびその実例
図書館サービス概論	文芸学部 その他資格関連科目	2	2	公共図書館を中心に、図書館サービスの意義と具体的な活動内容を検討する。サービスの構造、サービスの種類と方法、利用者層別のサービス、サービスの現状を理解し、今後、公共図書館にどのようなサービスが求められるかを考える。図書館が提供しているサービスについて、様々な観点から捉え考察する。さらに、現代の情報化社会において、図書館がどのようなサービスを展開していくべきかを検討する。	図書館サービスの種類と方法について体系的かつ網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) それぞれの図書館サービスの意義を深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 利用者の属性(年齢層等)に対応した図書館サービスについて深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 情報化社会に対応するための図書館サービスについて網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識)	図書館サービスの種類と方法について最低限の説明ができる。(専門的知識) それぞれの図書館サービスの意義について最低限の説明ができる。(専門的知識) 利用者の属性(年齢層等)に対応した図書館サービスについて最低限の説明ができる。(専門的知識) 情報化社会に対応するための図書館サービスについて最低限の説明ができる。(専門的知識)
情報サービス論	文芸学部 その他資格関連科目	3	2	現代社会における情報サービスの意義を明らかにし、情報サービスの種類と機能、情報提供プロセス、サービスの基礎となる情報源、図書館利用教育、情報社会における情報サービスの新たな展開を探りながら、新たな情報ニーズに対する伸張的なサービスなどについて総合的に解説する。情報サービスの理論とサービス方法について学習し、サービスの基本を理解する。図書館における情報サービスの意義と種類、印刷資料・電子資料など各種情報源の種類と構築、サービスの流れ、組織と担当者など情報サービスを総合的に考察し、情報サービスの内容と方法に関する基本的知識を身に付ける。	情報サービスの種類と機能について体系的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) レファレンスサービスの方法と意義を深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) レファレンスサービスに使用される種々の情報源について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識) 図書館利用教育の必要性と方法について深く理解し、それを他者に説明できる。(専門的知識)	情報サービスの種類と機能について最低限の説明ができる。(専門的知識) レファレンスサービスの方法と意義について最低限の説明ができる。(専門的知識) レファレンスサービスに使用される種々の情報源について最低限の説明ができる。(専門的知識) 図書館利用教育の必要性と方法について最低限の説明ができる。(専門的知識)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
児童サービス論	文芸学部 その他資格 関連科目	3	2	児童サービスの目的は、図書館に所蔵している図書資料を媒介とし、子どもたちに本を読む面白さや楽しさを知ってもらい、自発的に読書をする習慣を身に付けさせ、本を読むことによる思考や創造性を高め、豊かな人間性をもつ大人へと成長することを、児童から提供してゆくことにある。児童への援助をより適切に行うためには、子どもたちの読書欲・読書興味の発達段階に即応した指導の方法と、媒介となる適切な読書資料についての基本的知識が必須となる。読書指導の意義、児童資料の選択、児童を対象とした各種サービス、児童図書館の運営などについて解説し、児童サービスへの理解を深めてもらうことを目的とする。	子どもの読書の意義と重要性について深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 公共図書館の児童サービスの役割と意義について深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 子どもと本を結びつけるために必要な知識と技術を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 発達段階に応じた読書資料の選択について深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 近年の子ども読書環境の変化について自ら学び、児童サービスと児童図書館職員の在り方を積極的に考えられるようになる。（専門的知識・主体的関与）	子どもの読書の意義と重要性について最低限の説明ができる。（専門的知識） 公共図書館の児童サービスの役割と意義について最低限の説明ができる。（専門的知識） 子どもと本を結びつけるために必要な知識と技術について最低限の説明ができる。（専門的知識） 発達段階に応じた読書資料の選択について最低限の説明ができる。（専門的知識）
情報サービス演習	文芸学部 その他資格 関連科目	3	1	情報や文庫の探索能力を身につけるため、レファレンスツールを用いた探索方法を体験することを目標とする。従来から利用されている主要な参考図書や各種情報資源の調査と評価、質問の受付から回答のプロセスの学習などにより、レファレンスサービスの基本を理解することを目的とする。加えて、新しいレファレンス情報資源であるネットワーク上に存在する情報資源の調査、評価、活用についても学ぶ。演習問題の解説を通して、質問の受付から回答までの実際の業務を体験することで、実践的なレファレンスサービスの方法や技術の習得とプロセスの理解を目指す。具体的には、参考図書やその他のレファレンス情報資源の評価、それらを用いたレファレンス質問への回答技法、レファレンス記録の作成などについて学ぶ。併せてインターネット上の情報資源の基礎的な活用も演習する。さらにレファレンス・サービスの現状と課題についても検討する。	基本的なレファレンスツールの使用に習熟し、それらを難易度の高いレファレンスサービスへ自ら考えようとすることができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 基本的なレファレンスツールに加え、応用的なレファレンスツールを使用することができる。（専門的知識・洞察力・分析力） 利用者の情報要求を引き出すにあたり、自ら考えて方法（レファレンスインタビュ等）を適用することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） レファレンスサービスの結果を自らの考えで、また、自ら方法を選んで、わかりやすく回答することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） レファレンス情報資源の評価を行うことができる。（専門的知識・洞察力・分析力）	基本的なレファレンスツールを、難易度の低いレファレンスサービスへ指示通りに適用することができる。（専門的知識） 基本的なレファレンスツールに加え、応用的なレファレンスツールの名称を調べる方法を知っている。（専門的知識） 利用者の情報要求を引き出すにあたり、指示された方法で行うことができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力） レファレンスサービスの結果を指示された方法で回答することができる。（専門的知識・洞察力・分析力・論理的思考力）
図書館情報資源概論	文芸学部 その他資格 関連科目	3	2	図書館サービスを成り立たせる最も重要な要素は図書館情報資源である。図書館にとってなくてはならない代表的な情報資源として図書があるが、図書以外にも様々なメディアが図書館のコレクションを構成している。図書館員にとって情報資源に関する知識は必須である。これら図書館のコレクションを構成する多様な情報資源の収集とコレクションの構築と維持・管理、さらには出版流通に関する基本的な知識の修得を狙いとする。まず図書館情報資源とはなにかについて述べたうえで、図書や雑誌といった印刷資料や、マイクロ資料、電子資料、ネットワーク情報資源など様々な情報資源の性質や、図書館の情報資源の全体像を把握する。次いで、情報資源の選択と収集、維持・管理、評価と活用の実践について解説する。併せて図書館情報資源に関わる重要なトピックとして、出版流通の現状、「図書館の自由」、著作権などの問題を取り上げる。	図書や雑誌、新聞といった印刷情報資源の特徴や扱い方を深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 視聴覚情報資源の特徴や扱い方を深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） ネットワーク情報資源の特徴や扱い方を深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） コレクション形成の理論を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 出版流通の現状を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 図書館情報資源に関わる法規や倫理的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識）	図書や雑誌、新聞といった印刷情報資源の特徴や扱い方について理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識） 視聴覚情報資源の特徴や扱い方について理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識） ネットワーク情報資源の特徴や扱い方について理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識） コレクション形成の理論について理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識） 出版流通の現状について理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識） 専門分野分野ごとの情報生産・流通の特徴を理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識）
情報資源組織論	文芸学部 その他資格 関連科目	2	2	図書館が扱う情報資源にアクセスする手段として一般的に用いられる「記述目録法」と「主題目録法」を中心に、情報資源の組織化に関する理論と実践について学ぶ。近年伸びる情報資源の組織化についてその基礎を習得したうえで、インターネット上の情報資源のメタデータ化の基礎についても学ぶ。	目録法に基づく目録記入（目録レコード）作成および目録編成の方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 分類法に基づく分類作業の方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 目録と分類記号による情報資源検索の方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 目録項目表に基づく件名作業の方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） ネットワーク情報資源のメタデータ作成の方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識）	目録法に基づく目録記入（目録レコード）作成および目録編成の方法について最低限の説明ができる。（専門的知識） 分類法に基づく分類作業の方法について最低限の説明ができる。（専門的知識） 目録と分類記号による情報資源検索の方法について最低限の説明ができる。（専門的知識） 目録項目表に基づく件名作業の方法について最低限の説明ができる。（専門的知識） ネットワーク情報資源のメタデータ作成の方法について最低限の説明ができる。（専門的知識）
情報資源組織論演習A	文芸学部 その他資格 関連科目	2	1	情報資源組織論で得た知識に基づき、主題分類法の方と技術を習得することを目的とする。日本の標準分類法である「日本十進分類法(NDC)」の構造および適用法について、演習を通して理解することを目指す。合わせて「基本件名目録表(BSH)」と件名作業の実践についても理解を深めるようにする。	「日本十進分類法(NDC)」の本表および相関索引を使用した基本的な分類記号付与に加え、応用的な分類記号付与ができる。（専門的知識・分析力） 「日本十進分類法(NDC)」の補助表を体系的に理解し、様々な分類記号付与の場面に適用できる。（専門的知識・分析力） 「基本件名目録表(BSH)」のしくみを理解し、基本的な件名作業に加え、応用的な件名作業ができる。（専門的知識・分析力）	「日本十進分類法(NDC)」の本表および相関索引を使用した基本的な分類記号付与ができる。（専門的知識） 「日本十進分類法(NDC)」の補助表についておよびよく理解し、指示された分類記号付与の場面に適用できる。（専門的知識） 「基本件名目録表(BSH)」のしくみを理解し、基本的な件名作業ができる。（専門的知識）
情報資源組織論演習B	文芸学部 その他資格 関連科目	3	1	情報資源組織論の理解に基づき、「日本目録規則(NCR)」による目録作成演習をおこない、目録規則を実践的に理解することを目的とする。メタデータの作成などを通してネットワーク情報資源の組織化の現状を理解する。さらに図書館の情報資源組織の仕組みを理解するとともに、書誌データベースの構造を知ることを目指す。演習では「日本目録規則(NCR)」を使用し、情報資源は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記述法等の作成演習を行い、適切な目録記入作業の技術を得る。また、大規模書誌作成機関が集中的に目録作業を行った結果を利用して自らの目録を作成することが一般的になってきている。そうした目録情報の効果と目録作業への適用についても学ぶ。	「日本目録規則(NCR)」に基づく基本的な記述の作成に加え、応用的な記述の作成ができる。（専門的知識・分析力） 典拠に基づく基本的な目録選定に加え、応用的な目録選定ができる。（専門的知識・分析力） ネットワーク情報資源のメタデータ作成の基礎を構築したうえで、メタデータ作成ができる。（専門的知識・分析力） 集中目録のしくみを深く理解し、所在情報入力を行うことができ、応用的なメタデータ・修正ができる。（専門的知識）	「日本目録規則(NCR)」に基づく基本的な記述の作成ができる。（専門的知識） 典拠に基づく基本的な目録選定ができる。（専門的知識） ネットワーク情報資源のメタデータ作成の基礎を理解し、最低限の説明ができる。（専門的知識） 集中目録のしくみを理解し、所在情報入力を行うことができ、基本的なメタデータ・修正ができる。（専門的知識）
図書館基礎概論	文芸学部 その他資格 関連科目	3	2	「生涯学習概論」「図書館概論」「図書館情報技術論」「図書館制度・経営論」は特に図書館司書課程の中でも基礎部分を作成する重要な必修科目である。本科目ではこれら4科目で学ぶ内容のうち、いくつかの話題に絞ってさらに深く学ぶ。変化の早い分野であるので、ここ5～10年以内の話題をとりあげる予定である。	授業で採り上げる以下のいずれかについて深く理解し、それを他者に説明でき、それについて有効な意見を述べることができる。（専門的知識・論理的思考力） 図書館における情報技術に関すること 図書館の運営に関すること 図書館の歴史に関すること 図書館と社会との関係に関すること	授業で採り上げる以下のいずれかについて最低限の説明ができる。（専門的知識） 図書館における情報技術に関すること 図書館の運営に関すること 図書館の歴史と社会との関係に関すること

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
図書館サービス特論	文芸学部 その他資格 関連科目	3	2	図書館司書は、情報とそれを必要とする利用者との橋渡しをする。そのためには利用者との会話をする能力が必要である。本科目では、伝えたいことを相手にわかりやすく伝える方法や相手の話を聞き取る方法を理解する方法について論ずる。さらに本科目では、印刷物から始まるメディアの発展をコミュニケーションの進化ととらえ、その発展過程を論ずるとともに、特に大学図書館に関わりの深い「学術情報」（論文等）の生産から利用に至るまでの過程をコミュニケーションと考え、近年特に変化の激しいその過程を解説する。	レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法を深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法を深く理解し、それを実践できる。（専門的知識） メディアの発展を網羅的かつ体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 学術情報の生産・流通・利用のサイクルについて網羅的かつ体系的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 学術情報流通の分野の現状と問題を的確に把握し、それを他者に説明できる。（専門的知識）	レファレンスサービスにおける図書館利用者とのやりとりの様々な方法について最低限の説明ができる。（専門的知識） 公共図書館における課題解決支援サービスについて最低限の説明ができる。（専門的知識）
図書館情報資源特論	文芸学部 その他資格 関連科目	3	2	特殊資料としての専門資料と一般資料と対比して解説し、専門資料の捉え方、評価、利用方法について解説する。図書館資料の中で特に文献の書籍構造に注目し、文献次款（1次文獻、2次文獻、3次文獻）と書籍構造との相関関係から専門資料を理解する方法をいくつかの専門分野を例に論じ、その知識が全ての分野へ応用可能であることを示す。これにより、専門資料および専門的知識のどのようにレファレンスサービスに応用されているかを習得する。また、インターネット上にある専門資料に関してもその特徴と役割、印刷物との相違等について解説する。	専門資料の概念および概要について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 多くの専門分野における専門資料の実例とその利用のされかたについて深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 2次文獻、3次文獻が何であるかを理解し、それをどのように図書館活動に活かすことができるのかを深く理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） インターネット上の専門資料について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（専門的知識） 自ら専門資料を探索し、それをレファレンスサービスに活用することができる。（専門的知識）	専門資料の概念および概要について最低限の説明ができる。（専門的知識） いくつかの専門分野における専門資料の実例とその利用のされかたについて最低限の説明ができる。（専門的知識） 2次文獻、3次文獻が何であるかを理解し、それをどのように図書館活動に活かすことができるのかについて最低限の説明ができる。（専門的知識） インターネット上の専門資料について最低限の説明ができる。（専門的知識）
図書館実習	文芸学部 その他資格 関連科目	4	1	司書課程科目の履修も最終段階に入り、基礎的な知識を得たことを前提に、図書館における実務を体験する。情報社会、生涯学習社会における図書館の実務は、教室での授業だけでは完全に理解できるものではなく、図書館の現場でないと学べないこともある。実際の図書館現場における実務やサービスの現状を体験することにより、今までに学んだ内容をさらに深く、司書としての実践的能力を身に付けることを目標とする。実習先の図書館には、原則として身近な公共図書館を選び、約2週間の実習を行う。実習は、各自が進捗実習希望先と交渉し許可を得るところから始まる。実習の準備段階、図書館での実習体験を通して、社会人としての基本的なマナーを習得することも重要である。実習に先立って、これまでに学んだことを踏まえ、実際の図書館現場での心構えや具体的対応を中心に講義を行う。	これまで司書課程の各科目で学んできた知識を網羅的かつ体系的に理解し、それを他者に説明できる。これまで司書課程の各科目で学んできた技能を網羅的かつ体系的に理解し、それを実践できる。実習先で与えられた様々な業務について、自ら考えて技能を適用して処理することができる。社会人としてのマナーを深く理解し、図書館職員や利用者に対処することができる。	これまで司書課程の各科目で学んできた基本的な知識を理解し、それを他者に説明できる。これまで司書課程の各科目で学んできた基本的な技能を理解し、それを実践できる。実習先で与えられた様々な業務について、指示されたとおりに処理することができる。社会人としての基本的なマナーを理解し、図書館職員や利用者に対処することができる。